草加市
子ども読書活動推進計画

平成３０年度－平成３５年度

草加市教育委員会

はじめに

近年のデジタル情報が溢れる社会環境のなか、子どもの読書活動において、活字離れ、読書離れが指摘されております。

子どもの読書活動は、言葉や表現方法を学ぶだけでなく、判断力や想像力を身に付けることができ、人生を豊かにより良く生きる力を育んでいくためにも欠かすことのできないものです。

読書で培われた生きる力は、将来を自ら切り開き、開拓していくための活力の源にもなります。

また、子どものときに読んだ本が、その後の生き方に影響を及ぼした記憶をもつ方もいらっしゃるのではないでしょうか。

平成１３年に制定された子どもの読書活動の推進に関する法律は、子どもの読書活動の推進に向けて取り組むべきものとして、国及び地方公共団体の責務を明らかにし、併せて子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、もって子どもの健やかな成長に資することを目的としています。

第二次草加市教育振興基本計画の基本理念では、「生きる力を共に教え育てる草加の教育」を掲げ、さらに、学ぶ力を伸ばし、心豊かな児童生徒の育成に向け、読書活動の推進に取り組むこととしております。

草加市教育委員会としても、この草加市子ども読書活動推進計画の展開により、子どもの読書活動を横断的かつ包含的に推進する体制を整備し、基本理念として掲げる「草加で育つ子どもたちが、いつまでも心に残る本との出会いを通して、『生きる力』を身に付けること」を目指してまいります。

そのためには、学校、家庭、地域などの関係者や関係機関との連携、協力が不可欠でございますので、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成３０年３月

草加市教育委員会

教育長　　髙　木　宏　幸

目次

はじめに

第１章　計画の基本的事項

１　計画策定の経緯及び位置付け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
２　計画の策定手続　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
３　計画の対象　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
４　計画の期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
５　計画の進捗管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

第２章　子どもの読書を取り巻く環境の変化と課題

１　少子高齢化・高度情報化社会の進展と家庭・地域社会の変化　・　4
２　子どもの読書活動推進に関する国・県の動向　・・・・・・・・・　5

第３章　草加市における子どもの読書活動推進の現状と課題

１　子どもの読書活動の現状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
２　子どもの読書活動に関する取組の現状　・・・・・・・・・・・・・　11
３　子どもの読書活動推進の課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

第４章　草加市の子ども読書活動推進の目指す姿

１　基本理念　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
２　基本方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
３　施策の体系　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

第５章　施策の展開

基本方針１　家庭・地域・学校において、子どもが読書に親しむ環境を充実させます。

■施策１－１　家庭及び地域における読書の機会の充実　・・・・　22
■施策１－２　学校における読書の機会の充実　・・・・・・・・・　25

基本方針２　子どもの読書活動に関する啓発・広報を推進します。

■施策２　「子ども読書の日」「読書週間」を中心とした読書の啓発の促進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28

基本方針３　子どもが読書に親しむための推進体制を構築します。
■施策３－１　関係者間の情報の共有化と図書館ネットワークの充実
・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
■施策３－２　市民ボランティア・地域との連携の推進　・・・・　31

第６章　目標とする指標
１　活動指標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
２　成果指標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

資料編

●草加市子どもの読書アンケート調査結果　・・・・・・・・・・・・・　38

●子どもの読書活動の推進に関する法律　・・・・・・・・・・・・・・　94

●草加市子ども読書活動推進計画検討委員会設置要綱　・・・・・・・　96

●策定経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　98

パパと一緒のティータイム読み聞かせ
児童館

第１章　計画の基本的事項

１　計画策定の経緯及び位置付け

今日の日本は、急速に進む少子高齢化と核家族化、高度情報化、グローバル化、さらに東日本大震災をはじめとする各地における大災害の発生など、社会全体が大きく変化しており、従来の経験則だけではもはや対応が難しい社会となっています。さらに情報技術の革新等により、近未来は社会の仕組みがこれまで以上に加速度的に変革していくことが予測されています。

したがって、これからの社会を担う子どもたちには、優れた判断力や感性を備え、想像力の豊かな一個人として、確固たる自己を確立していくことが求められているといえます。

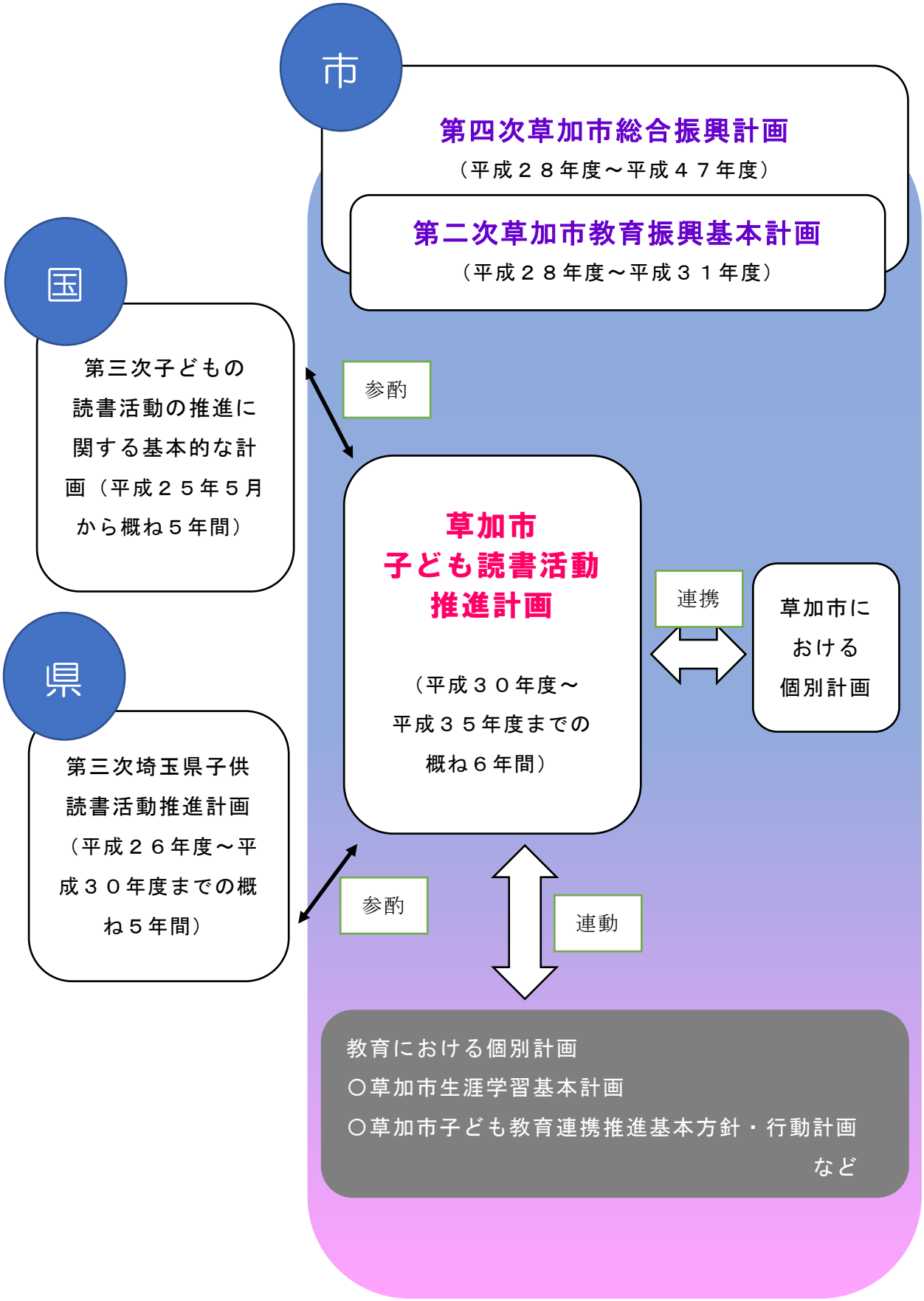
ところで、子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きていく力を身に付ける上で欠くことの出来ないものであり、子どもの人格形成や自己の確立に大きな影響を及ぼすものです。子どもの読書活動について、社会全体で積極的にそのための環境整備を推進していくことは極めて重要です。

しかし、近年の子どもを取り巻く環境は、携帯端末やインターネット等のデジタル情報やゲーム端末の普及等により、活字離れ、読書離れが指摘されており、読書に親しむ環境を整備していく必要があります。

そこで、国は、平成１３年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成１３年法律第１５４号、以下「法」という。）を制定し、第２条の基本理念において「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」との姿勢を明確に示し、社会全体で子どもの読書活動を推進していく意思を示しました。

本市では、多くの場において絵本の読み聞かせが盛んに行われ、全市的に定着しているなど、これまでも子どもが読書に親しむ環境づくりが行われており、一定の成果を上げてきました。今後、各主体が個別に事業を進めるのではなく、本市として子どもの読書活動に関する施策を体系化し、総合的かつ計画的に推進するため、草加市子ども読書活動推進計画を策定しました。

なお、本計画は、第四次草加市総合振興計画及び第二次草加市教育振興基本計画を上位計画とし、国の第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画及び第三次埼玉県子供読書活動推進計画を参酌して策定しています。


市
第四次草加市総合振興計画
（平成２８年度～平成４７年度）
第二次草加市教育振興基本計画
（平成２８年度～平成３１年度）
国
第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（平成２５年５月から概ね５年間）
参酌
草加市子ども読書活動推進計画
（平成３０年度～平成３５年度までの概ね６年間）
連携
草加市における個別計画
県
第三次埼玉県子供読書活動推進計画（平成２６年度～平成３０年度までの概ね５年間）
参酌
連動
教育における個別計画
○草加市生涯学習基本計画
○草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画
など

２　計画の策定手続

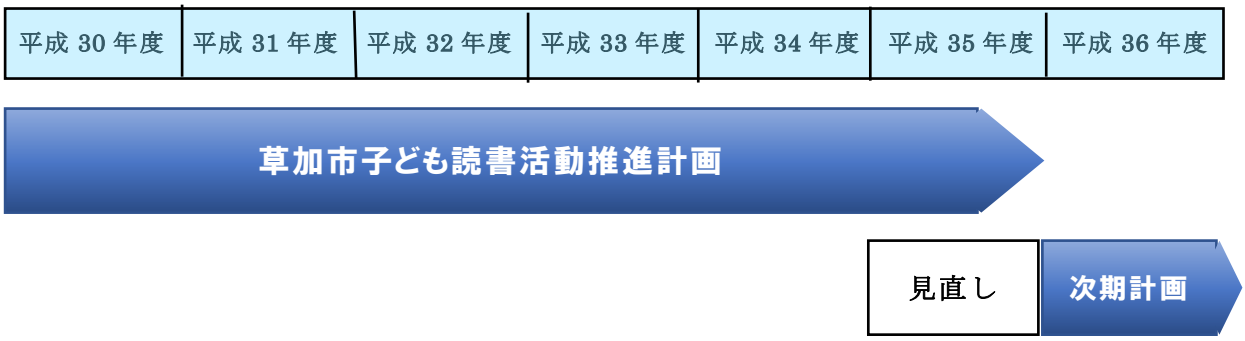
本計画の策定に当たり、子どもの読書活動に関わる各機関、各団体に意見を伺い、反映させました。また、パブリックコメント等を通じ、広く市民の皆様からの意見を盛り込みました。

３　計画の対象

本計画においては、子どもはおおむね１８歳以下とします。対象は子ども及び子どもの読書活動に関わる大人とします。

４　計画の期間

本計画の対象期間は、第四次草加市総合振興基本計画との整合性を図るため、平成３０年度から平成３５年度までの概ね６年間とします。



５　計画の進捗管理

本計画の進捗状況を管理していくため、毎年度庁内関係部署による報告を求め、結果を公表します。必要に応じ、施策の修正等を行いながら、計画の実現を図っていきます。

第2章　子どもの読書を取り巻く環境の変化と課題

１　少子高齢化・高度情報化社会の進展と家庭・地域社会の変化

本計画の計画期間における本市の総人口は、平成３０年の２４８,５６６人から平成３４年の２５０,０７０人をピークに、平成３５年の２５０,０４２人へと減少に転じるものと推計されます。その中で、１８歳までの子どもの人口もゆるやかに減少に転じると予測されています。（**※注釈１**）

また、インターネット等のＩＣＴ（**※注釈２**）の飛躍的な発達により、スマートフォン等のハードやオンラインゲーム、ＳＮＳ等のソフトの普及が進み、大人だけでなく、子どもの活字離れ、読書離れが進んでいます。

読書は、子どもの読解力や想像力、思考力、表現力等を養い、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる知的好奇心や真理を求める態度の習得に役立ちます。したがって、読書を通して、子どもは自ら考え、自ら行動し、主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身に付けることが可能となります。しかしながら、街の書店が目に見えて無くなっている現状に見られるように、読書離れは社会全体の問題となっています。

地域社会のみならず、広く日本や世界の将来を担うのは、まさしく「人」です。少子化の進行が続き、雑多な情報が溢れ、地域社会の繋がりの希薄化や家庭における親子の時間の確保が困難な社会の現状を踏まえると、次の世代を担う子どもたち一人ひとりが、「情報を取捨選択・統合し、自らの考えを整理し対策や行動を企画し、実行することができる」、自立した「人材」たりうる社会をつくっていく必要があります。読書活動の推進が、次の世代の担い手を育てるための有効な手段の一つとして期待されるところであり、社会全体で取り組んでいくことが求められています。

※注釈１：草加市の総人口予測は、平成２９年４月１日の住民基本台帳を基に、コーホート要因法にて推計しています。

※注釈２：コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術のこと。

２　子どもの読書活動推進に関する国・県の動向

子どもの読書を取り巻く環境の変化は、過去においても指摘されていました。そこで国は、子どもの読書離れを次世代育成の大きな課題と位置付け、子どもの読書活動の推進について国をあげて支援するため、平成１２年を「子ども読書年」と定め、平成１３年１２月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布施行しました。同法において、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する施策を積極的に行うことによって、子どもの健やかな成長に資することを目的としています。また、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが読書活動に対し意欲を高めるよう、４月２３日を「子ども読書の日」と定めました。

同法に基づき、平成１４年８月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第一次）」を策定し、子どもの読書活動の基本的方向と具体的な施策が示されました。また、平成１７年７月には、「文字・活字文化振興法」（平成１７年法律第９１号）を制定し、特に学校教育における読む力、書く力及び言語力の涵養（かんよう）（**※注釈３**）への配慮が規定されました。

埼玉県においては、国の計画に基づき、平成１６年３月に「埼玉県子供読書活動推進計画（第一次）」を策定し、子どもの読書活動の推進に関する総合的かつ体系的な施策が示されました。

その後、国民読書年の取り組み（平成２２年）、言語活動の充実を図る新しい学習指導要領の全面実施（平成２３年度以降）、社会の変化に対応する図書館運営の方向を示す国の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改定（平成２４年１２月）がありました。これまでの取り組みを踏まえて、国は平成２５年３月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」を、埼玉県は平成２６年７月に「埼玉県子供読書活動推進計画（第三次）」をそれぞれ策定し、子どもの読書活動の更なる推進が示されました。

※注釈３：水が浸み込んでいくように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。

第3章　草加市における子どもの読書活動推進の現状と課題

１　子どもの読書活動の現状

子どもたちの読書に関する実態を把握するため、平成２９年４月から５月にアンケート調査を実施しました。小学校３年生と５年生、中学校２年生、高校２年生の子ども及び保育園・幼稚園の保護者、小学校５年生の保護者を対象に、各校・各学年おおむね１クラスずつ実施しました。そのアンケート調査の結果分析からわかった傾向について、ここに記します。

分析手法には、学年ごとの回答者の合計回答率で比較する手法（以下**【合計分析】**と記載）、問１の読書に関する好意度調査で「好き」と「どちらかと言えば好き」の回答者（**Ｐ群＝ｐｏｓｉｔｉｖｅポジティブ回答群**）、「どちらかと言えば嫌い」と「嫌い」の回答者（**Ｎ群＝ｎｅｇａｔｉｖｅネガティブ回答群**）の２群に分けて、問２以降の回答率の傾向差を分析する手法（**以下【Ｐ／Ｎの比較】**と記載）とを組み合わせました。さらに、小学校５年生の調査では、保護者と子どもの相関について分析する手法（以下**【クロス集計】と記載**）を行うことで、子どもの読書活動の現状について詳細なリサーチを行いました。

各設問に関するデータの詳細につきましては、Ｐ３７以降の資料編をご覧ください。

■子どもへのアンケート調査より

１）読書が好きな子どもの比率が約８割を占める。中学生・高校生になっても、その割合の低下はゆるやかである。

【Ｐ３９・問１より】

２）　就学前に家族に本を読んでもらっている子どもは、７～８割である。読書好きな小学生は、読書が嫌いな小学生と比べて、就学前に家族に本を読んでもらっている割合が高い。

【Ｐ４１・問３より】【Ｐ５８・問３より】

３）子どもの約３割は、図書館、公民館・文化センターなどの公共施設で行われている読み聞かせ等へ参加している。その中で、読書が好きな子どもは嫌いな子どもよりも参加している。

【Ｐ４２・問４より】【Ｐ５９・問４より】

４）子どもは、読みたい本を本屋で知る比率が最多である。さらに、小学生は図書館や学校で、中学生・高校生はインターネットで知る比率が高い。

【Ｐ４５・問７より】

５）子どもは、学年が上がるほど読書量が減少する。特に、中学生・高校生の減少が著しい。また、読書が好きな子どもと、そうでない子どもの読書量の差は大きい。

【Ｐ４６・問８より】【Ｐ５９・問８より】

６）子どもが本を読む理由は、「楽しいから」が最多である。また、小学生では学習のための手段として、中学生・高校生では余暇や趣味として楽しむために読む傾向がある。さらに、読書好きな子どもほど、楽しいから読む傾向が一層強い。

【Ｐ４８・問１０より】【Ｐ６０・問１０より】

７）子どもは、本を買ったり、家にあった本を読むことが多い。さらに、小学生は図書館や学校で借りる比率が高いが、中学生・高校生になるとその比率が半減する。また、読書好きな子どもは図書館で借りる比率が高く、読書がきらいな子どもは家にある本を読んでいる比率が高い。そんな中で、Ｎ群の小学生がＰ群以上に公民館・文化センターで借りている。

【Ｐ４９・問１１より】【Ｐ６０・問１１より】

８）子どもの約４割が、読んでみて良かったと思える本とまだ出会えていない。読書好きの子どものうち約３割が、読書嫌いの子どものうち約６割が、そんな本と出会えていない。

【Ｐ５１・問１３より】【Ｐ６１・問１３より】

９）電子書籍を読んだことがある草加の子どもは約２割であり、そのうちのほとんどが１か月に５冊以内である。

【Ｐ５２・問１４より】

１０）ビブリオバトル（**※注釈４**）の普及率は、まだまだ低い。そのような中でも、ビブリオバトルを経験した子どものほとんどが、紹介された本に対し何らかの行動を起こそうとしている。

【Ｐ５３・問１５より】【Ｐ５４・問１６より】【Ｐ６２・問１６より】

１１）子どもは、各学年共に「読みたくなるような本がたくさんあれば」「読みたい本をうまくさがせたら」もっと本を読むようになると考えており、この傾向は読書が好きな子どもに顕著である。

【Ｐ５５・問１７より】【Ｐ６３・問１７より】

１２）中学生・高校生の約８割が、中央図書館のＹＡコーナー（**※注釈５**）の存在を知らない。

【Ｐ５６・問１８より】

高校生によるビブリオバトル

１０代で読んでおきたい本がそろう
中央図書館ＹＡコーナー

※注釈４：ビブリオバトルとは、複数の参加者が競う本紹介のゲームのこと。参加者が読んで面白いと思った本を１冊ずつ持ち寄り、１人ずつ指定の時間でその本を紹介し合い、最後に一番読みたいと思った本を参加者全員で選出する。なお、ビブリオバトルには掲示物（ＰＯＰ等）で本を紹介し合う方式もある。

※注釈５：ＹＡコーナーとは、草加市立中央図書館３階一般室にある、ヤングアダルト（＝中学生・高校生）向きの本を取りそろえたコーナーのこと。

■保護者へのアンケート調査より

１）読書が好きな保護者が約８割を占めており、子どもと同様の傾向にある。
【Ｐ６４・問１より】

２）９割以上の保護者が家庭で子どもへの読み聞かせを行っており、良好な読書環境がうかがえる。しかし、詳細を見てみると、保育園・幼稚園の保護者は、小学５年生の保護者がかつて子どもが就学前だったときに比べて、読み聞かせの頻度が少ない。また、読書が好きな保護者と嫌いな保護者の間においても、読み聞かせの頻度に大きな差があり、読書に対する保護者の好意度が子どもの読み聞かせの機会に影響している。
【Ｐ６６・問３より】【Ｐ６７・問４より】【Ｐ８５・問４より】

３）読み聞かせの時間は、日中遊んでいるときと寝る前が多い。
【Ｐ７０・問７より】

４）読書が好きな保護者ほど、園や学校で紹介のあった本を実際に読み聞かせに活用している。
【Ｐ７１・問８より】【Ｐ８７・問８より】

５）新聞の購読は、読書が好きな保護者の家庭でも半数に満たない。若い家庭における購読率の低下が著しく、新聞離れが進んでいる。
【Ｐ７７・問１４より】【Ｐ８８・問１４より】

６）電子書籍（**※注釈６**）と子どもたちの読書に関する保護者の考えについて、電子書籍に抵抗感のない回答は約２割である。子どもの読書は紙の本を薦めたい保護者が８割を占めている。
【Ｐ７８・問１５より】【Ｐ８８・問１５より】

７）子どもがもっと本を読むために、「子どもが読みたい本をうまく探せたら」良いと考えている保護者が多い。
【Ｐ８１・問１７より】

※注釈６：電子書籍とは、紙を媒体とした本ではなく、パソコン、タブレット、スマートフォン等の電子機器のモニターを通して読む本のこと。

■保護者とその子どもへのアンケート調査より

１）読書が好きな保護者のいる家庭では、おおむね読書が好きな子どもが育つ傾向がある。

【Ｐ８９・小学５年生の保護者問１と小学生問１間でクロス集計より】

２）読書が好きな子どもを育むには、読み聞かせをいつ始めても効果が見込まれる。また、１日の中で、いつ行なっても効果がある。

【Ｐ９２・小学５年生の保護者問５と小学生問１間でクロス集計より】

【Ｐ９３・小学５年生の保護者問７と小学生問１間でクロス集計より】

お母さんと一緒の読み聞かせのひとときは、子どもにとってかけがえのない時間です

選書に迷ったら
おすすめ絵本からどうぞ
公民館図書室

２　子どもの読書活動に関する取組の現状

子どもの読書活動に関する取組について、平成２９年１０月現在に把握している事業の中から主なものを記載しました。

１）中央図書館における取組

① **【読み聞かせ（おはなし会）・講習会】**　市民ボランティアの協力により、乳幼児、児童、小学生とその親を対象に、絵本の読み聞かせやわらべうた、手遊びなどを週４回行い、不定期的に小学生や大人を対象とした読み聞かせやブックトーク（**※注釈７**）を実施しています。さらに、読み聞かせに関わる市民のスキルアップのための「読み聞かせ講習会」を開催しています。

② **【ブックリストの配布】**　保護者や子どもを対象に、触れてもらいたいおすすめ本の情報紙を作成し、館内各コーナーやイベント等で配布しています。「赤ちゃんにも絵本を！」「じどうしつだより」「図書館職員のおすすめ本（小学校１・２年生用、３・４年生用、５・６年生用）」「Ya－Room.com（中学生・高校生用）」等を随時配布しています。

③ **【読書マラソン】**　２００冊の読書記録を書いたら賞状やプレゼントがもらえる「読書マラソン」を実施しています。

④ **【中央図書館サービスコーナー】**　市内２１小学校の余裕教室等へ中央図書館の蔵書を設置し、２週間に一度図書館職員が各校を巡回することにより、それらの蔵書を活用したクラス毎の団体貸出し等のサービスを提供しています。

⑤ **【地域開放型図書室】**　西町小学校、川柳小学校及び高砂小学校の３小学校図書館へ中央図書館の蔵書を設置し、毎週日曜日に図書館職員が出向いて、地域の子どもや保護者等へ本の貸出・返却等のサービスを提供しています。

⑥ **【調べ学習支援（団体貸出）】**　小学生・中学校を対象に、授業のテーマに沿った本をまとめて貸出ししたり、高校生を対象に、レポート課題のテーマに沿った本のブックリストを作成し、調べ学習に適応した支援を随時行っています。さらに、それらのテーマに適したレファレンス（**※注釈８**）に応じています。

※注釈７：ブックトークとは、あるテーマに従って、複数のお勧めする本の内容等を紹介すること。

※注釈８：レファレンスとは、利用者が知りたい本や情報について、膨大な本やデータベース等から探す、調べ物に関する支援サービスのこと。

⑦ **【各種文化事業】**　絵本や物語の世界を子どもにわかりやすく表現した「人形劇」「影絵劇」、映画の上映「こども映画会」、落語家による絵本の読み聞かせと子ども向けの落語「夏の図書館寄席」、親子で楽しめる簡単な工作「工作会」、おすすめの本を子どもたちが紹介し合い、紹介された本をコーナー展示する「ビブリオバトル・草加の陣」など、市民団体等の協力により、一年を通してさまざまなイベントを実施しています。

２）保育園・幼稚園等における取組

■保育園における取組

① **【絵本などの配架】**　各園５００～８００冊の絵本、図鑑、紙芝居等を配架し、読み聞かせや子どもたちが自由に手に取って見られるようにしています。（全保育園）

② **【読み聞かせ】**　各園では、発達段階に応じた絵本や紙芝居の読み聞かせを日常的に行っています。また、地域のボランティアが来園し、読み聞かせを行っている園もあります。

③ **【貸し出し】**　園によっては、絵本の貸し出しを行っています。

■幼稚園等における取組

① **【絵本などの配架】**　各園多数の絵本、図鑑、紙芝居等を配架し、読み聞かせや子どもたちが自由に手に取って見られるようにしています。(全幼稚園等)

② **【読み聞かせ】**　各園では、発達段階に応じた絵本や紙芝居の読み聞かせを日常的に行っています。また、地域のボランティアや保護者が来園し、読み聞かせを行っている園もあります。

３）学校における取組

■小学校・中学校、さらに乳幼児からの縦断的な取組

① **【学校司書の配置】**　小学校・中学校全校へ学校司書を配置し、児童生徒の図書館利用の充実を図っています。(小学校・中学校全校)

② **【各種研修】**　小学校・中学校教諭（含む学校司書）に対し、学校図書館教育や読書活動推進に関する研修会を実施し、情報の共有化や読書活動に関する各種の技能の向上を図っています。

③ **【子ども教育連携推進事業】**　「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子を育むための指針として「目指す『草加っ子』(草加市幼保小中教育指針)」を策定し、幼児期に取り組んでほしい事項として、絵本などを通して文字や絵に親しむ活動を挙げています。さらに、幼児期の教育や就学準備、家庭教育における「本とのふれあい」「読み聞かせ」「読書」の重要性について、リーフレット等による啓発を行っています。

■**小学校における取組**

① **【朝読書・読書タイム】**　毎週特定の曜日の朝や休み時間に、全校一斉に読書を行っています。

② **【学級文庫】**　全小学校で２週間に１回開設している中央図書館サービスコーナーや学校図書館の利用により、全ての小学校で学級文庫が設置されています。

③ **【読書月間】**　多くの小学校で１０月や１１月に読書月間を設け、朝会等でのおすすめする本の紹介や図書委員会等の発表、読書ビンゴ（**※注釈９**）や読書スタンプ等を行い、読書活動の推進に取り組んでいます。

④ **【読み聞かせ】**　多くの小学校では、地域のボランティアや図書委員会による読み聞かせ、ブックトーク、パネルシアター（**※注釈１０**）等を実施しています。さらに、一部の小学校では、平成塾の高齢者等による読み聞かせを定期的に行っています。

⑤ **【図書館見学】**　多くの小学校では、生活科の授業の一環で２年生全クラスによる中央図書館の見学を実施し、館のしくみや読書の楽しさについて学んでいます。

⑥ **【その他】**　本の紹介や感想を貼り付ける「読書の木」(**※注釈１１**)の設置、多読者の表彰や紹介、ビブリオバトルの実施、教員選書の選定や教科書に出てくる本の各学年配本、おすすめする本のプレゼン・クイズや親子読書におすすめの本紹介、図書新聞や図書室だよりの発行、卒業制作に豊田三郎や草加の民話などの版画作成、ＰＯＰや表紙帯の作成による本紹介等、各校が独自の企画でさまざまな事業を実施しています。

※注釈９：読書ビンゴとは、読んだ本のタイトルやタイトル数でビンゴ台紙の列をそろえる、ゲームの要素を取り入れた読書推進活動のこと。

※注釈１０：パネルシアターとは、布を貼ったパネルへ文字や絵を脱着しながら展開する、おはなしやゲームのこと。

※注釈１１：読書の木とは、おすすめしたい本の紹介や感想を葉っぱの形の紙へ書いて、木の幹を模した掲示物へ貼り足していくもの。

■中学校における取組

①【朝読書】　毎週特定の曜日の朝や休み時間に、全校一斉読書を行っています。毎日行っている学校もあります。

②【学級文庫】　学校図書館の利用により、全ての中学校で学級文庫が設置されています。

③【社会体験事業（３ｄａｙｓチャレンジ)】 生徒が市内の事業所や公共施設等において、３日間程度の社会体験事業を行う３ｄａｙｓチャレンジの実施場所として中央図書館で行い、図書館業務を学んでいる学校があります。

④【その他】　ＰＯＰによるビブリオバトル、夏休みや冬休みの学校図書館開放、読書週間の周知強化、図書委員会による新刊紹介や図書購入リクエストカードの作成等を実施しています。

■高校における取組

①　図書委員による「草加図書だより」を毎月発行し、学校図書館の新着本について専用コーナーを設置し紹介している学校があります。

②　全学年の国語科必修科目において、授業の冒頭の１０分間を読書の時間として充当し、全生徒が読書を行っている学校があります。

③　ある学校では、１年生全員を対象にビブリオバトルを実施し、代表者が県大会へ出場しています。また、読書週間には、１、２年生が朝読書を行いました。図書館を使った授業にも取り組み、遠足・修学旅行の事前学習や、各教科の調べ物学習のための支援図書委員の企画により、本クイズ、おすすめする本の紹介、ブックカバーやしおりの製作などの構成で、文化祭や東部Ｓ（草加、八潮、三郷）地区図書委員研修交流会へ参加しています。

④　英語の多読用図書を各クラスへ常設し、朝学習や授業の時間に約１０分間の読書を行っている学校があります。

４）その他の施設における取組

■子育て支援センターにおける取組

①【絵本等の配架】　待合室へ絵本や図鑑を配架しています。

②【つどいの広場「ろけっと」】　親子を対象とした遊びの場事業において、定期的に絵本の読み聞かせを実施しています。

■児童館・児童センター、放課後子ども教室、放課後児童クラブにおける取組

① 【児童館・児童センター】　各施設へ絵本や児童書の配架を行うと共に、乳幼児と保護者を対象とした読み聞かせを行っています。(全児童館・児童センター)

② 【放課後子ども教室】(※注釈１２)　学校の施設を利用して子どもたちの安心・安全な居場所を設ける事業の活動場所として、学校図書館を利用している教室もあります。

③ 【放課後児童クラブ】(※注釈１３)　各施設へ本の配架を行っています。(全児童クラブ)、

■公民館・文化センターにおける取組

① 【読み聞かせ】　親子を対象とした絵本の読み聞かせ、紙芝居、わらべうた等を楽しむ「読み聞かせ」事業を、各館の工夫により実施している施設があります。

② 【子育てサロン】　育児中の親子が集まり、体操、工作、読み聞かせ等で交流を深めながら、子育てについて話し合う催しを実施している施設があります。

親子で集う読み聞かせ
子育て支援センター

※注釈１２：放課後子ども教室とは、放課後や学校休業日に小学校の施設を利用し、地域の協力を得ながら開設している、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所のこと。

※注釈１３：放課後児童クラブとは、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後及び学校長期休業期間の生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行う事業のこと。

３　子どもの読書活動推進の課題

１）　全体的な課題

○　子どもの約４割のうち、読書が好きな子どもの約３割が、嫌いな子どもの約５割が、読んでみて良かったと思える本とまだ出会えていません。

○　子どもの読書活動を推進するため、中央図書館、保育園・幼稚園、小学校・中学校・高校、公民館・文化センター、児童館・児童センター、子育て支援センター等の各施設、子どもの読書活動に関わる関係部署及び各市民団体の間で、情報の共有を図り交流を深めることが必要です。

○　中央図書館、中央図書館サービスコーナー（以下「サービスコーナー」という。)、公民館・文化センター、児童館・児童センター等の施設やコーナーの蔵書について、適宜更新・入れ替え等のメンテナンスが必要です。

２）　読み聞かせに関する課題

○　保育園・幼稚園の保護者は、小学５年生の保護者がかつて子どもが就学前だったときに比べて、読み聞かせの頻度が少ない傾向にあります。

○　就学前に家族に本を読んでもらっていない草加の子どもが、約２割～３割存在しています。

○　図書館、公民館・文化センターなどの公共施設で行われている読み聞かせ等へ参加したことがある子どもが約３割にとどまっています。

○　読み聞かせは、さまざまな施設や団体で行われています。その効果を一層高めるために、読み聞かせの能力向上のための講習会・勉強会を定期的に開催する必要があります。

３）保護者の読書に対する好意度から生じる子どもの読書環境について

○　読書が好きな保護者のいる家庭では、幼少時は読書が好きな子どもが育つ傾向があり、また読書が大切と思う保護者のいる家庭では、子どもはその考えの影響を受けるため、そのような家庭環境をつくっていく必要があります。

○　読書が好きな保護者と嫌いな保護者では、子どもに対する読み聞かせの頻度に大きな差があります。
○　読み聞かせのきっかけとして、読書が好きな保護者が明確な意志を持って始めているのに対し、読書が嫌いな保護者は、子どもに読み聞かせをせがまれたりして始めている様子がうかがえます。
○　読書が嫌いな保護者は、読書が好きな保護者と比べて、保育園・幼稚園や学校で紹介のあった本を実際に読み聞かせに活用することが少ないです。

４）子どもが本を読まない理由とその解消について

○　各学年の子どもに多い、本を読まない理由は「読みたい本がない」です。
○　読者が好きな子どもが公共施設の本を読まない理由としては、「行く時間がないから」「読みたい本が置いていないから」が多いです。
○　読書が好きな子どもが望んでいる、「読みたくなる本がたくさんあれば」「読みたい本をうまく探せたら」に適した対策が必要です。
※　「子どもが読みたい本をうまく探せたら」は、子どもがもっと本を読むために、多くの保護者が望んでいます。
○　読書が嫌いな子どもが望んでいる、『学校で「読書の時間」や「読書ビンゴ」のような目標があれば』に適した対策が必要です。
○　読書活動推進のための有効なツールとして、ビブリオバトルの活用が望まれます。

５）中学生・高校生のＹＡ（ヤング・アダルト）世代に関する課題

○　その割合は少ないものの、高学年になるほど読書が嫌いな子どもが増加しています。
○　中学生・高校生は、館内閲覧、貸出、読みたい本の情報入手のいずれにおいても、図書館や学校図書館を利用する機会が少ないです。
○　中学生・高校生は、小学生と比べて読書量の減少が著しいです。
○　中学生・高校生の約８割が、中央図書館のＹＡコーナーの存在を知らないため、同コーナーのＰＲが必要です。

６）障がいのある子どもや、日本語の使用が不自由な子どもへの読書の推進について

○　中央図書館では、「図書館ボランティア草加」（略称Ｌ．Ｖ．Ｓ．）（**※注釈１４**）の協力により、布絵本（**※注釈１５**）の製作を行い、活用されていますが、点数に限りがあります。また、他市図書館との相互貸借によりデイジー（音訳図書）（**※注釈１６**）の貸し出しも行っていますが、子どもの利用に関する周知が充分ではありません。

○　中央図書館では、外国籍の子どもに対し、「図書館ボランティア草加」の協力により日本語の読み書き等を指導し、日本語の絵本や児童書が読めるよう支援していますが、ニーズに対しボランティアが不足しています。

７）その他

○　保護者の読書量は総じて少なく、そのほとんどが子どもよりも少ないです。１か月の読書量について、読書が嫌いな保護者の最多回答が０冊であり、読書が好きな保護者においても１～２冊が最多です。

○　保護者が公共施設等の本を利用しない理由としては、「時間がないから」と「遠いから」が多いです。

○　新聞の購読について、読書が好きな保護者の家庭でも半数に満たないです。若い家庭における購読率の低下が著しく、新聞離れが進んでいます。

○　一方で、インターネットの普及により、若年層からスマートフォンなどのデジタル機器の使用が広がりつつあります。電子書籍による読書率が約２割に留まっていますが、この分野に対する調査研究が必要です。

※注釈１４：図書館ボランティア草加とは、中央図書館を拠点にブックサポート、音訳サポート、キッズサポート、布絵本、にほんごひろば、広報の部会に分かれて図書館業務を支援しているボランティア団体。平成１２年３月設立。

※注釈１５：布絵本とは、布地やフェルト・マジックテープ・ボタンなどを用いて作られた立体的な絵本のこと。はずす・はめる・ひっぱるなどの機能訓練が可能であり、聴覚・触覚・手足の運動・情緒などさまざまな障がいのある子どもたちのためにつくられている。

※注釈１６：デイジーとは、視覚に障がいがあり通常の本を読むことが困難な方のために作られたデジタル録音図書のこと。ＣＤで作られる場合が多い。

第4章　草加市の子ども読書活動推進の目指す姿

１　基本理念

国は、子どもの読書活動を推進していく上での基本理念として、法第２条において、「子ども（おおむね１８歳以下の者を言う。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」として示しています。

世の中には、実にたくさんの本が出版されています。子どもたち一人ひとりが、いつまでも心に残る、生涯で最良と思える書物と出会えたら、きっと素晴らしい読書体験になるに違いありません。そのために大人達は、そんなお手伝いができるよう、全力で応援する必要があります。

また、国が学習指導要領において、子どもたちの「生きる力（**※注釈１７**）」を育むことを目指しているとともに、本計画の上位計画として位置づける第二次草加市教育振興基本計画において、草加の全ての教育について「生きる力を共に教え育てる草加の教育」を基本理念として、さまざまな施策を展開しています。

以上のことをかんがみ、アンケート結果を踏まえて、本計画における基本理念を次のとおり設定します。

■基本理念

草加で育つすべての子どもたちが、

いつまでも心に残る本との出会いを通して、

「生きる力」を身に付けることを目指します。

※注釈１７：生きる力とは、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力のこと。

２　基本方針

以上の基本理念を踏まえ、本市の基本方針を次のとおり設定します。

基本方針1
家庭・地域・学校において、子どもが読書に親しむ環境を充実させます。

すべての子どもが読書に親しみ、心に残る本と巡り会えるように、まずは家庭、地域社会、学校などのあらゆる場における読書環境の充実を図ります。

基本方針2
子どもの読書活動に関する啓発・広報を推進します。

あらゆる機会を活用して、子どもの読書活動に関する各種の情報を幅広く発信することにより、その活動の啓発と広報に注力します。

基本方針3
子どもが読書に親しむための推進体制を構築します。

家庭、地域社会、学校、児童関係施設、図書館など子どもの読書活動に関わるあらゆる主体が相互に連携・協力できる体制をつくることにより、全市をあげて理念の実現を目指します。

１歳児の絵本とのふれあい
保育園

３　施策の体系

■基本理念

草加で育つすべての子どもたちが、
いつまでも心に残る本との出会いを通して、
「生きる力」を身に付けることを目指します。

基本方針１

家庭・地域・学校において、子どもが読書に親しむ環境を充実させます。

施策１－１
家庭及び地域における読書の機会の充実

【主な取組】
◇読み聞かせの機会の充実
◇読み聞かせの技能向上の支援
◇家庭における読み聞かせの支援や読書の大切さの啓発
◇子どもの読書活動に関わる施設、団体、地域文庫等への貸出支援
◇中央図書館、サービスコーナー、公民館・文化センター、児童館・児童センター、放課後児童クラブ等の蔵書及び施設の整備
◇読書が嫌いな子どもへ「読書の楽しさ」を働きかけ
◇電子書籍への対応に関する検討

施策１－２
学校における読書の機会の充実

【主な取組】
◇学校図書館の環境の充実
◇読書をする時間の確実な確保
◇各種研修の充実
◇調べ学習に対する連携
◇中学生・高校生に対する読書活動推進の強化

基本方針２

子どもの読書活動に関する啓発・広報を推進します。

施策２
「子ども読書の日」「読書週間」を中心とした読書の啓発の促進

【主な取組】
◇「子ども読書の日」「読書週間」の推進
◇子どもの読書推進に関する情報の通年発信

基本方針３

子どもが読書に親しむための推進体制を構築します。

施策３－１
関係者間の情報の共有化と図書館ネットワークの充実

【主な取組】
◇情報共有の充実
◇図書館ネットワークの充実

施策３－２
市民ボランティア・地域との連携の推進

【主な取組】
◇市民ボランティア・地域との連携による、読書の機会の創出
◇障がいのある子ども、日本語の不自由な子どもに対し、読書の機会を創出

第５章　施策の展開

基本方針1
家庭・地域・学校において、子どもが読書に親しむ環境を充実させます。

■施策１-1　家庭及び地域における読書の機会の充実

【現状と課題】

法の第６条において、保護者の役割として「子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。」と規定されています。

子どもが生まれて初めて本と接する機会の多くは、乳幼児期における家庭での絵本の読み聞かせからです。また、草加市子どもの読書アンケートの結果から、家庭での読み聞かせは子どもが読書に親しみ、習慣化することに大きな役割を担っていることが明らかになっています。

また、保育園・幼稚園等では、年齢別に、発達段階に応じた絵本や紙芝居の読み聞かせを日常的に行い、子どもたちが絵本を自由に手に取って見られる環境づくりを行っています。中央図書館では通年で週に４回、子育て支援センターでは週に５回、一部の公民館・文化センターでは月に１回のイベントとして、親子を対象とした絵本や紙芝居の読み聞かせ等を幅広く実施しています。児童館・児童センターでは、読み聞かせ、パネルシアター、人形劇などを施設ごとの頻度で行っています。

このように、読み聞かせ活動は、親子で参加できる機会が多数存在しており、全市的な広がりをもって展開されています。

さらに中央図書館では、はじめての本の選び方や発達に合わせた子どもの読書活動に関する保護者からの相談やレファレンスに応じ、赤ちゃん用、小学校学年別用、中学校・高校生用のおすすめする本を紹介するブックリスト等を配布し、家庭における子どもの読書支援を日常的に行っています。

今後も、子どもが乳幼児期からできるだけたくさんの本と接することができるよう、地域ぐるみで親子を対象とした読み聞かせを行いながら、読み聞かせの方法や選書の手本を示して家庭における読み聞かせを推進するとともに、読み聞かせの機会が少ない家庭への働きかけを強化していく必要があります。

また、インターネットの普及により、スマートフォンなどのデジタル機器の使用が広がりつつあります。電子書籍に対する取組について、調査・研究を行っていく必要があります。

【施策の方向】

草加市子どもの読書アンケートの分析結果から、保護者が読書について好意的な場合は、その子どもも読書が好きになり、読書に親しむ環境が自然につくられる傾向が顕著なことから、特に保護者に対する働きかけを行っていきます。

共働き家庭やひとり親家庭等で、読み聞かせ等の時間の確保が難しい家庭に対し、気軽に読書に親しめる支援を行います。

また、各地域で読み聞かせに従事している市民団体や各施設の職員等に対し、その能力向上のための支援を行います。

【主な取組】

◇読み聞かせの機会の充実

○　読み聞かせの楽しさを親子で体験し、家庭における読み聞かせの定着を図るため、乳幼児とその保護者を対象とした絵本などの読み聞かせを実施します。　[担当：中央図書館、保育園・幼稚園等、子育て支援センター、児童館・児童センター、放課後児童クラブ、公民館・文化センター]

○　小学生や大人を対象とした読み聞かせを実施し、多様な年代に対し読書の楽しさ、素晴らしさを伝えます。　[担当：中央図書館]

○　本の選び方や提供方法など、子どもの発達段階に合わせた保護者や団体からの相談・レファレンスに応じ、家庭や地域における子どもの読書活動を支援します。また、子どもの発達段階に応じたおすすめする本のブックリストを作成し、選書に悩む家庭や団体を支援するとともに、共働き家庭やひとり親家庭などの忙しい家庭に対し、関係窓口を通して情報提供を行います。[担当：中央図書館、保育園・幼稚園等、子育て支援課]

◇読み聞かせの技能向上の支援

○　読み聞かせなどに従事しているボランティア等の各団体や一般市民を対象とした「読み聞かせ講習会」を開催し、市民の読み聞かせの技能向上や研究のための機会を創出します。　[担当：中央図書館]

◇家庭における読み聞かせの支援や読書の大切さの啓発

○　埼玉県は第三次子供読書活動推進計画において、乳幼児と本を結びつけるきっかけとなる「ブックスタート事業（※注釈１８）」等の取組について、平

※注釈１８：ブックスタート事業とは、保護者が乳児へ絵本の読み聞かせを始めるにあたり、必要とされる技能や絵本の選び方等を伝える事業。絵本をプレゼントする場合もある。

成３０年度の実施市町村が１００％となることを目標に掲げています。また、草加市子どもの読書アンケートから、ブックスタート事業の実施を望む保護者も少なくないことや、保護者が読書に好意的なら、子どもに良い読書環境を与えるという傾向も現われています。

本市においては、保健センターで実施している母子保健事業などにより、乳幼児のいる家庭に対し、絵本を通じた親子のふれあいや乳幼児期からの読み聞かせの大切さを伝えていきます。　[担当：中央図書館、保健センター、保育園・幼稚園等]

◇子どもの読書活動に関わる施設、団体、地域文庫等への貸出支援

○　長期にわたって多くの冊数の貸し出しが可能な団体貸出制度の周知を強化し、団体貸出登録団体を増やします。団体貸出による蔵書の提供や推薦したい本の情報を提示することにより、児童館・児童センター、児童クラブ、地域の市民団体、地域文庫等の地域で子どもの読書活動に関わる各主体を支援します。　[担当：中央図書館]

◇中央図書館、サービスコーナー、公民館・文化センター、児童館・児童センター、放課後児童クラブ等の蔵書及び施設の整備

○　各施設の絵本や児童書の新陳代謝を進め、最寄りの施設に読みたい本がある環境を整えます。特に、中央図書館と公民館・文化センターにおいて、読み聞かせに適した絵本や紙芝居の配架を進めるとともに、大人が対象の蔵書の新陳代謝も行い、親と子双方の読書活動を促します。[担当：中央図書館、中央図書館サービスコーナー、公民館・文化センター、児童館・児童センター、放課後児童クラブ]

○　各施設の空調、エレベーター、照明、机・椅子、書架・ラック、案内表示等の適正な維持管理を行い、快適で安全な住空間を確保します。さらに、季節の飾り付けや本を目立たせるＰＯＰ・スタンド等を有効活用し、親子で気軽に立ち寄れる環境を整備することにより、繰り返しの来館を促進します。[担当：中央図書館、公民館・文化センター、児童館・児童センター、放課後児童クラブ]

◇読書が嫌いな子どもへ「読書の楽しさ」を働きかけ

○　草加市子どもの読書アンケートから、読書の嫌いな子どもが読書の好きな子どもよりも利用している傾向が見られた公民館・文化センターへ、子どもに人気のあるシリーズ本などをコーナー配架し、楽しいＰＯＰやブックリス

ト等のディスプレイと共に目立つ展示を行い、読書の楽しさを訴えていきます。さらに、本に関する相談や読み聞かせ等の実施について検討していきます。
［ 担当：中央図書館、公民館・文化センター ］

◇電子書籍への対応に関する検討

○　社会のデジタル化の進展に伴い、電子書籍に関する取組について、検討を行っていきます。　　［ 担当：中央図書館 ］

■施策 1-2　学校における読書の機会の充実

【現状と課題】

小学校・中学校においては、各教科の基本となる読書を重視した取組が行われています。

各教科の調べ学習では、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動の場として学校図書館を活用しています。

全ての小学校・中学校に司書教諭、学校司書を配置し児童生徒の図書館利用の充実を図るとともに、朝読書などの読書タイムを定期的に設けて読書の習慣化に取り組んでいます。

小学校には学級文庫の設置が推進され、地域のボランティアの協力による読み聞かせやブックトークが行われるなど本に触れる機会の創出に努めています。さらに、小学校・中学校の中には読書ビンゴやビブリオバトルの開催、図書新聞や図書室だよりの発行等、様々な取組が行われています。

高校では、学校図書館の新着本についての専門コーナーの設置や全校一斉の読書タイム、ビブリオバトルの開催等を行っています。

しかしながら、草加市子ども読書アンケートの分析結果では、小学校高学年になるほど本を手にする機会が減少する傾向にあり、また、小学生に比べて中学生・高校生の読書量の著しい減少が見られます。

今後は、児童生徒一人ひとりが本に親しめるような効果的な取組の実施と、本に親しむ態度を系統立てて育んでいく必要があります。

【施策の方向】

中学生・高校生の読書量の著しい減少傾向が見られることから、小学校で育んだ読書に親しむ態度を中学校以降にも引き続き育んでいけるよう、学校図書館の環境の充実や読書をする時間の確保など本を手にする環境整備の充実に努

めます。

【主な取組】

◇学校図書館の環境の充実　［ 担当：小学校・中学校・高校、指導課等 ］

○　十進分類法だけでなく、レファレンス等で調べ方を知る機会を設けます。

○　購入図書の選定をする際は、児童生徒や担任にアンケートをとり、実態に基づいた購入を推進します。

○　学校図書館の設備・備品の更新を図り、「快適な学習環境づくり」に努めます。

○　英語の多読用図書の整備など、他教科との関連を図り、学校図書館図書の充実に努めます。

◇読書をする時間の確実な確保　［ 担当：小学校・中学校、指導課 ］

○　現在、全小学校・中学校で行っている毎週特定の曜日の朝や休み時間における全校一斉読書を継続して行っていきます。

○　小学校高学年以降は、自主学習等で読書の時間を設定し、本に親しむ機会を多く設けることができるよう働きかけます。

○　小学校・中学校においては、図書委員会による本の紹介やビブリオバトルの開催などの自主的な取組を推進し、本に親しむ機会の充実を図ります。

◇各種研修の充実　［ 担当：小学校・中学校、指導課 ］

○　司書教諭や学校司書を対象とした研修を行い、学校図書館のより有効な運営及び活用が図れるようにしていきます。

○　学校指導訪問において読書活動の取組についての指導・助言を行っていきます。

○　学校図書館教育について実践報告会や報告書の作成を毎年行い、学校の情報共有を行います。

◇調べ学習に対する連携　［ 担当：高校、中央図書館 ］

○　高校等が独自に行う調べ学習に対し、中央図書館が調べ物のテーマに即したブックリスト等を作成し、本の検索支援を行います。

◇中学生・高校生に対する読書活動推進の強化　［ 担当：中央図書館、中学校・高校、指導課 ］

○　中央図書館ＹＡコーナーにおいて、本の配架をより充実し、ディスプレイ

を工夫します。また、中学校・高校へＹＡコーナーのチラシや情報紙を配付するなど同コーナーのＰＲを通して、中学生・高校生の読書に対する動機付けを強化します。

手書きのＰＯＰで新着本をＰＲ
小学校

全校で取り組む朝読書
中学校

生徒自作の絵本で読み聞かせ
高校

基本方針2
子どもの読書活動に関する啓発・広報を推進します。

■施策２「子ども読書の日」「読書週間」を中心とした読書の啓発の促進

【現状と課題】

現在、学校においては、１１月３日前後の２週間に及ぶ「読書週間」に合わせて、その時期の生活目標を「本をたくさん読みます」にしたり、読書ビンゴ等の取組をしたりしています。また、全校朝会で図書委員会がおすすめする本を紹介したり、学校図書館でも先生方のおすすめする本をＰＯＰ等で紹介したりするなどの啓発を行っています。しかしながら、国が「子どもの読書活動の推進に関する法律」の主旨に従い制定した４月２３日の「子ども読書の日」については取組が十分に行えていないのが現状です。

中央図書館や公民館・文化センター、児童館等においては、ＰＯＰやブックリスト等でディスプレイを行い、本に興味をもってもらうような取組やイベントの開催等、通年において読書活動の啓発を行っているものの、「子ども読書の日」「読書週間」に合わせた取り組みはまだ一部に限られています。

「読書週間」の普及をさらに広め、「子ども読書の日」の啓発を通して、読書の推進に取り組む必要があります。

【施策の方向】

「子ども読書の日」「読書週間」の時期に合わせて、ビブリオバトルや本紹介のＰＯＰ作成等、読書の啓発に有効な事業を全市的に実施し、子どもが本と出会う機会を創出します。また、「子ども読書の日」「読書週間」を中心に、市内で行われている子どもの読書推進に関する各種の取組について、関係機関のホームページや広報誌を通して市民へ情報発信していきます。

【主な取組】

◇「子ども読書の日」「読書週間」の推進

○　「子ども読書の日」「読書週間」に合わせて、中央図書館、小学校・中学校・高校を中心に各施設、各団体は読書の普及啓発のための取組を推進します。
［ 担当：中央図書館、小学校・中学校・高校等 ］

○　中央図書館において、「子ども読書の日」を中心に子どもへおすすめする本の特設コーナーを開設する等の取組を行います。また、「読書週間」に合わせ

てビブリオバトル等の開催を検討し、子どもが主体的に本を紹介する機会を創出していきます。　［ 担当：中央図書館 ］

○　「子ども読書の日」や「読書週間」の取組を一覧表にして、どこで、どのようなことが行われているか明確にしていきます。また、市、中央図書館、マイステージ（草加市生涯学習情報提供サイト）、そうか子育て応援・情報提供サイトぼっくるん等の関係機関のホームページ及び広報そうかへ掲載すると共に、チラシ等を各公共施設へ配置し、取組を幅広く周知していきます。［ 担当：中央図書館、生涯学習課、子育て支援センター ］

◇子どもの読書推進に関する情報の通年発信

○　子どもの読書推進を進めている機関、団体に関する情報を収集し、市、中央図書館、マイステージ、そうか子育て応援・情報提供サイトぼっくるん等の関係機関のホームページ及び広報そうかへ随時掲載し、取組を幅広く周知していきます。　［ 担当：中央図書館、生涯学習課、子育て支援センター ］

○　本計画の確実な推進のため、基本理念や施策等に関する情報を発信し、計画の周知を図ります。　［ 担当：中央図書館ほか関係各課・施設 ］

おすすめの絵本を手書きＰＯＰで紹介
保育園

目立つ展示で本をおすすめ
中学校

基本方針3
子どもが読書に親しむための推進体制を構築します。

■施策３-1　関係者間の情報の共有化と図書館ネットワークの充実

【現状と課題】

これまで述べてきたように、行政、学校、施設、団体等が子どもの読書に関わる多種多様な取組を行っているにもかかわらず、情報の共有や連携が不十分であることから、市民への周知が効果的に行われていません。多様な主体が連携し、活動を一体的に取り組んだり、相互に周知していく必要があります。

また、中央図書館においては、市内に中央図書館の機能を拡充するため、公民館・文化センター、地域開放型図書室、小学校全校へサービスコーナーを設置し、相互に本の取り寄せ、貸出、返却ができる図書館ネットワークを運営しています。しかしながら、各施設の蔵書の質と量が十分でないこと、提供できるサービスや時間に制約があること等により、読書活動の推進に地域間格差が生じています。

【施策の方向】

学校、施設、団体等の間で、読書活動の推進に関する情報を共有し、成果について確認し合うための機会を設けます。

また、相互の蔵書の貸出、返却等を可能にしている中央図書館と公民館・文化センター、地域開放型図書室、サービスコーナーにおいて、子どもに対する図書館サービスを強化し、本との出会いの機会を創出します。

【主な取組】

◇情報共有の充実

○　中央図書館、保育園・幼稚園等、小学校・中学校・高校、施設、団体の間で、読書活動の推進に関する情報を共有し、成果について確認し合うための機会を設けます。

○　小学校・中学校・高校、施設の取組が共有できるよう、校内共有パソコン、インターネットを活用していきます。　［ 担当：中央図書館、小学校・中学校・高校、指導課 ］

○　学校で発行している学校図書館だより等に、中央図書館や施設の取組に関する案内を掲載し、その周知を図ります。　［ 担当：中央図書館、小学校・中学校・高校、指導課 ］

◇図書館ネットワークの充実

○　中央図書館と図書館ネットワークを構築している公民館・文化センター図書室、地域開放型図書室、サービスコーナーにおいて、おすすめする本のブックリストの配置、読み聞かせの実施等、子どもに対する図書館サービスの充実を図ります。　［ 担当：中央図書館、小学校、公民館・文化センター ］

○　サービスコーナーの蔵書と小学校図書館の蔵書が有効に補完し合えるように、中央図書館と小学校の間でそれぞれが購入し配架する本について協議していきます。　［ 担当：中央図書館、小学校 ］

■施策３-２　市民ボランティア・地域との連携の推進

【現状と課題】

子育て支援センターや一部の保育園・幼稚園等、小学校では、ボランティア等地域住民の協力により絵本や紙芝居の読み聞かせやブックトーク等が実施されています。また、中央図書館においては、平成１２年の館の開設以来、「図書館ボランティア草加」をはじめとする市民の協力により、広報、読み聞かせ、ブックトーク、布絵本の作成、本の貸出しのための装丁作業、本返却時の配架、日本語の不自由な子どもに対する学習・読書支援、図書館体験等のイベント、講演会、講座、ギャラリー展示等幅広い活動が行われてきました。

子どもの読書活動の一層の推進のためには、市民ボランティアや地域との連携が欠かせません。特に、障がいのある子どもや日本語の不自由な子どもが対象の場合には、市民ボランティアの協力が必要です。

市民ボランティアや地域との連携をさらに強化するとともに、その活動の持続と活性化のために、さまざまな支援を行っていく必要があります。

【施策の方向】

子どもの読書活動に従事している市民ボランティアや地域との連携を強化するとともに、その活動に対し幅広く支援し、障がいのある子どもや日本語の不自由な子どもを含む全ての子どもが本と出会う機会を創出していきます。

【主な取組】

◇市民ボランティア・地域との連携による、読書の機会の創出

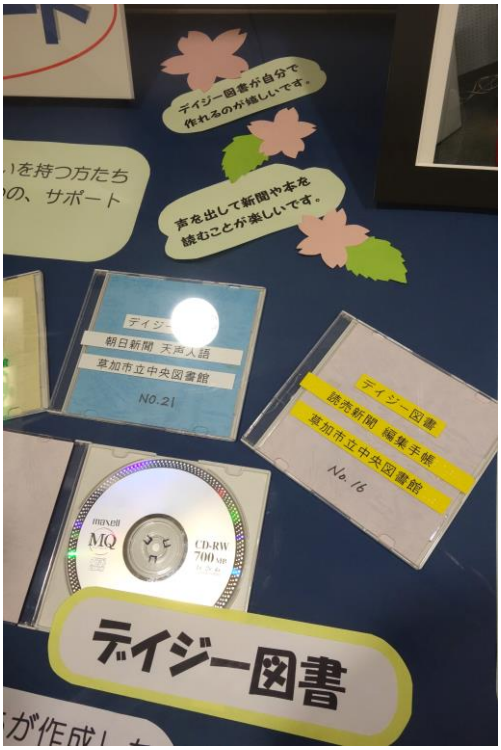
○　「図書館ボランティア草加」をはじめとする市民ボランティアや地域との

連携をさらに強化するとともに、活動の場所の提供、広報活動支援等を行います。　［ 担当：中央図書館、小学校、公民館・文化センター、児童館・児童センター、子育て支援センター ］

○　市民ボランティア等に対し、読み聞かせ等のスキルアップの機会を提供します。　［ 担当：中央図書館 ］

◇障がいのある子ども、日本語の不自由な子どもに対し、読書の機会を創出

○　視覚障がいのある子どもや日本語の不自由な子どもに対し、市民ボランティアの協力により読書の機会を提供します。　［ 担当：中央図書館 ］



中央図書館では、ボランティアの協力によりデイジー（音訳図書・左写真）及び布絵本（下写真）の作成を行っています。

第6章　目標とする指標

1　活動指標

施　策	指　標	平成29年度 実績値 (　)は見込値	平成35年度 目標値
1－1　家庭及び地域における読書の機会の充実	**① 公共施設における親子を対象とした読み聞かせの実施回数**		
	●合計	(848回)	900回
	●内訳　・中央図書館	(272回)	
	・児童館・児童センター	(272回)	
	・子育て支援センター	(192回)	
	・公民館・文化センター	(112回)	
	② 公共施設児童書・YA(ヤング・アダルト)本貸出冊数		
	●合計	(475,316冊)	490,000冊
	●内訳　・中央図書館児童書(含むサービスコーナー、地域開放型図書室)	(372,305冊)	
	・中央図書館YA本(児童書除く)	(35,108冊)	
	・公民館・文化センター児童書	(67,903冊)	
1－2　学校における読書の機会の充実	**③ 朝や休み時間における読書タイムを実施している学校数**		
	●合計	(32)	32
	●内訳　・小学校	(21)	
	・中学校	(11)	
	④ 学校図書館貸出冊数		
	●合計	(247,319冊)	270,000冊
	●内訳　・21小学校合計貸出冊数	(203,381冊)	
	・11中学校合計貸出冊数	(27,438冊)	
	・4高校合計貸出冊数	(16,500冊)	

施　策	指　標	平成29年度 実績値 (　)は見込値	平成35年度 目標値
2　「子ども読書の日」「読書週間」を中心とした読書の啓発の促進	**⑤「子ども読書の日」「読書週間」にちなんだ取組数** ●合計 ●内訳　・中央図書館 ・小学校・中学校・高校 ・児童館・児童センター ・公民館・文化センター	 (40) (4) (36) (0) (0)	 80

施　策	指　標	平成29年度 実績値 (　)は見込値	平成35年度 目標値
3－1　関係者間の情報の共有化と図書館ネットワークの充実	**⑥ 子どもの読書に関する取組について情報の共有が図られた庁内部署・施設・学校・団体の総数**	(20)	100
3－2　市民ボランティア・地域との連携の推進	**⑦ 市民ボランティア・地域と連携した子どもの読書に関する取組数** ●合計 ●内訳　・中央図書館 ・小学校 ・保育園・幼稚園等＊ ・児童館・児童センター ・子育て支援センター ・公民館・文化センター	 (73) (12) (21) (23) (3) (1) (13)	 100

＊印箇所の保育園・幼稚園等につきましては、平成２９年４月から５月に草加市子どもの読書アンケート調査を実施した８園（Ｐ３８参照）に限定しています。

２ 成果指標

子どもの読書活動の推進のために掲げたＰ１９の基本理念の実現に向け、第５章に掲げた施策及び取組について、関係者と連携しながら推進していきます。

なお、基本理念の実現に関する進捗管理のための指標として、

① 読書が「好き」「どちらかと言えば好き」の回答を合わせた比率の増加

② １ヶ月に読む本が「０冊」の回答率の低減

③ 読んでよかった本があるとの回答率の増加

の３点に集約し、これを本計画の成果指標として定めました。

３つの指標は、子ども及び保護者へアンケートを実施し確認してまいります。

3つの成果指標

指　標			平成29年度 実績値 (　)は見込値	平成35年度 目標値
① 読書が「好き」「どちらかと言えば好き」の回答を合わせた比率				
◆子ども	●合計		82 %	90 %
	●内訳	・小学校3年生	87 %	
		・小学校5年生	88 %	
		・中学校2年生	77 %	
		・高校2年生	78 %	
◆保護者	●合計		38 %	41 %
	●内訳	・保育園・幼稚園等	39 %	
		・小学校5年生	34 %	
② 1か月に読む本が「0冊」の回答率（不読率）				
◆子ども	●合計		15 %	10 %
	●内訳	・小学校3年生	3 %	
		・小学校5年生	9 %	
		・中学校2年生	17 %	
		・高校2年生	36 %	
◆保護者	●合計		43 %	33 %
	●内訳	・保育園・幼稚園等	43 %	
		・小学校5年生	42 %	

指　標	平成29年度 実績値 (　)は見込値	平成35年度 目標値
③「読んでよかった本がある」の回答率		
●合計	63　%	70　%
●内訳　・小学校３年生	67　%	
・小学校５年生	72　%	
・中学校２年生	58　%	
・高校２年生	58　%	

絵本と紙芝居が
いっぱい
中央図書館児童室

読み聞かせはじまるよ
児童館

資　料　編

●草加市子どもの読書アンケート調査結果

１） 調査概要

① 調査目的

草加市子ども読書活動推進計画を策定するにあたり、市内における子どもたちの読書に関する実態を把握するため、アンケート調査を実施しました。

② 調査対象

ブロック（ＰＴＡ連合会規約のブロック割りによる）	保育園 ●保護者（年長組中心に）	小学校 ●３年生 ●５年生 ●５年生保護者	中学校 ●２年生
南部	にっさとの森（民間）	谷塚	谷塚
中部	にしまち（公立）	草加	草加
松原	こやま（公立）	栄	栄
北東部	草加にじいろ（民間）	川柳	川柳
新田西部	しんぜん（公立）	長栄	新栄

幼稚園等 ●保護者（年長組中心に）
谷塚おざわ
草加みどり
清門

高校 ●２年生
草加
草加西
草加東
草加南

③ 調査方法：各園・各校の協力により各校・各学年ほぼ１クラスずつ配布・回収

④ 調査期間：平成２９年４月２４日～５月２５日

⑤ 回収状況

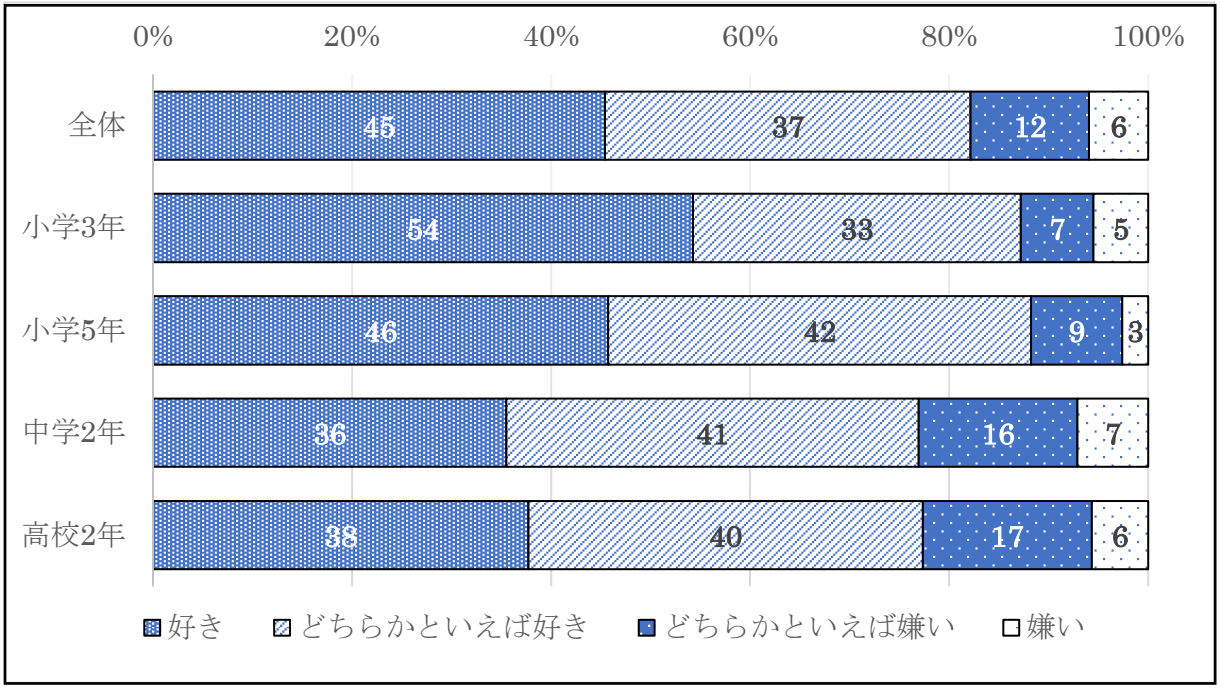
区　分	配布数（人）	回収数（人）	回収率（%）
小学校３年生・５年生	３５３	３１９	90.4
中学校２年生	１７５	１７０	97.1
高校２年生	１６１	１６１	100.0
保育園・幼稚園等保護者	５１３	３４３	66.9
小学校５年生保護者	１８５	１５４	83.2
合　　計	１，３８７	１，１４７	82.7

２）－１　小学生・中学生・高校生調査の結果【合計分析】

問１　あなたは本を読むことが好きですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分	① 好き	② どちらかといえば好き	③ どちらかといえば嫌い	④ 嫌い
全　体	４５	３７	１２	6
小学３年生	５４	３３	7	5
小学５年生	４６	４２	9	3
中学２年生	３６	４１	１６	7
高校２年生	３８	４０	１７	6



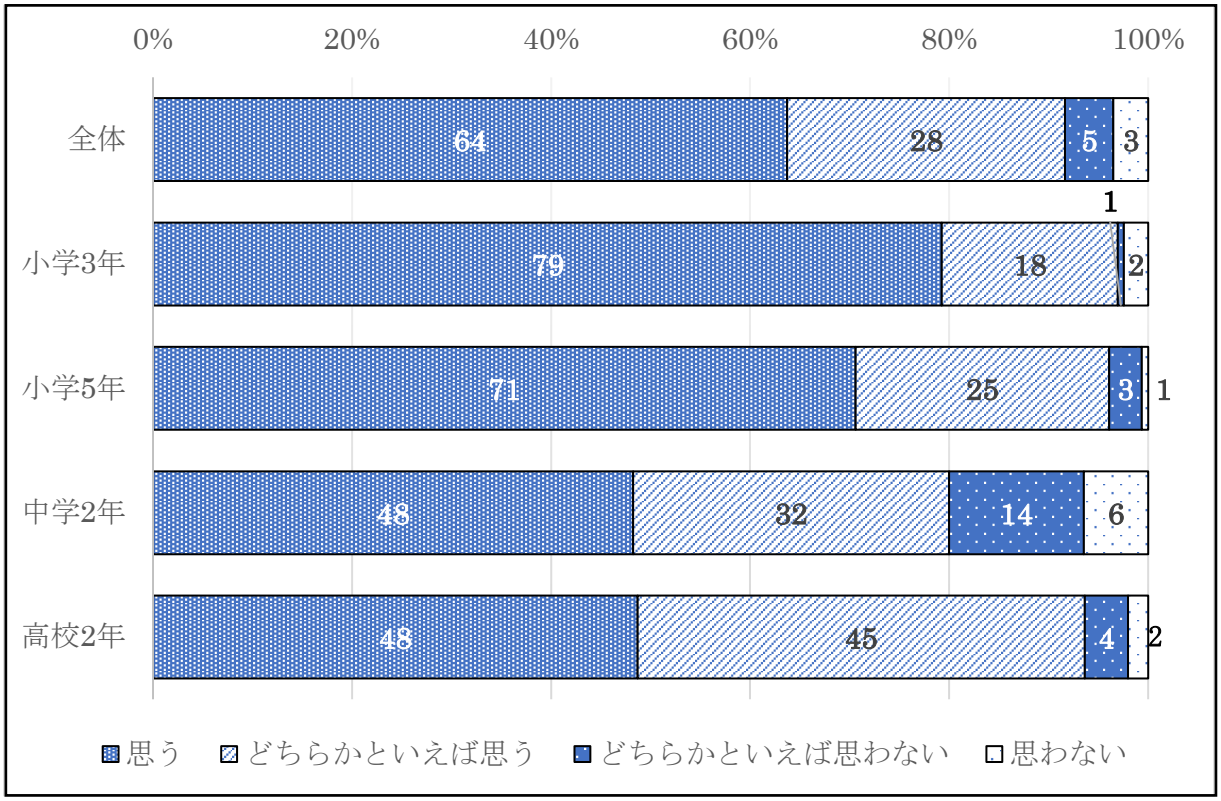
本を読むことに対し、「好き」の回答率（**※注釈１９**）は、学年が高くなるほど低くなる傾向が見られる。しかし、「どちらかといえば好き」と合わせたポジティブ回答で比較すると、小学３年生８７％、高校２年生７８％であり、大きく低下せずに約８割の子どもがポジティブ回答という高い比率を保っている。また、「嫌い」の回答率は、小学３年生５％、高校２年生６％であり、ほとんど増えていない。

※注釈１９：草加市子どもの読書アンケート調査の集計結果について、Ｐ３９からＰ９３の選択肢ごとの回答率を小数点第１位で四捨五入して算出しており、全選択肢の回答率の合計が必ずしも１００％とはなっていない。

問２　あなたは本を読むことは大切だと思いますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分	①思う	②どちらかといえばそう思う	③どちらかといえばそう思わない	④思わない
全　体	６４	２８	５	３
小学３年生	７９	１８	１	２
小学５年生	７１	２５	３	１
中学２年生	４８	３２	１４	６
高校２年生	４８	４５	４	２

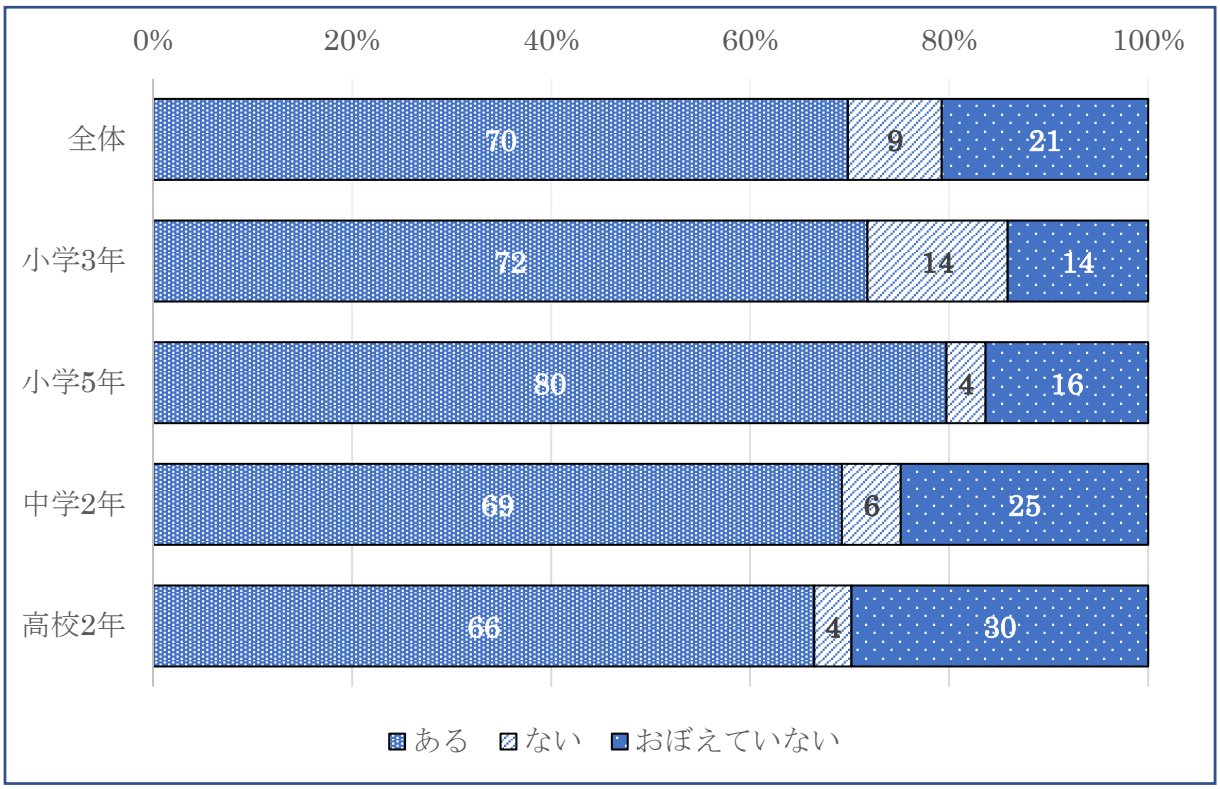


本を読むことは大切かとの問いに対し、「思う」の回答率は、学年が高くなるほど低くなる傾向が見られるが、「どちらかといえばそう思う」と合わせたポジティブ回答で比較すると、小学３年生９７％、高校２年生９３％であり、大幅に減少せずに好回答のまま推移している。また、「思わない」の回答率は、小学３年生２％、高校２年生２％であり、中学２年生で瞬間的に６％へ上がってはいるものの、大きな増加はない。

問３　あなたが小学校に入る前に、家の人に本を読んでもらったことがありますか。（１つ選択）

（単位％）

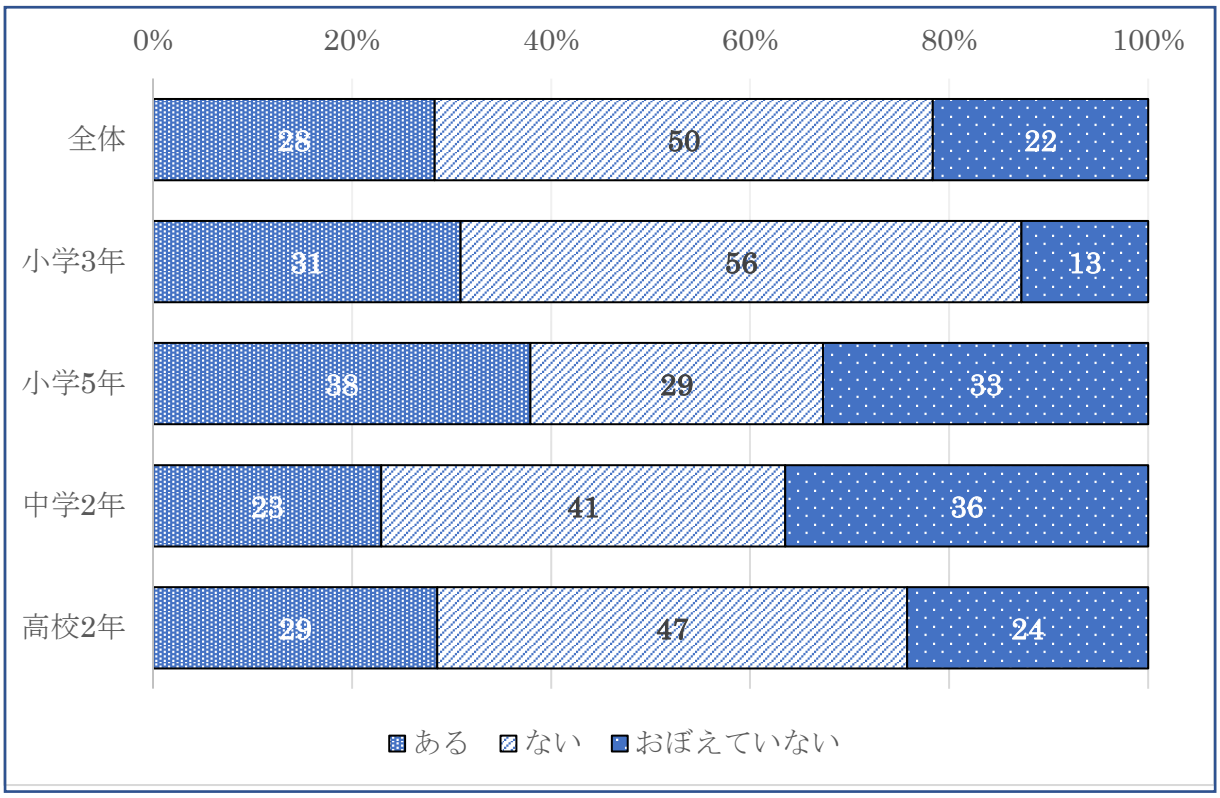
区　分	①ある	②ない	③おぼえていない
全　体	７０	９	２１
小学３年生	７２	１４	１４
小学５年生	８０	４	１６
中学２年生	６９	６	２５
高校２年生	６６	４	３０



家の人に本を読んでもらったことがあるかとの問いに対し、学年ごとの大きな回答の違いは見られず、約７、８割の子どもが「ある」と回答している。強いて挙げれば、学年が上がるほど「覚えていない」の回答が多くなり、その分「ある」「ない」の回答が減少しているが、これは長い月日を経て記憶が薄れているためと思われる。

問４　あなたは今までに、図書館、公民館・文化センターなどで行われた読み聞かせなどの行事に参加したことはありますか。（１つ選択）　（単位％）

区　分	①　ある	②ない	③おぼえていない
全　体	２８	５０	２２
小学３年生	３１	５６	１３
小学５年生	３８	２９	３３
中学２年生	２３	４１	３６
高校２年生	２９	４７	２４

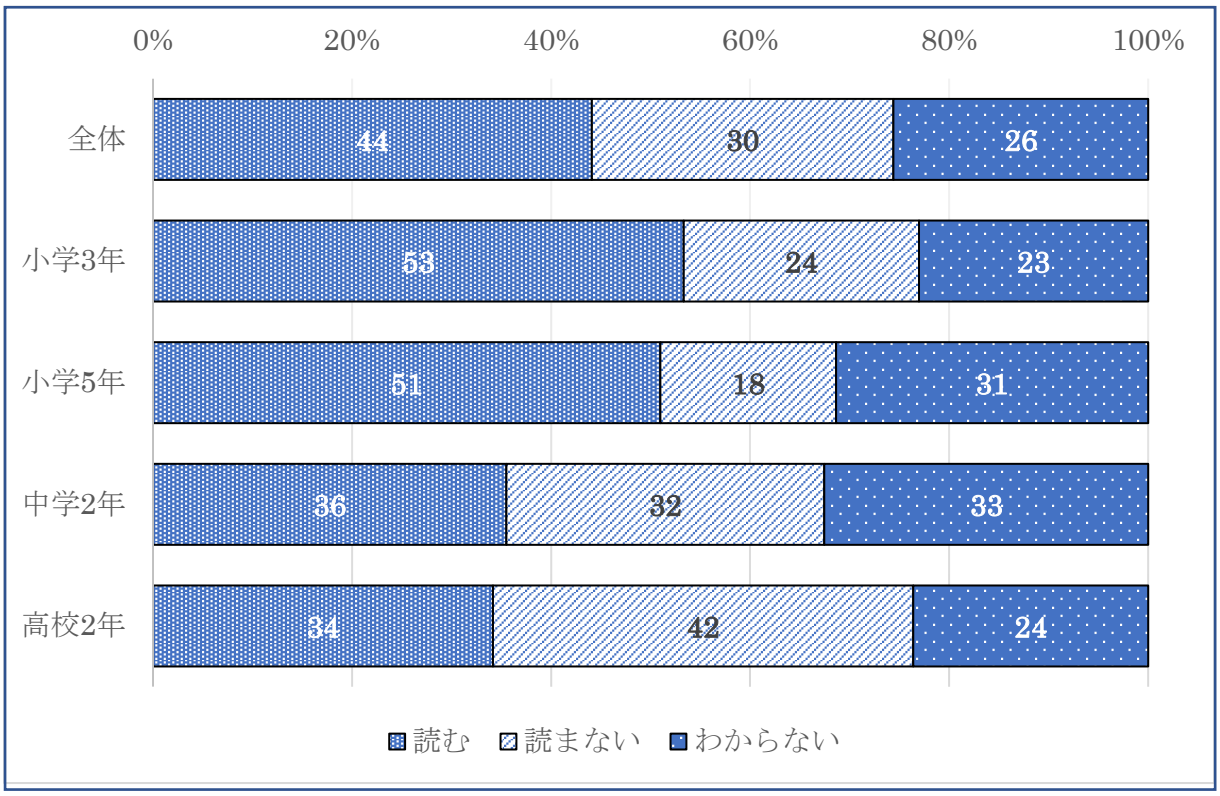


公共施設で行われた読み聞かせへの参加に関する質問では、小学校５年生が「ある」の回答者が３８％と多いものの、他の全ての学年では４割以上の子どもが「ない」と回答している。「ある」の回答率が各学年共に３割前後であり、半数にも達していないことから、伸び代は大きいと思われる。

問５　あなたの家族は本をよく読んでいますか。（１つ選択）

（単位％）

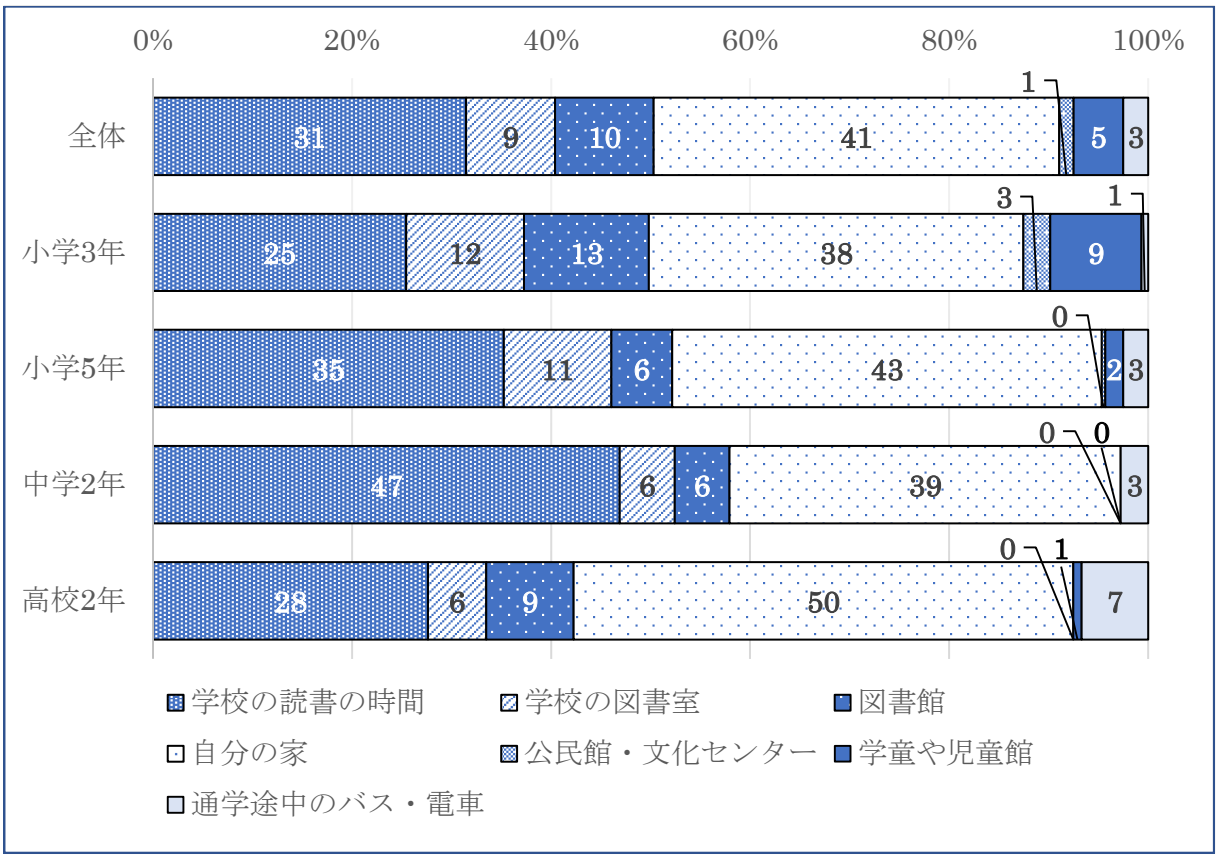
区　分	①　読む	②　読まない	③　わからない
全　体	４４	３０	２６
小学３年生	５３	２４	２３
小学５年生	５１	１８	３１
中学２年生	３６	３２	３３
高校２年生	３４	４２	２４



家族が本を読んでいるかとの質問に対し、小学生と中学生・高校生で異なる傾向を示した。小学生は「読む」と答えており、中学生・高校生は「読まない」と回答している割合が増えている。小学生は、子どもと一緒に読むシーン（読み聞かせ等）が多いことが想像される。

問６　あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。
（２つまで選択）　　（単位％）

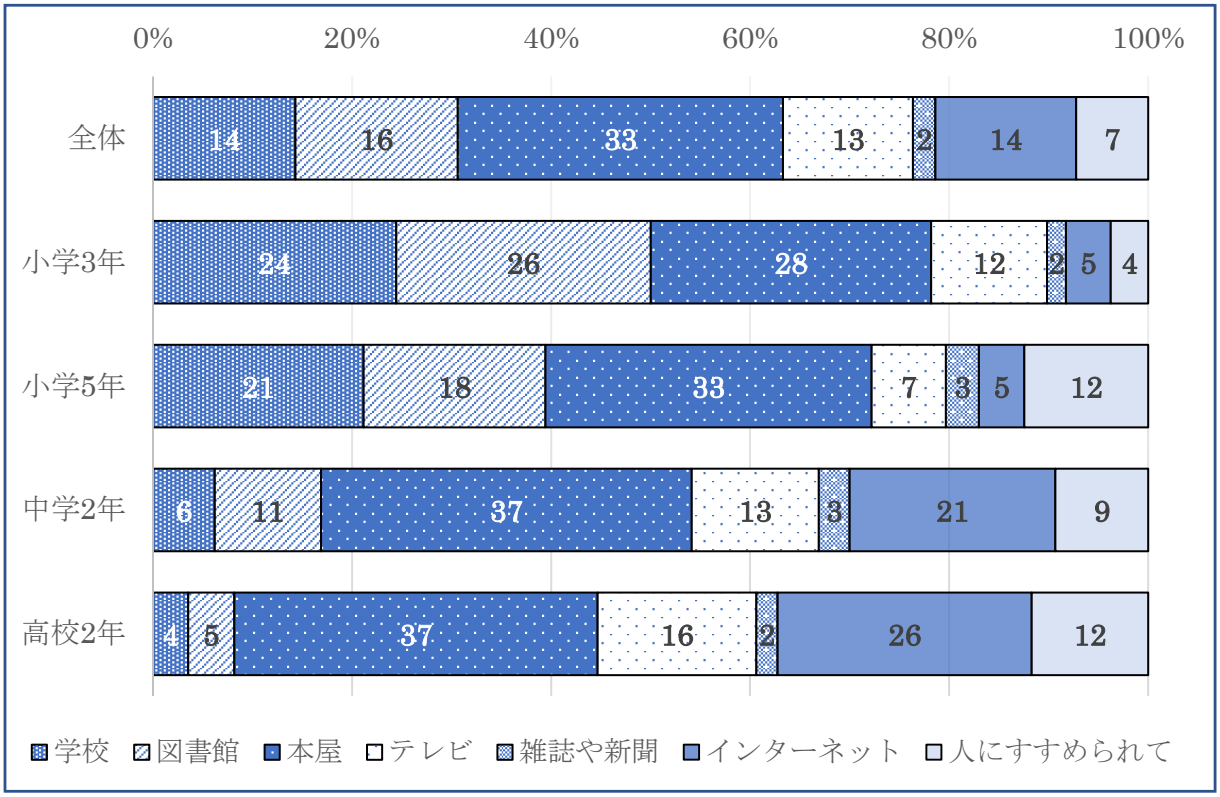
区　分	① 学校での読書の時間	② 学校の図書室	③ 図書館	④ 自分の家	⑤ 公民館・文化センター	⑥ 学童や児童館	⑦ 通学途中のバスや電車内
全　体	３１	9	１０	４１	1	5	3
小学３年生	２５	１２	１３	３８	3	9	1
小学５年生	３５	１１	6	４３	0	2	3
中学２年生	４７	6	6	３９	0	0	3
高校２年生	２８	6	9	５０	0	1	7



読書をする場所については、全学年共に「自分の家」が約４割から５割と多い。増減傾向のある回答としては、小学生は「図書館」「学校の図書室」「学童や児童館」が多く、中学生・高校生では「学校での読書の時間」「通学途中のバスや電車内」が多くなり、過ごす場所の変化が現れている。「学校での読書の時間」の回答が、小学生・中学生では高学年になるほど多くなる傾向にあり、各校における読書に対する取り組みが反映された結果となった。

問７　あなたは読みたい本をどこで知ることが多いですか。
（２つまで選択）　　（単位％）

区　分	① 学校	② 図書館	③ 本屋	④ テレビ	⑤ 雑誌や新聞	⑥ インターネット	⑦ 人にすすめられて
全　体	１４	１６	３３	１３	２	１４	７
小学３年生	２４	２６	２８	１２	２	５	４
小学５年生	２１	１８	３３	７	３	５	１２
中学２年生	６	１１	３７	１３	３	２１	９
高校２年生	４	５	３７	１６	２	２６	１２

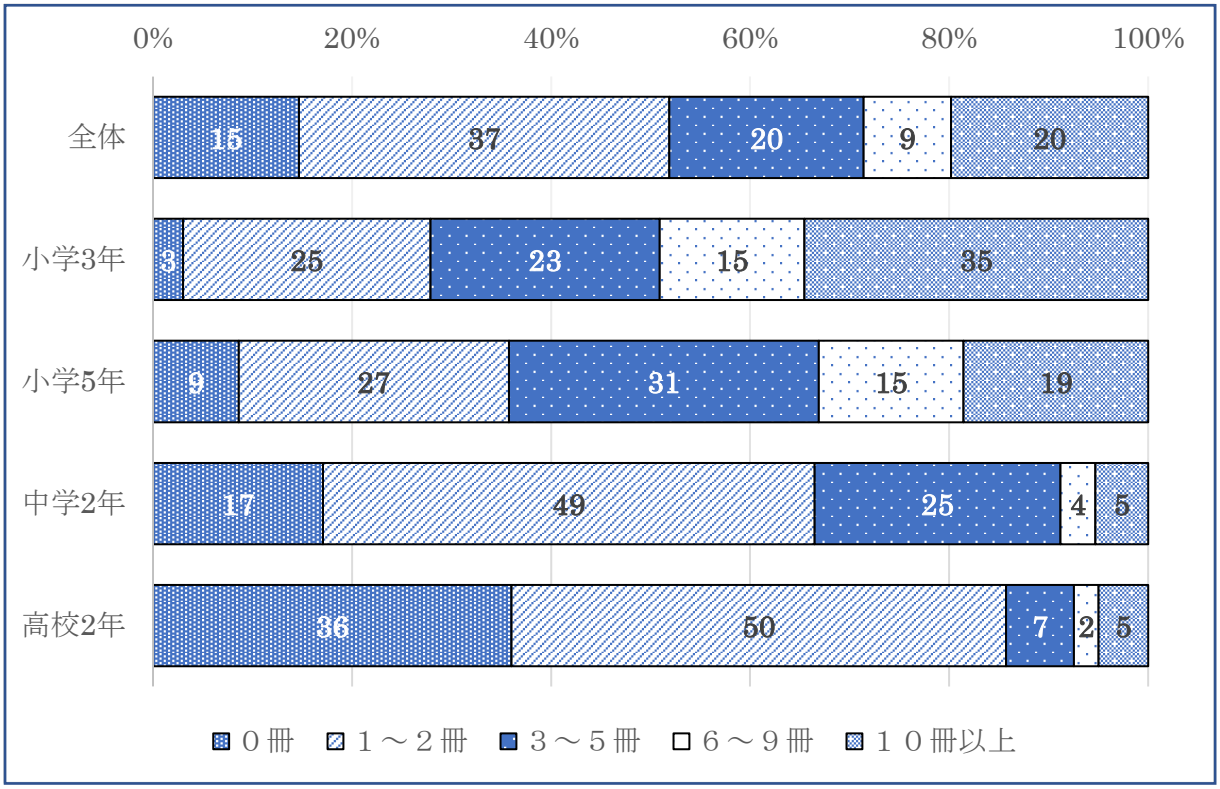


読みたい本を知る場所として、各学年共に「本屋」が最多だが、小学生は「図書館」「学校」の回答が多いのに対し、中学生・高校生では「インターネット」の比率が急上昇している。小学生では図書館や学校の役割が大きく、中学生・高校生になるとＩＴを活用している様子がうかがえる。

問８　あなたは１か月に本を何冊読んでいますか。（教科書・参考書・マンガ・雑誌は除く）（１つ選択）

（単位％）

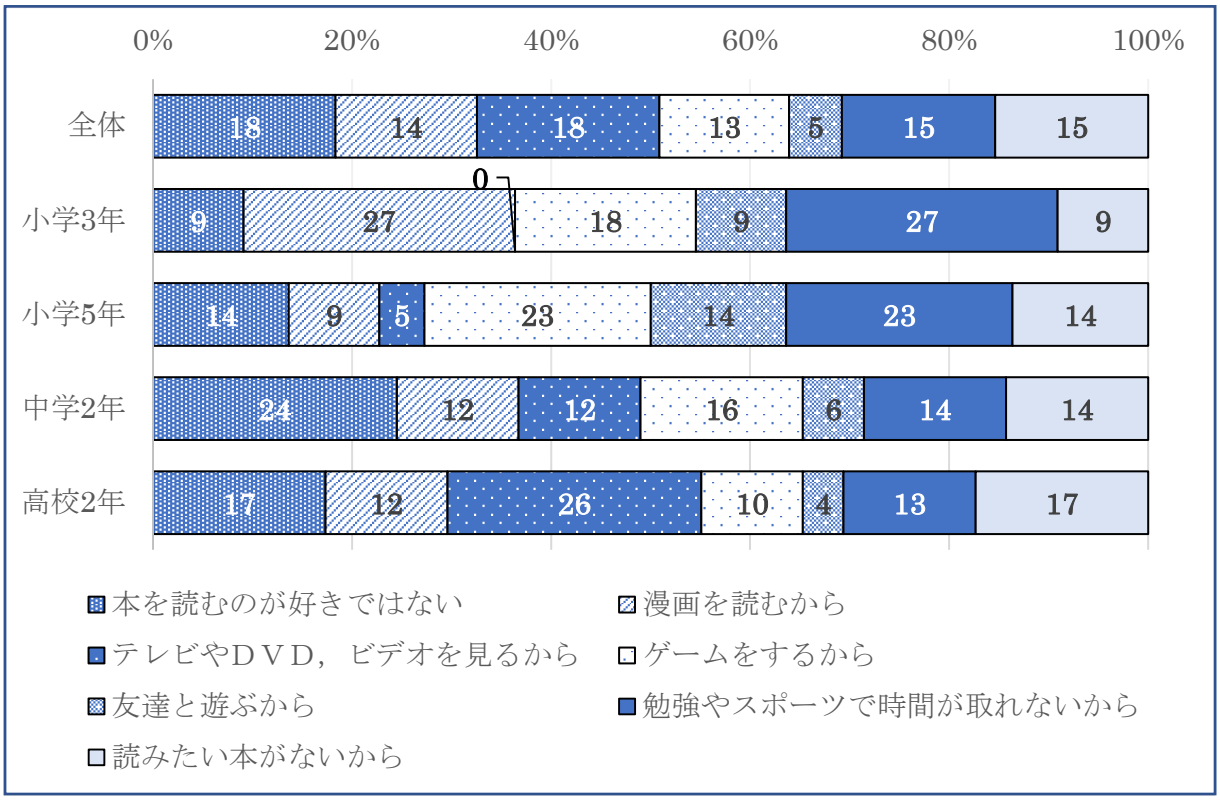
区　分	① ０冊	② １～２冊	③ ３～５冊	④ ６～９冊	⑤ １０冊以上
全　体	１５	３７	２０	９	２０
小学３年生	３	２５	２３	１５	３５
小学５年生	９	２７	３１	１５	１９
中学２年生	１７	４９	２５	４	５
高校２年生	３６	５０	７	２	５



小学校３年生では、１か月に本を３冊以上読む回答が７３％なのに対し、小学校５年生６５％、中学２年生３４％、高校２年生１４％と、学年を追うごとに読書量が大幅に減少している。特に中学生・高校生のＹＡ（ヤング・アダルト）世代の減少が著しい。１か月に読む本が０冊の回答も、小学３年生では３％なのに対し、高校２年生では３６％へ上昇している。

問９　問８で①をえらんだ人、あなたが本を読まないのはなぜですか。
（２つまで選択）　　（単位％）

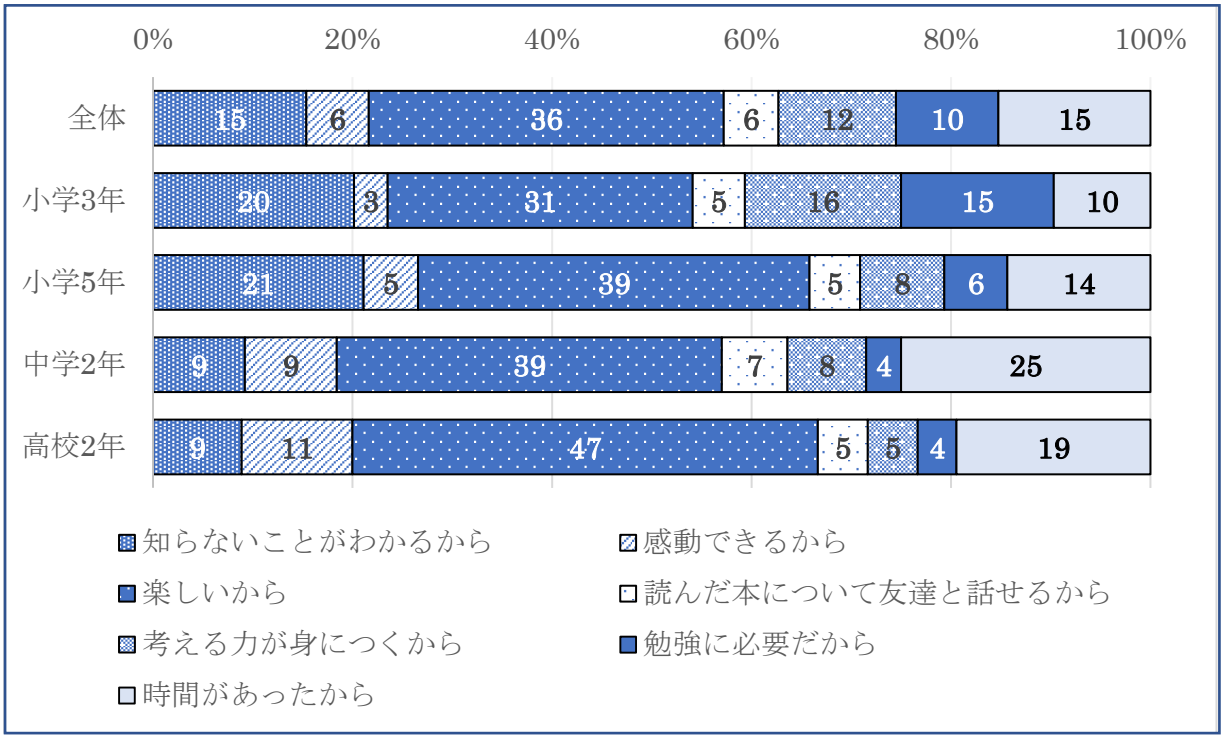
区　分	①本を読むのが好きではないから	②マンガを読むから	③テレビやＤＶＤ、ビデオを見るから	④ゲームをするから	⑤友だちと遊ぶから	⑥勉強やスポーツで時間が取れないから	⑦読みたい本がないから
全　体	１８	１４	１８	１３	５	１５	１５
小学３年生	９	２７	０	１８	９	２７	９
小学５年生	１４	９	５	２３	１４	２３	１４
中学２年生	２４	１２	１２	１６	６	１４	１４
高校２年生	１７	１２	２６	１０	４	１３	１７



本を読まない理由は、小学生と中学生・高校生で異なる傾向を示した。小学生に多い回答として、「勉強・スポーツで時間が取れない」「読みたい本がない」「マンガを読む」「ゲームをする」「友達と遊ぶ」、中学生・高校生に多い回答として、「テレビ、ビデオ、ＤＶＤを見る」「本を読むのが好きでない」「読みたい本がない」が挙げられた。時間が取れない以外は、読書以上に魅力を感じている事が多いことを示しているようである。

問１０　問８で②～⑤をえらんだ人、あなたが本を読むのはどうしてですか。
（２つまで選択）　（単位％）

区　分	① 知らないことがわかるから	② 感動できるから	③ 楽しいから	④ 読んだ本について友達と話ができるから	⑤ 考える力がつくから	⑥ 勉強に必要だから	⑦ 時間があったから
全　体	１５	6	３６	6	１２	１０	１５
小学３年生	２０	3	３１	5	１６	１５	１０
小学５年生	２１	5	３９	5	8	6	１４
中学２年生	9	9	３９	7	8	4	２５
高校２年生	9	１１	４７	5	5	4	１９

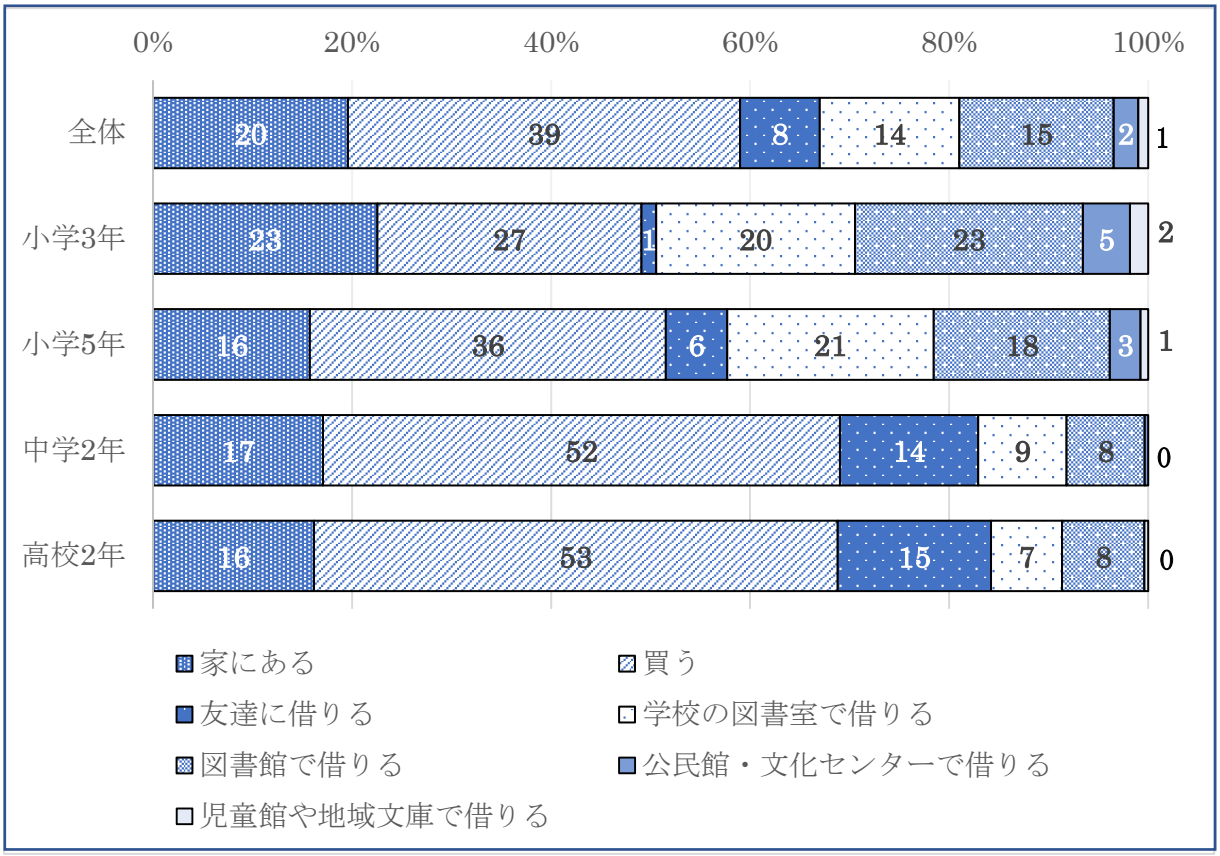


本を読む理由として、各学年共に「楽しいから」が最多であり、学年が高くなるほどその回答率が高くなる傾向を示した。中学生・高校生は、他に「時間があったから」の回答が多く、高学年ほど読書を余暇活動として楽しむ傾向が見られた。小学生は、「知らないことがわかるから」「考える力がつくから」「勉強に必要だから」の回答が多く、読書が学習活動の１手段となっている様子がうかがわれた。

問１１　あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。（２つまで選択）

（単位％）

区　分	①家にあったから	②買う（買ってもらう）	③友達に借りる	④学校の図書室で借りる	⑤図書館で借りる	⑥公民館・文化センターで借りる	⑦児童館や地域文庫で借りる
全　体	２０	３９	８	１４	１５	２	１
小学３年生	２３	２７	１	２０	２３	５	２
小学５年生	１６	３６	６	２１	１８	３	１
中学２年生	１７	５２	１４	９	８	０	０
高校２年生	１６	５３	１５	７	８	０	０

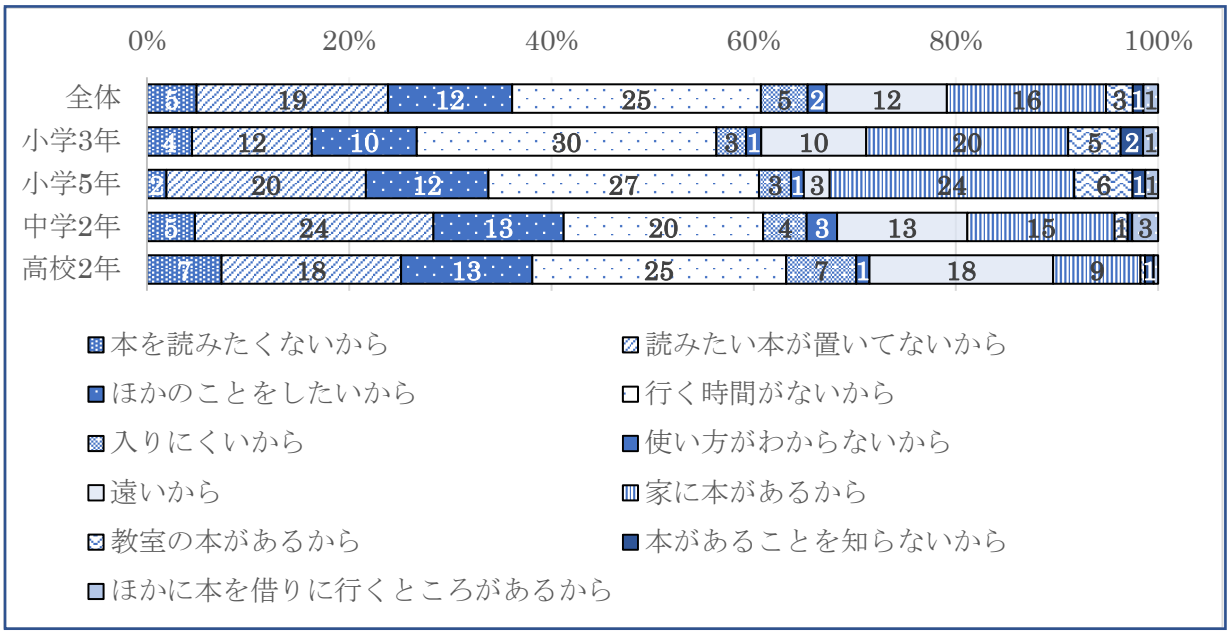


本の入手方法について、各学年共に「買う」「家にあったから」が多く、購入に踏み切ったり、家族が読んだ本を手にする機会が多いことがうかがわれる。小学生では、「図書館で借りる」「学校の図書室で借りる」回答がそれぞれ約２割ずつと多かったが、学年が進むにつれて「買う」か「友達に借りる」ようになり、中学生・高校生では公共施設で借りる機会が半減することが判明した。

問１２　問１１で①～③をえらんだ人、あなたが学校の図書室や図書館、公民館・文化センター、児童館の本を読まないのはなぜですか。
（２つまで選択）

（単位％）

区　分	①本を読みたくないから	②読みたい本が置いていないから	③ほかのことをしたいから	④行く時間がないから	⑤入りにくいから	⑥使い方がわからないから	⑦遠いから	⑧家に本があるから	⑨教室の本があるから	⑩本があることを知らないから	⑪ほかに本を借りに行くところがある
全　体	5	19	12	25	5	2	12	16	3	1	1
小学３年生	4	12	10	30	3	1	10	20	5	2	1
小学５年生	2	20	12	27	3	1	3	24	6	1	1
中学２年生	5	24	13	20	4	3	13	15	1	0	3
高校２年生	7	18	13	25	7	1	18	9	0	1	0

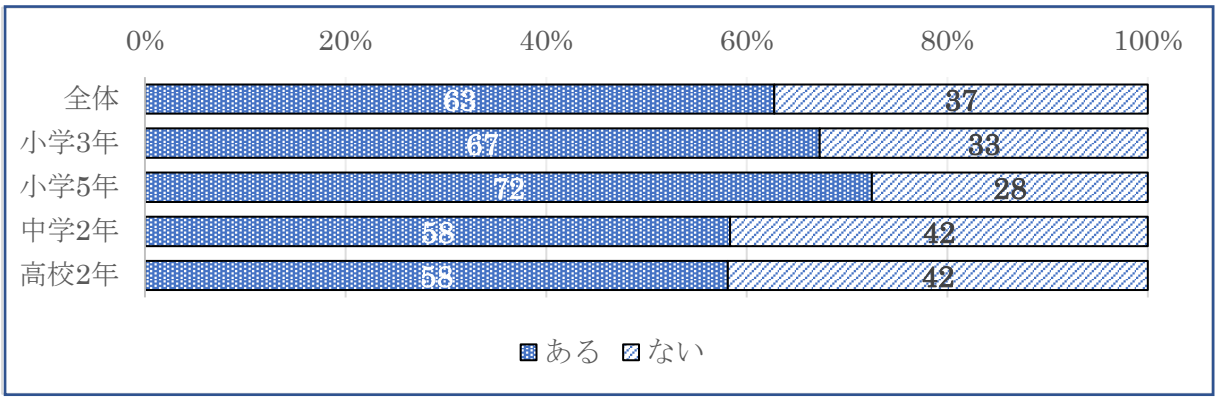


公共施設の本を読まない理由として、小学生は「行く時間がない」「家に本がある」「読みたい本が置いていない」「遠いから」「他のことをしたい」が多く、中学生・高校生は「行く時間がない」「読みたい本が置いていない」「遠いから」が多い。このうち、２番目に多い回答である「読みたい本が置いていない」は、図書施設として改善すべき問題である。

問１３　あなたが今まで読んでみてよかった本はありますか。ある人はタイトルを教えてください。

（単位％）

区　分	① ある	② ない	ある人は、本のタイトル（他にも多数回答あり）
全　体	６３	３７	かいけつゾロリシリーズ（７人）、サバイバルシリーズ（６人）、星のカービィ（５人）、名探偵コナンシリーズ（５人）、君の膵臓を食べたい（５人）、ハリーポッターシリーズ（５人）、永遠の０（４人）
小学３年生	６７	３３	かいけつゾロリシリーズ（６人）、おしりたんていシリーズ（３人）、しんれいスポットへようこそシリーズ（3 人）サバイバルシリーズ（２人）、ルルとララシリーズ（２人）
小学５年生	７２	２８	星のカービィ（５人）、サバイバルシリーズ（４人）、ハリーポッターシリーズ（３人）、名探偵コナンシリーズ（２人）、
中学２年生	５８	４２	君の膵臓を食べたい（３人）、名探偵コナンシリーズ（３人）、世界から猫が消えたなら（２人）、ひるなかの流星（２人）、君と 100 回目の恋（２人）、サクラダリセット（２人）
高校２年生	５８	４２	永遠の０（３人）、カラフル（３人）、桜荘とペットな彼女（2 人）、Ｎのために（２人）君の膵臓を食べたい（２人）

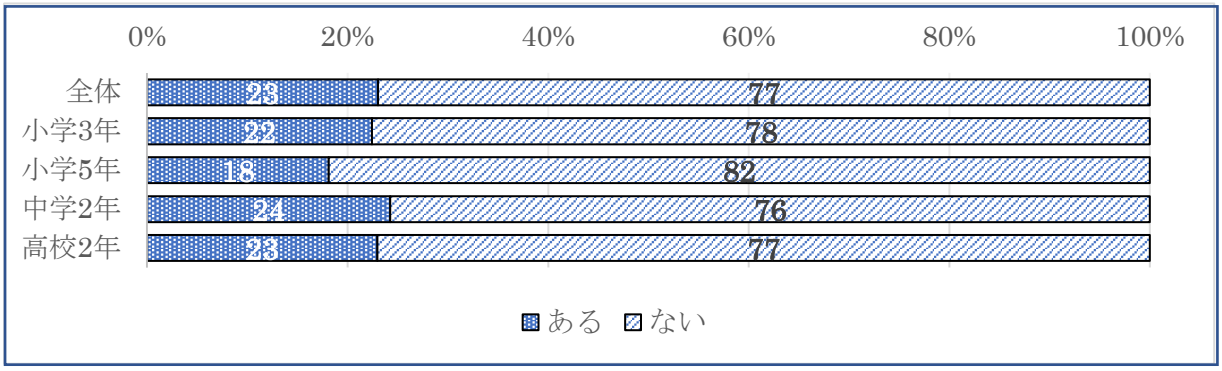


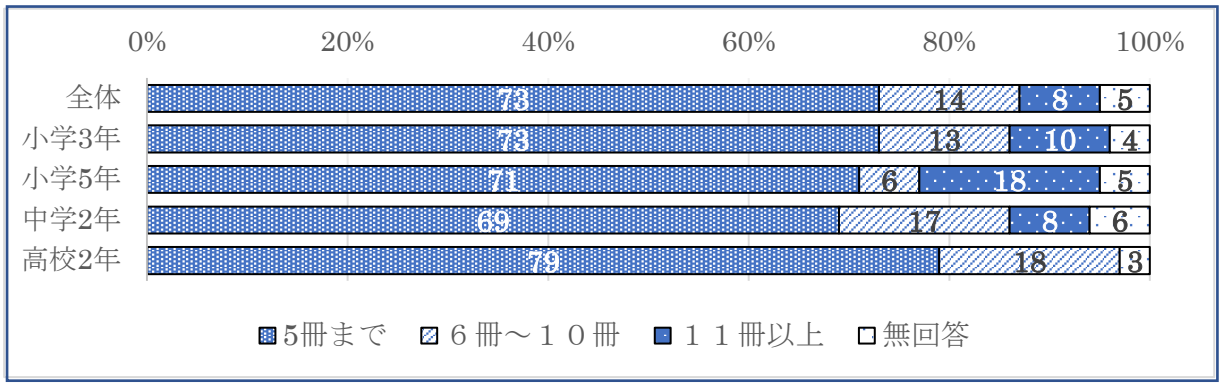
読んでみて良かった本があるかとの質問に対し、「ある」の回答が中学 2 年生・高校 2 年生が低く、全体でも約６割～７割しかない。読書の素晴らしさと出会えていない子どもが約３割～約４割もいるかもしれないことを思うと、無視できない数字である。「ない」の回答を減らしていく必要があろう。

問１４　あなたは電子書籍（スマートフォンやタブレットの画面で読む本）を読んだことがありますか。ある人は、最近１ヶ月の間に何冊読みましたか。

（単位％）

区　分	① ある	② ない	ある人は、１か月何冊
全　体	２３	７７	５冊まで　７３％、６冊～１０冊　１４％、１１冊以上　８％、無回答５％
小学３年生	２２	７８	５冊まで　７３％、６冊～１０冊　１３％、１１冊以上　１０％、無回答４％
小学５年生	１８	８２	５冊まで　７１％、６冊～１０冊　６％、１１冊以上　１８％、無回答５％
中学２年生	２４	７６	５冊まで　６９％、６冊～１０冊　１７％、１１冊以上　８％、無回答６％
高校２年生	２３	７７	５冊まで　７９％、６冊～１０冊　１８％、１１冊以上　０％、無回答３％



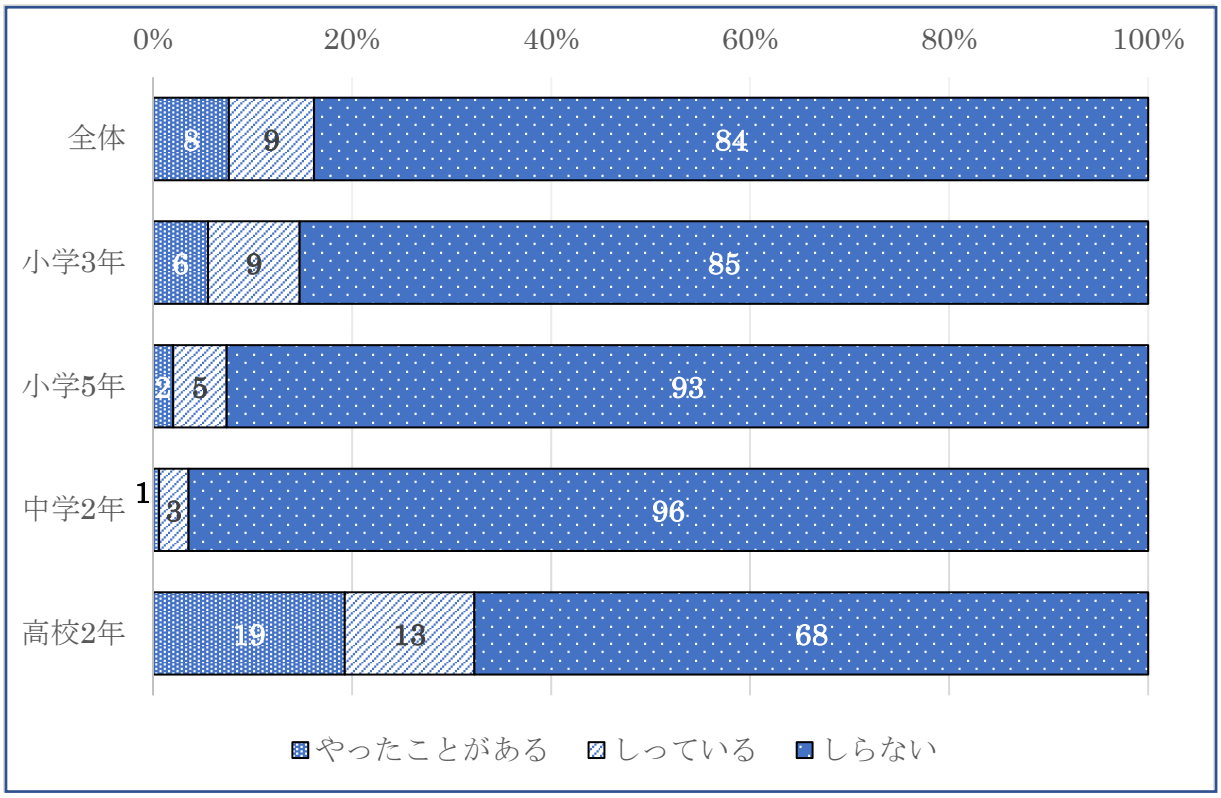


電子書籍の読書体験に関する質問に対し、「ある」の回答が学年ごとに大きな差はなく、約２割前後の経験率である。電子書籍の読書体験ありの子どものうち、１ヶ月に５冊以内の回答率が約７、８割を占めたが、１ヶ月に１１冊以上の多読回答については学年が小さい方が１割以上と多い傾向が見られた。子どもの今後の読書傾向の推移を見守る必要があろう。

問１５　ビブリオバトルを知っていますか。

（単位％）

区　分	① やったことがある	② 知っている	③ 知らない
全　体	8	9	８４
小学３年生	6	9	８５
小学５年生	2	5	９３
中学２年生	1	3	９６
高校２年生	１９	１３	６８

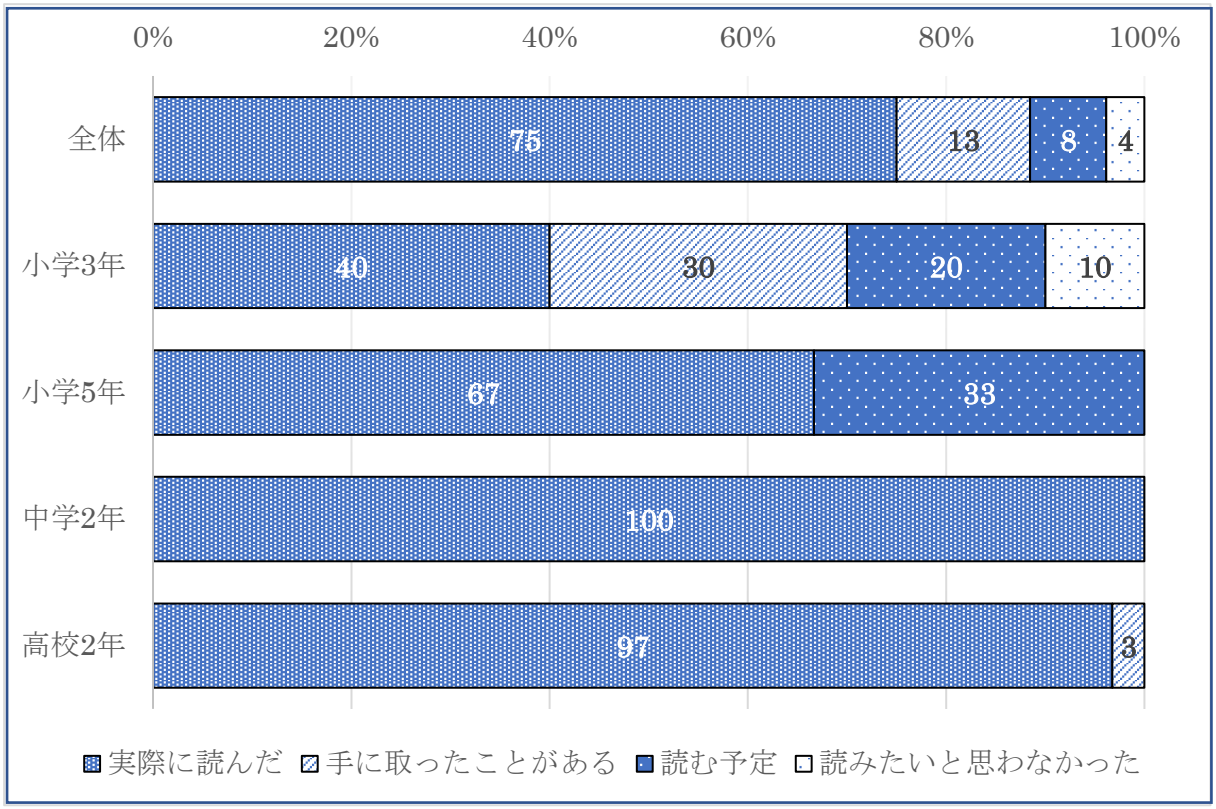


ビブリオバトルの認知度としては、各学年約７割～９割以上の子どもが「知らない」と回答しており、非常に低い結果となった。高校２年生の「やったことがある」１９％、「知っている」１３％が突出している理由は、ある高校で１年生がビブリオバトルに取り組んでいるためである。

問１６　問１５で①をえらんだ人は、紹介された本を読んでみようと思いましたか。

（単位％）

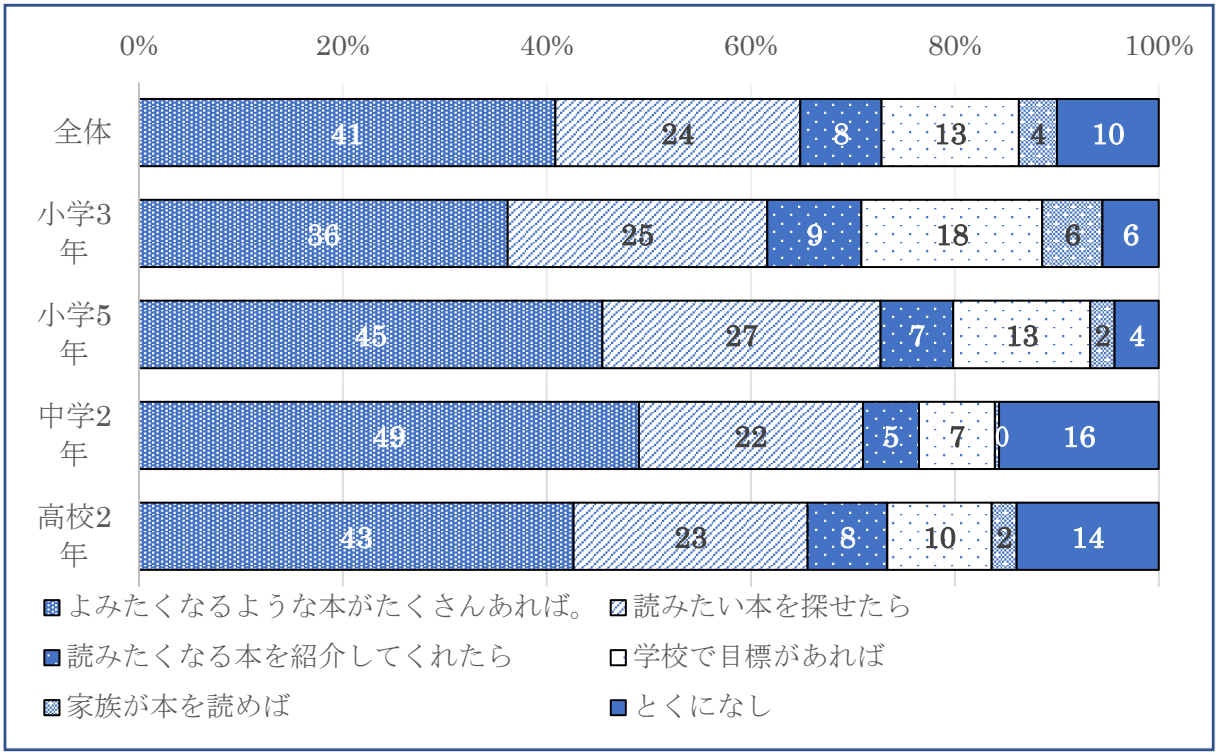
区　分	① 実際に読んだ	② 手に取ったことがある	③ 読む予定	④ 読みたいと思わなかった
全　体	７５	１３	8	4
小学３年生	４０	３０	２０	１０
小学５年生	６７	0	３３	0
中学２年生	１００	0	0	0
高校２年生	９７	3	0	0



ビブリオバトルで紹介された本を読んでみようと思ったかとの質問に対し、各学年４割以上～１０割の子どもが「実際に読んだ」と回答している。「手に取ったことがある」「読む予定」と合わせると、ほとんどの子どもが、紹介された本に対し興味を示し、何らかのアクションを起こそうとしている結果となった。ビブリオバトルは、子どもの読書活動に非常に有効なことが示された。

問１７　どうしたらあなたは本をもっと読むようになりますか。
（２つまで選択）　　（単位％）

区　分	① 読みたくなるような本がたくさんあれば読むと思う	② 読みたい本をうまく探せたら読むと思う	③ 読みたくなるような本を誰かが紹介してくれると読むと思う	④ 学校で「読書の時間」や「読書ビンゴ」のような目標があれば読むと思う	⑤ 家族がもっと本を読めば自分も読むと思う	⑥ 特にない
全　体	４１	２４	8	１３	4	１０
小学３年生	３６	２５	9	１８	6	6
小学５年生	４５	２７	7	１３	2	4
中学２年生	４９	２２	5	7	0	１６
高校２年生	４３	２３	8	１０	2	１４

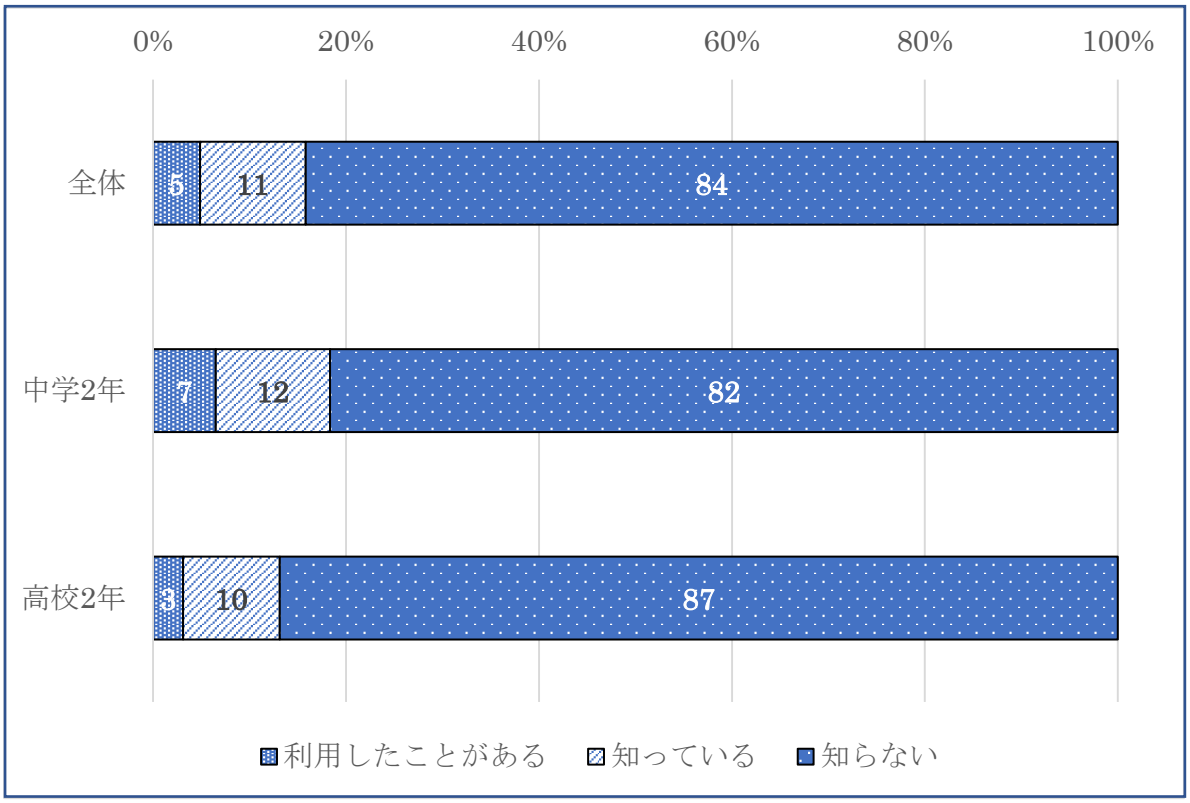


どうしたらもっと本を読むようになるかとの問いに対し、学年による差は見られず、「読みたくなるような本がたくさんあれば」「読みたい本をうまくさがせたら」の２つに回答が集中した。次いで多かったのが、『学校で「読書の時間」や「読書ビンゴ」のような目標があれば』であった。上位２つの回答より、環境が整えば自発的に読書に取り組む可能性が見える結果となった。

問１８　あなたは、草加市立中央図書館にＹＡコーナー（中高校生向けの本を集めたコーナー）があることを知っていますか。

※　中学２年生、高校２年生のみ質問しました。　（単位％）

区　分	① 利用したことがある	② 知っている	③ 知らない
全　体	5	１１	８４
中学２年生	7	１２	８２
高校２年生	3	１０	８７



草加市立中央図書館のＹＡコーナーに関する認知度は、８割以上の子どもが知らないと答えており、非常に低い結果となった。中学生・高校生向けの図書をそろえ、どんなに選書に力を入れていても、その存在が知られていなければ利用は見込めない。ＹＡコーナーについて、中学生・高校生に対するＰＲ活動の必要性が浮き彫りとなった。

２）－２　小学生・中学生・高校生調査の結果　【Ｐ/Ｎの比較】

「問１　あなたは本を読むことが好きですか。（１つ選択）」の質問に対し、

- 「好き」か「どちらかといえば好き」のいずれかのポジティブな回答をした子どもを**Ｐ群（＝ｐｏｓｉｔｉｖｅ群）**、
- 「どちらかといえば嫌い」か「嫌い」のいずれかのネガティブな回答をした子どもを**Ｎ群（＝ｎｅｇａｔｉｖｅ群）**

の２群に分け、問２以降の回答において、２群の間で差が生じたり明瞭な傾向が見える回答・選択肢に限り記載しました。

■Ｐ群とＮ群について

問１　あなたは本を読むことが好きですか。（１つ選択）の回答に対し

（単位％）

区　分	①　好き	②どちらかといえば好き	Ｐ群（①＋②）	③どちらかといえば嫌い	④　嫌い	Ｎ群（③＋④）
全　体	４５	３７	８２	１２	６	１８
小学３年生	５４	３３	８７	７	５	１２
小学５年生	４６	４２	８８	９	３	１２
中学２年生	３６	４１	７７	１６	７	２３
高校２年生	３８	４０	７８	１７	６	２２

このグループをＰ群としました

このグループをＮ群としました

問２　あなたは本を読むことは大切だと思いますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分	①思うか②どちらかといえば思う		③どちらかといえば思わないか④思わない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**95**	７４	５	**26**
小学３年生	**100**	７６	０	**24**
小学５年生	**97**	８４	２	**17**
中学２年生	**88**	５３	１１	**48**
高校２年生	**96**	８３	４	**17**

本を読むことが大切と思うかとの問いに対し、Ｐ群はＮ群に比べて「思う」と「どちらかといえば思う」の回答の合計が約２割も多かった。全学年通して同様の傾向を示しており、読書に対する好意度と重要性の認識との相関を示す結果となった。

問３　あなたが小学校に入る前に、家の人に本を読んでもらったことがありますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分	①ある		②ない		③おぼえていない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**73**	６３	６	１１	２０	２６
小学３年生	**77**	３５	１２	**30**	１１	**35**
小学５年生	**81**	６７	４	６	１５	**28**
中学２年生	**70**	６８	５	８	２５	２５
高校２年生	６５	**72**	３	６	**32**	２２

就学前に家族に本を読んでもらった経験に関する質問については、低学年ほどＰ群の「ある」回答がＮ群を大きく上回っていた。中学２年生、高校２年生では２つの群の回答にほとんど差はない。これは、読書に対する好意度が、小さいときは家庭での読み聞かせ体験の有無に影響されているが、学年が進むにつれ、家庭以外の学校などでの読書体験の影響が次第に大きくなっているのではないかと思われる。

問４　あなたは今までに、図書館、公民館・文化センターなどで行われた読み聞かせなどの行事に参加したことはありますか。（１つ選択）　（単位％）

区　分	①ある		②ない		③おぼえていない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**32**	２１	４２	**51**	２６	２８
小学３年生	**34**	１０	５３	**76**	１３	１４
小学５年生	**39**	３３	２７	**44**	３４	２２
中学２年生	**24**	２０	３９	**45**	３７	３５
高校２年生	**30**	２２	４７	４７	２２	３１

公共施設等での読み聞かせなどの行事への参加経験に関する質問では、全ての学年においてＰ群の方が「ある」回答が多かった。現在、さまざまな場で行われている読み聞かせなどへ参加する機会を増やすことにより、読書に対する好意度をアップできることがうかがえる結果である。

問８　あなたは１か月に本を何冊読んでいますか。（教科書・参考書・マンガ・雑誌は除く）（１つ選択）　（単位％）

区　分	①０冊		②③１～５冊		④６～９冊		⑤１０冊以上	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	１０	**50**	６３	４３	９	４	**18**	３
小学３年生	２	**10**	４７	５７	１４	１９	**38**	１４
小学５年生	５	**39**	５９	５０	１６	６	**20**	６
中学２年生	５	**55**	８３	４６	５	０	**7**	０
高校２年生	２９	**72**	６１	２８	３	０	**6**	０

１か月間の読書量については、全ての学年において、Ｎ群はＰ群よりもはるかに「０冊」回答が多く、Ｐ群はＮ群よりも「１０冊以上」回答が多かった。読書が好きならたくさん本を読むという、一般的な感覚がデータ上ではっきり示された。

問１０　問８で②～⑤をえらんだ人、あなたが本を読むのはどうしてですか。（２つまで選択）

（単位％）

区　分	①知らないことがわかるから		③楽しいから		④読んだ本について友達と話ができるから		⑥勉強に必要だから		⑦時間があったから	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	15	15	**40**	20	5	6	7	**14**	15	**32**
小学３年生	**21**	13	**32**	17	**16**	13	14	**25**	9	**17**
小学５年生	20	**32**	**40**	26	6	**11**	6	**11**	14	**21**
中学２年生	9	9	**40**	23	**7**	0	3	5	22	**50**
高校２年生	9	7	**49**	14	**5**	0	3	**14**	18	**43**

読書の理由について、Ｐ群は「楽しいから」回答が多く、Ｎ群は「勉強に必要だから」「時間があったから」回答が多い。読書が好きな子どもは、読書に楽しさを見い出して読んでいるのであり、何かの目的のためや必要に迫られて読んでいるのではない様子がうかがえる。反対に読書が嫌いな子どもは、必要に迫られたり、他にすることがなくて仕方なく、読書をしている印象がある。

問１１　あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。（２つまで選択）

（単位％）

区　分	①家にあったから		④学校の図書室で借りる		⑤図書館で借りる		⑥公民館・文化センターで借りる	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	１７	**22**	１４	１４	**15**	９	２	３
小学３年生	２２	**26**	１８	**32**	**24**	１３	５	６
小学５年生	１４	**26**	**21**	１３	**18**	１３	３	**10**
中学２年生	１５	**23**	８	１１	８	７	０	０
高校２年生	１６	１６	７	７	９	７	０	０

本の入手手段については、Ｐ群は「図書館で借りる」が多く、Ｎ群は「家にあった」本を読んでいる様子がわかった。そんな中で、Ｎ群の小学生がＰ群以上に公民館・文化センターで借りている点に注目したい。

問１２　問１１で①～③をえらんだ人、あなたが学校の図書室や図書館、公民館・文化センター、児童館の本を読まないのはなぜですか。
（２つまで選択）

（単位％）

区　分	① 本を読みたくないから		② 読みたい本が置いていないから		③ ほかのことをしたいから		④ 行く時間がないから	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	２	**18**	**20**	１４	１１	**18**	**26**	１８
小学３年生	３	**19**	**13**	６	１０	**13**	**32**	１３
小学５年生	０	**15**	**21**	１０	１０	**25**	**28**	１５
中学２年生	１	**17**	**25**	１７	１０	**21**	１９	２１
高校２年生	５	**21**	**19**	１４	１３	**16**	**26**	１９

公共施設等の本を利用していない子どもにその理由を尋ねたところ、Ｐ群は「読みたい本が置いていないから」「行く時間がないから」が多く、Ｎ群は「本を読みたくないから」「ほかのことをしたいから」が多かった。Ｐ群の子どもは、阻害要因が解消されればその施設の本を利用する可能性がある。

問１３　あなたが今まで読んでみてよかった本はありますか。

（単位％）

区　分	①ある		②ない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**68**	４３	３２	**57**
小学３年生	**70**	５０	３０	**50**
小学５年生	**76**	４４	２４	**56**
中学２年生	**63**	４２	３７	**58**
高校２年生	**63**	３９	３７	**61**

読んで良かった本があったか尋ねたところ、Ｐ群では「ある」との回答がＮ群よりも２０％も多く寄せられた。読んでよかった本に出会えたことで、読書が好きになった子どもが多いであろうことを考えると、当然の結果である。読んで良かったと思える本との出会いを支援して、Ｐ群でも３割以上、Ｎ群では５割以上のまだ出会っていない子どもに、良い本との出会いをかなえたい。

問１４　あなたは電子書籍（スマートフォンやタブレットの画面で読む本）を読んだことがありますか。　（単位％）

区　分	①ある		②ない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**24**	１３	７６	８７
小学３年生	２１	**33**	７９	６７
小学５年生	**20**	０	８０	１００
中学２年生	２８	**42**	７２	５８
高校２年生	**26**	８	７４	９２

電子書籍の読書経験については、学年によるばらつきが大きく、傾向が読めない結果となった。

問１６　問１５のビブリオバトルをやったことがあるかの質問で①の「ある」をえらんだ人は、紹介された本を読んでみようと思いましたか。（単位％）

区　分	① 実際に読んだ		② 手に取ったことがある		③ 読む予定		④ 読みたいと思わなかった	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**79**	**92**	１２	０	９	０	**0**	**8**
小学３年生	**44**	０	３３	０	２２	０	**0**	**100**
小学５年生	**67**	０	０	０	３３	０	**0**	０
中学２年生	**100**	０	０	０	０	０	**0**	０
高校２年生	**95**	**100**	５	０	０	０	**0**	**0**

ビブリオバトル経験者へ紹介された本に対する行動を尋ねたところ、Ｐ群では「実際に読んだ」が最多であった。「手に取ったことがある」「読む予定」と合わせると、Ｐ群の子どもは全員がその本に対し何らかの行動を起こさずにいられない、強い関心を持つようである。一方、Ｎ群では、小学３年生の全員が「読みたいと思わなかった」が、高校２年生の全員が「実際に読んだ」となった。低学年では、ビブリオバトルにおいて本の魅力をうまく伝えることが難しいのかもしれない。

問１７　どうしたらあなたは本をもっと読むようになりますか。
（２つまで選択）　（単位％）

区　分	① 読みたくなるような本がたくさんあれば読むと思う		② 読みたい本をうまく探せたら読むと思う		④ 読みたくなるような本を誰かが紹介してくれると読むと思う		④ 学校で「読書の時間」や「読書ビンゴ」のような目標があれば読むと思う	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**44**	３７	**27**	１３	７	８	１２	**16**
小学３年生	３６	３８	**27**	１６	**10**	３	１７	**25**
小学５年生	**47**	３５	**29**	１３	７	**13**	１３	**22**
中学２年生	**52**	３８	**25**	１１	６	５	７	**11**
高校２年生	**45**	３６	**25**	１３	７	**11**	１０	**13**

どうしたらもっと本を読むかとの質問に対し、Ｐ群は「読みたくなる本がたくさんあれば」「読みたい本をうまく探せたら」の回答が多かった。一方、Ｎ群は『学校で「読書の時間」や「読書ビンゴ」のような目標があれば』の回答が多く、他力に頼る傾向が見られた。Ｐ群、Ｎ群それぞれの子どもの読書を推進するための答えがここにある。

問１８　あなたは、草加市立中央図書館にＹＡコーナー（中高校生向けの本を集めたコーナー）があることを知っていますか。
※　中学２年生、高校２年生のみ質問しました。　（単位％）

区　分	①利用したことがある		②知っている		③知らない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	４	７	１２	５	**84**	**88**
中学２年生	５	１０	１２	１０	**82**	**80**
高校２年生	３	３	１２	０	**85**	**97**

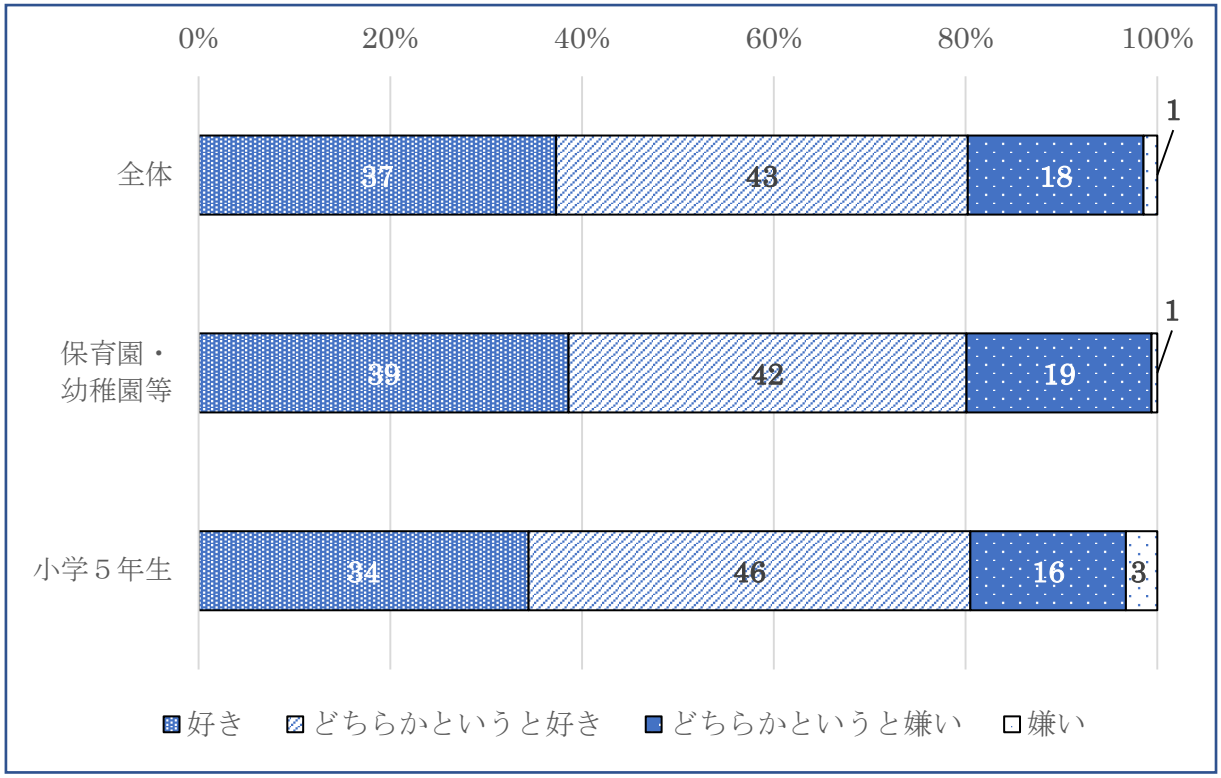
中央図書館のＹＡコーナーに関する認知度は、Ｐ群、Ｎ群共に低く、読書の好意度に関係なくほとんどの中学生・高校生に知られていないことが判明した。読書が好きな子どもにおいても知られていない現状は、大いに問題がある。

２）－３　保護者調査の結果【合計分析】

問１　あなたは本を読むことが好きですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	①好き	②どちらかといえば好き	③どちらかといえば嫌い	④嫌い
全　体	３７	４３	１８	1
保育園・幼稚園等	３９	４２	１９	1
小学５年生	３４	４６	１６	3

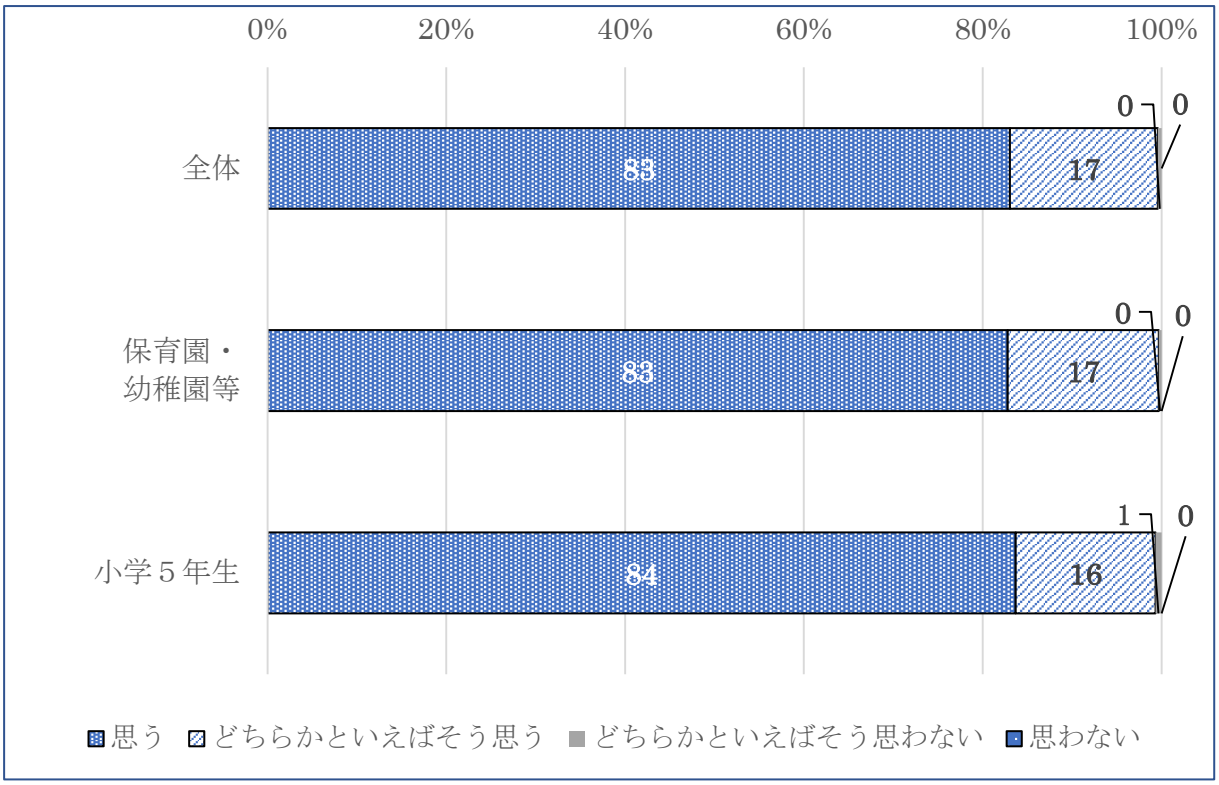


本を読むことが好きかどうかに関する質問に対し、保護者の約８割が「好き」または「どちらかと言えば好き」のポジティブ回答となっており、総じて読書について好意的な回答となった。これは、小学校３年生から高校２年生までの子どもへの同じ質問に対する回答と同様の結果であり、回答比率においてもほぼ同様の結果となった。

問２　あなたは本を読むことは大切だと思いますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	①思う	②どちらかといえばそう思う	③どちらかといえばそう思わない	④思わない
全　体	８３	１７	０	０
保育園・幼稚園等	８３	１７	０	０
小学５年生	８４	１６	１	０



本を読むことは大切かとの問いに対し、「思う」回答８割以上、「どちらかといえばそう思う」と合わせたポジティブ回答ではほぼ１０割に近い結果となり、読書に対する保護者の意識の高さが示された。（同質問に対する子どものポジティブ回答は９２％であった。）

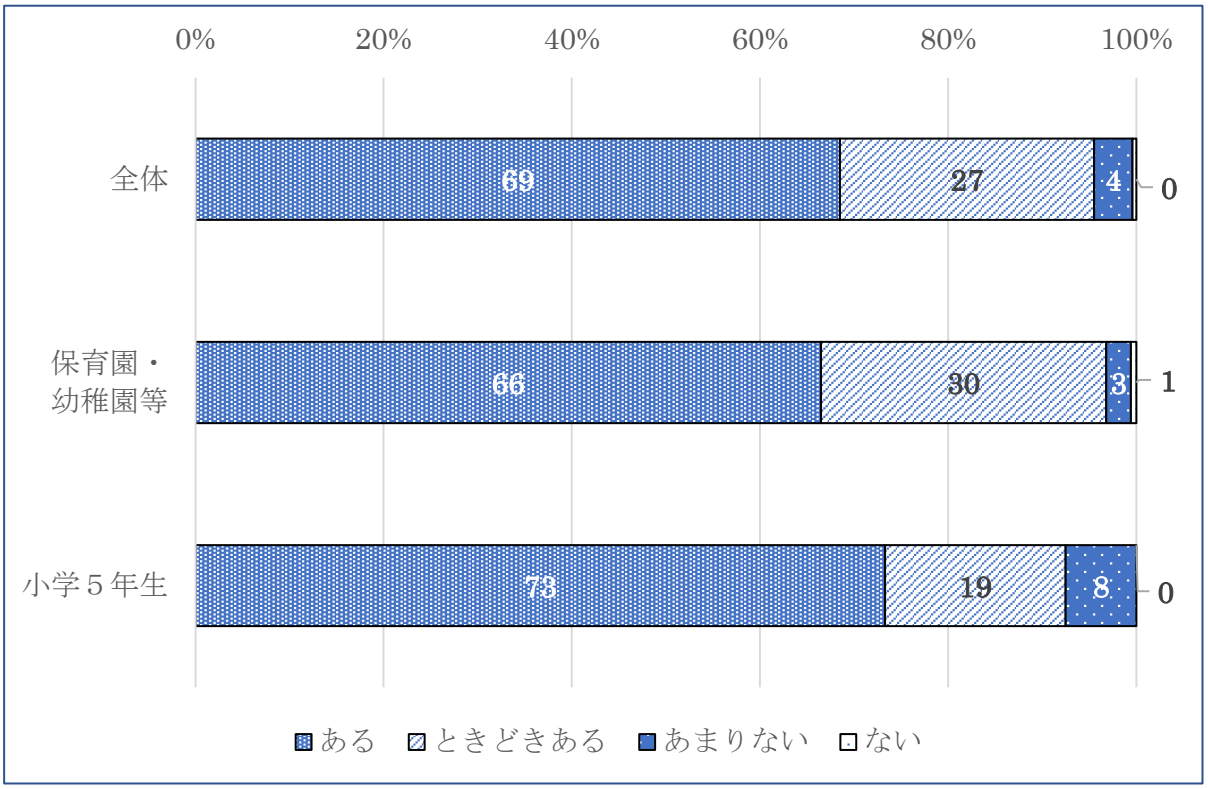
問３　ご家庭で、お子様に読み聞かせをしたことがありますか。
（1 つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	①ある （あった）	②ときどきある（あった）	③あまりない （なかった）	④ない （なかった）
全　体	６９	２７	4	0
保育園・幼稚園等	６６	３０	3	1
小学５年生	７３	１９	8	0

④　「ない」理由として寄せられた回答

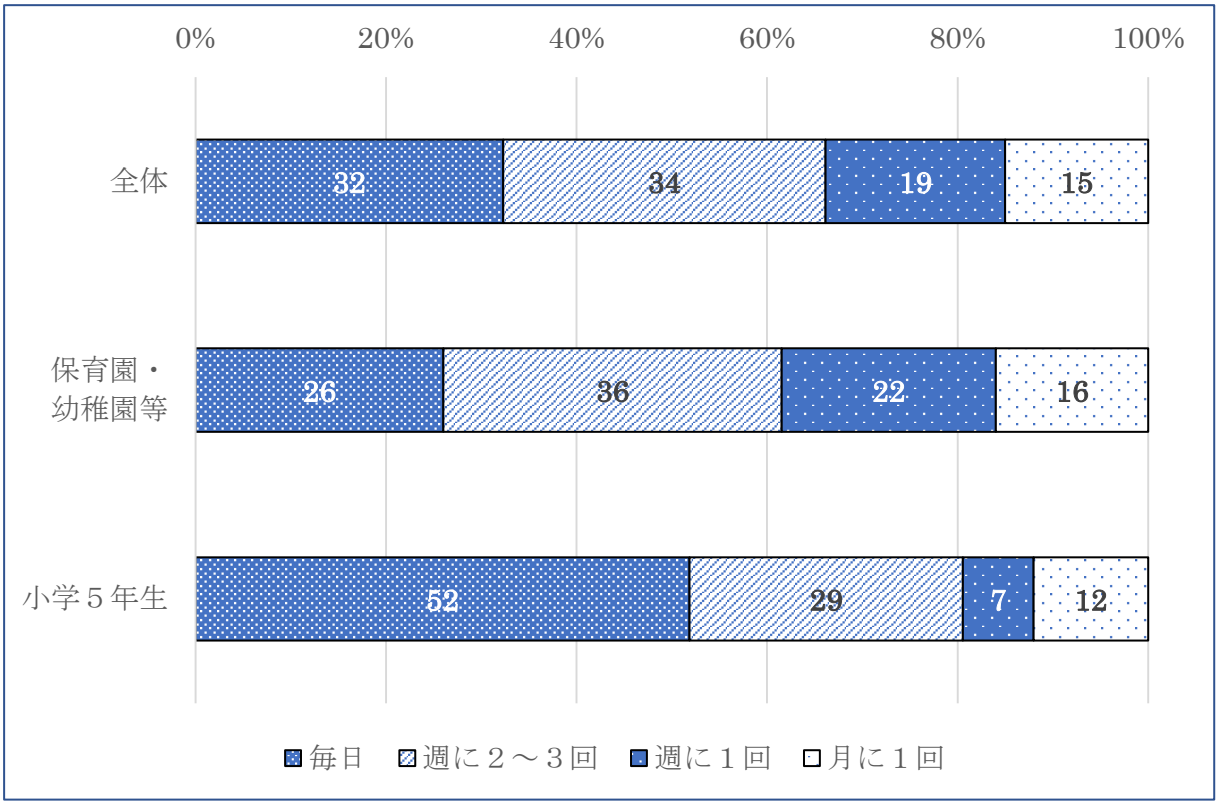
私自身余裕がなかった。　（幼稚園保護者）
時間がなかった。　（小５保護者）



子どもへ読み聞かせをしたことがあるかとの問いに対し、９割以上の保護者が「ある」または「ときどきある」と回答しており、家庭における読み聞かせの実施状況が良好な様子がうかがえる結果となった。

問４　問３で①～③をえらんだ方、どれくらいの頻度で絵本などの読み聞かせをしていますか（していましたか）。（1 つ選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	①毎日	②週に ２～３回	③週に１回	④月に１回
全　体	３２	３４	１９	１５
保育園・幼稚園等	２６	３６	２２	１６
小学５年生	５２	２９	７	１２

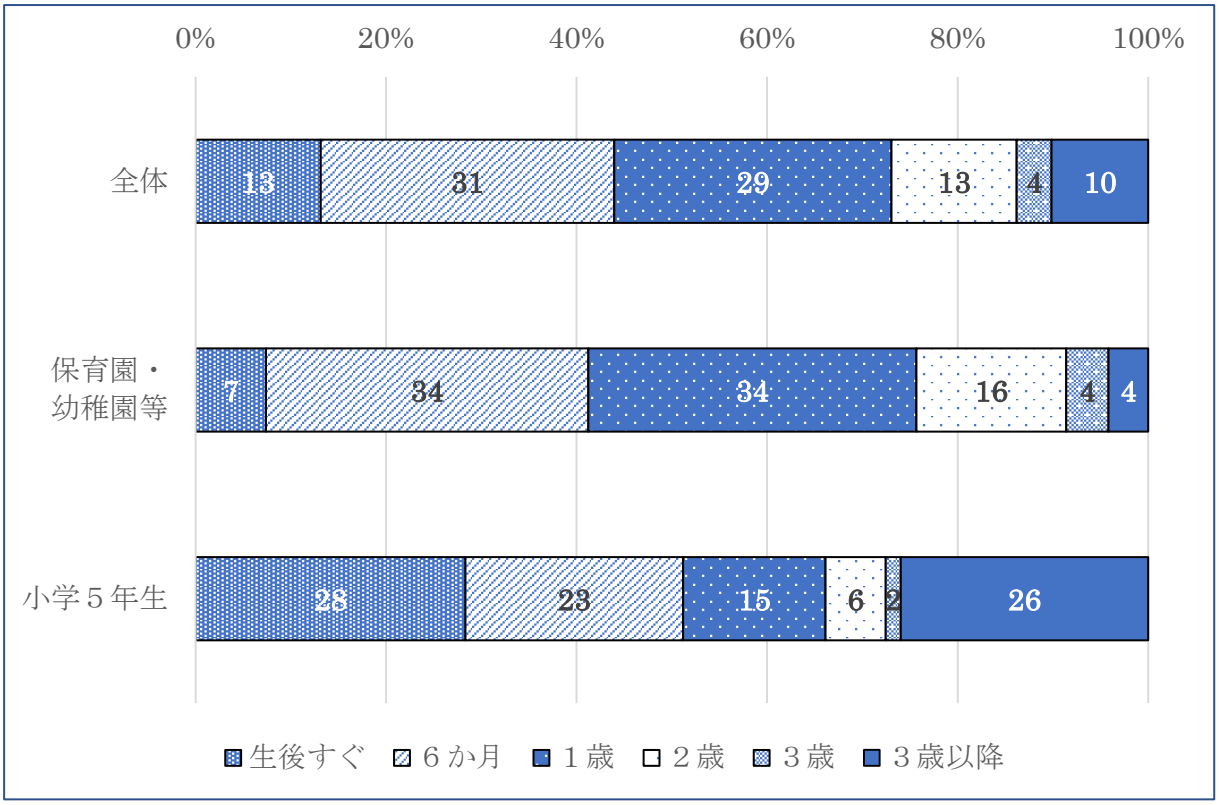


家庭で読み聞かせをしたことのある保護者に対し、その頻度について質問したところ、「週に２～３回」以上の回答がいずれも６割以上を占めた。しかし、その内訳を見ると、保育園・幼稚園等の保護者で「毎日」の回答率２６％は、小学校５年生の保護者の同回答５２％の半分であり、大きな差が生じている。保育園・幼稚園等の保護者は、小学５年生の保護者と比べて「週に１回」の回答率も高く、総じて読み聞かせの頻度が少ない結果となった。

問５　絵本などの読み聞かせを始めた時期はいつですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	① 生後 すぐ	② ６か月 までに	③ １歳 までに	④ ２歳 までに	⑤ ３歳 までに	⑥ ３歳 以降
全　体	13	31	29	13	4	10
保育園・幼稚園等	7	34	34	16	4	4
小学５年生	28	23	15	6	2	26



読み聞かせを始めた時期について質問したところ、保育園・幼稚園等の保護者は「６ヶ月までに」から「２歳までに」の間が８４％と大半であるのに対し、小学５年生の保護者は「生後すぐ」から「１歳までに」の間が６６％、「３歳以降」が２６％と二極化していたことが判明した。

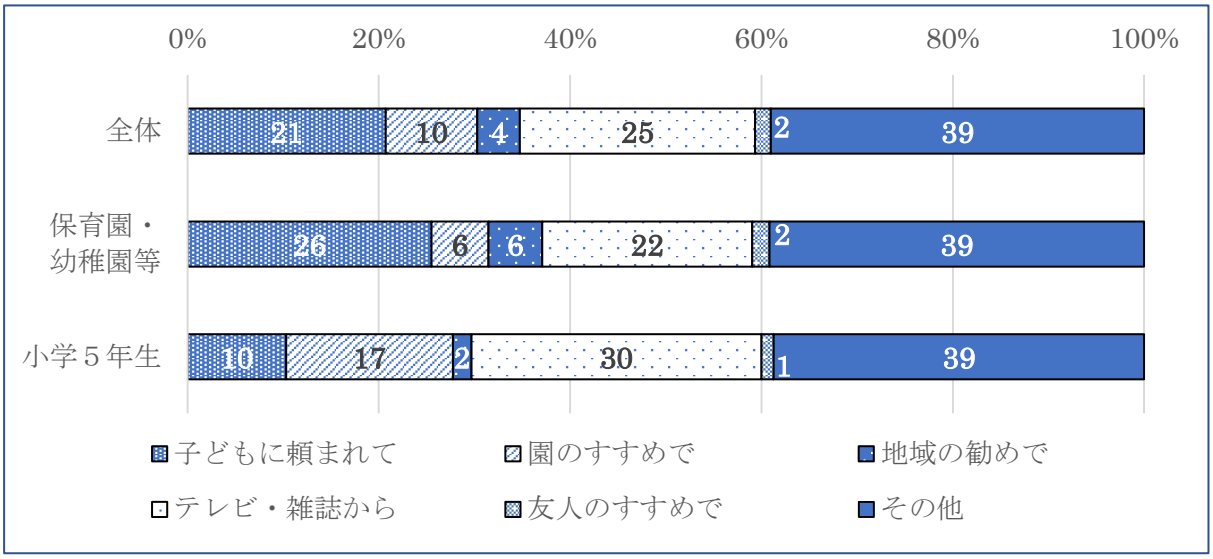
問６　絵本などの読み聞かせを始めたきっかけはなんですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	① 子どもに頼まれて	② 幼稚（保育）園のすすめで	③ 地域のすすめで	④ テレビや雑誌を見て	⑤ 友人のすすめで	⑥ その他 （　　）
全　体	21	10	4	25	2	39
保育園・幼稚園等	26	6	6	22	2	39
小学５年生	10	17	2	30	1	39

⑥　その他へ寄せられた回答の代表例（他、類似回答多数）
（保育園・幼稚園等・小５保護者）

読んであげたいと思ったから。	本を好きになってもらいたいから。
読み聞かせの良さを知っていたので。	子どもが喜ぶと思った。
自分が本が好きだから。	自分も母にしてもらっていたから。
コミュニケーションのため。	絵本をプレゼントされて。
図書館や児童館などの読み聞かせから。	本があったから。



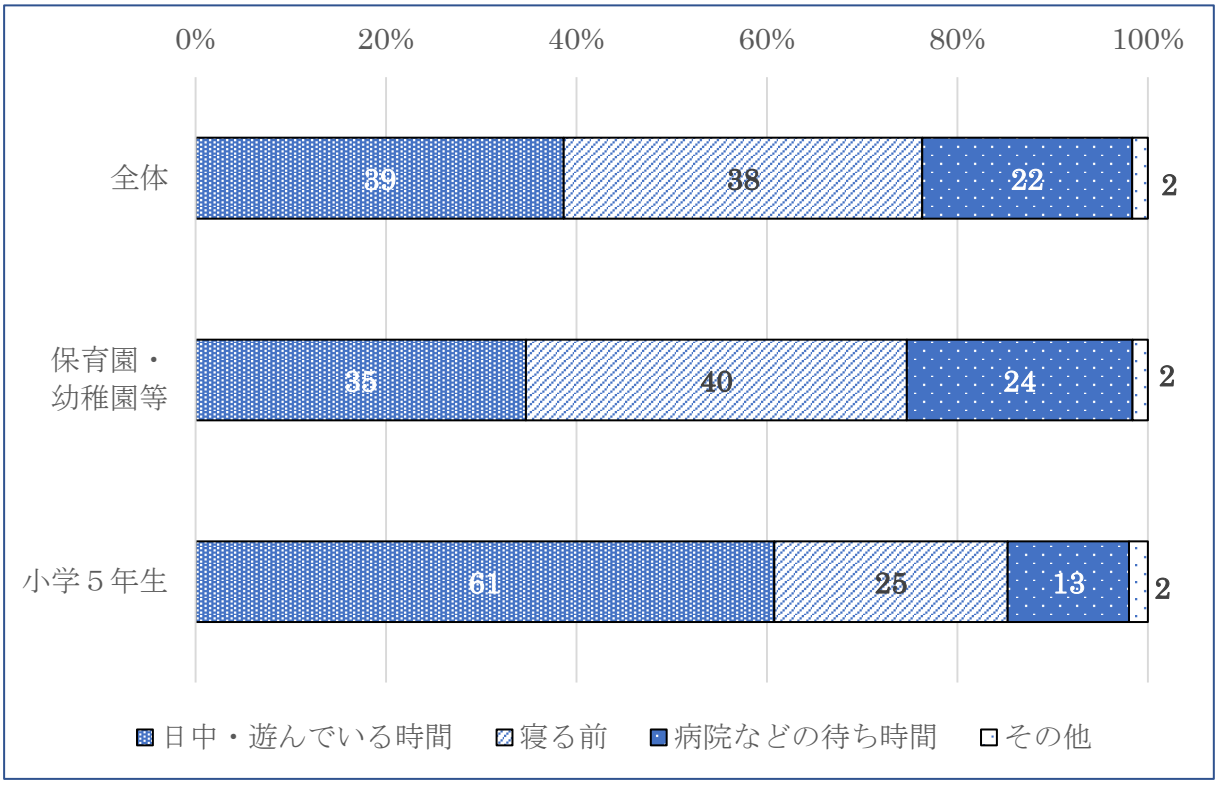
絵本などの読み聞かせを始めたきっかけに関する回答としては、「テレビや雑誌を見て」「子どもに頼まれて」「幼稚（保育）園のすすめで」が多く、理由はさまざまであった。その他へ寄せられた自由回答へは、１人１人の書き方は様々だが、「読んであげたいと思った」「本を好きになってもらいたい」「読み聞かせの良さを知っていたので」「子どもが喜ぶと思った」など、子どもの健やかな成長を願う保護者の想いにあふれた回答が多数寄せられた。

問７　お子様に本を読んであげる（読んであげていた）のはどんな時ですか。
（２つまで選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	①日中・遊んでいるとき	②寝る前	③病院などの待ち時間	④その他 （　　）
全　体	３９	３８	２２	2
保育園・幼稚園等	３５	４０	２４	2
小学５年生	６１	２５	１３	2

④その他へ寄せられた回答

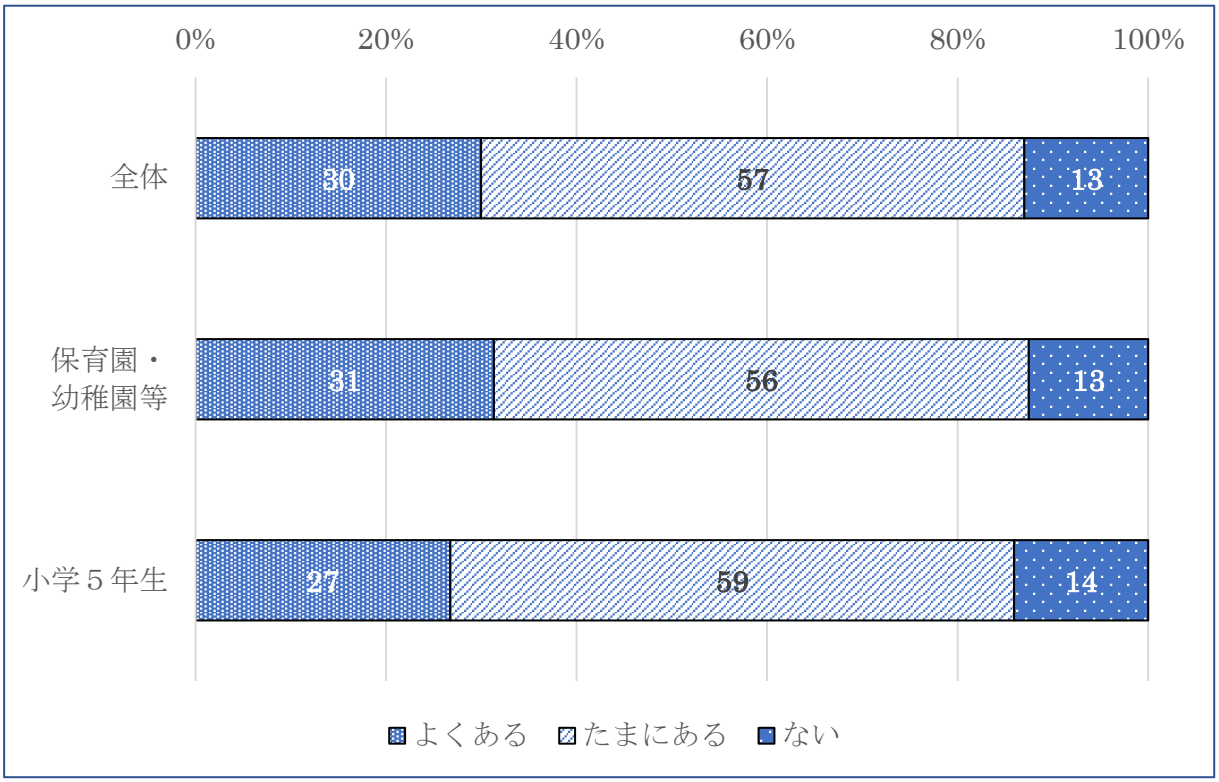
子どもが本を持って来たとき。子どもから読んでと頼まれたとき。 （保育園・幼稚園等・小５保護者）
おもちゃを全て片付け終わった後。　（幼稚園等保護者）
寝る前が多いですが、待ち時間でも読んでいました。　（小５保護者）
朝食後。　（幼稚園等保護者）
夕方。　（小５保護者）



お子様に本を読んであげる（読んであげていた）のはどんな時かとの問いに対し、「日中、遊んでいるとき」と「寝る前」で約８割を占める結果となった。また、その他へ寄せられた自由回答では、様々な場面で読み聞かせが行なわれており、特定の傾向は見られなかった。

問８　幼稚園や保育園、学校で紹介されたり、実際にお子様が読んでもらっている本をお家で読んだことがありますか。（１つ選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	①よくある	②たまにある	③ない
全　体	３０	５７	１３
保育園・幼稚園等	３１	５６	１３
小学５年生	２７	５９	１４

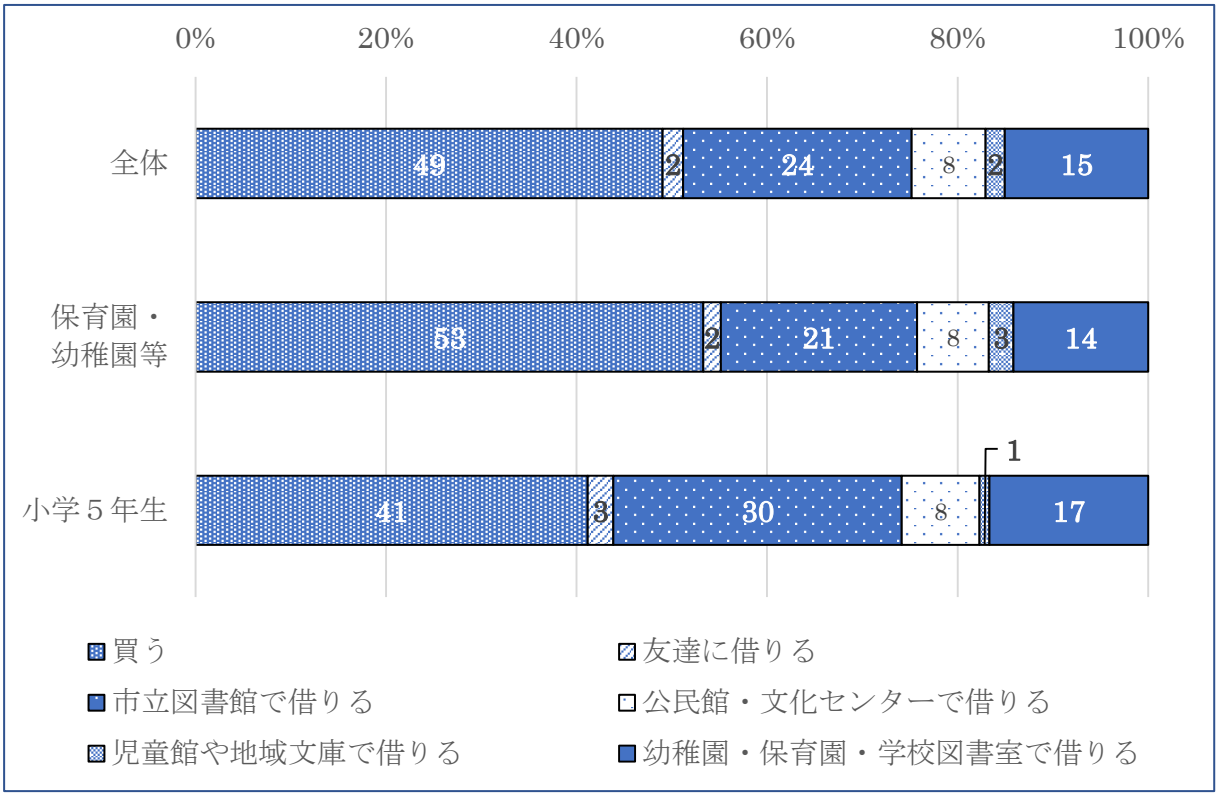


幼稚園、保育園、学校で紹介されたり、お子様が読んでもらっている本を家庭で読んだことがあるかとの問いに対し、全体的に８割以上の保護者が「よくある」か「たまにある」と回答している。子どもが通っている園や学校でおすすめする本等を保護者が参考にしている様子がわかる結果となった。

問９　お子様の本をどのように手に入れることが多いですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	① 買う	② 友達に借りる	③ 市立図書館で借りる	④ 公民館･文化センターで借りる	⑤ 児童館や地域文庫で借りる	⑥ 幼稚園・保育園・学校図書室で借りる
全　体	４９	2	２４	8	2	１５
保育園・幼稚園等	５３	2	２１	8	3	１４
小学５年生	４１	3	３０	8	1	１７

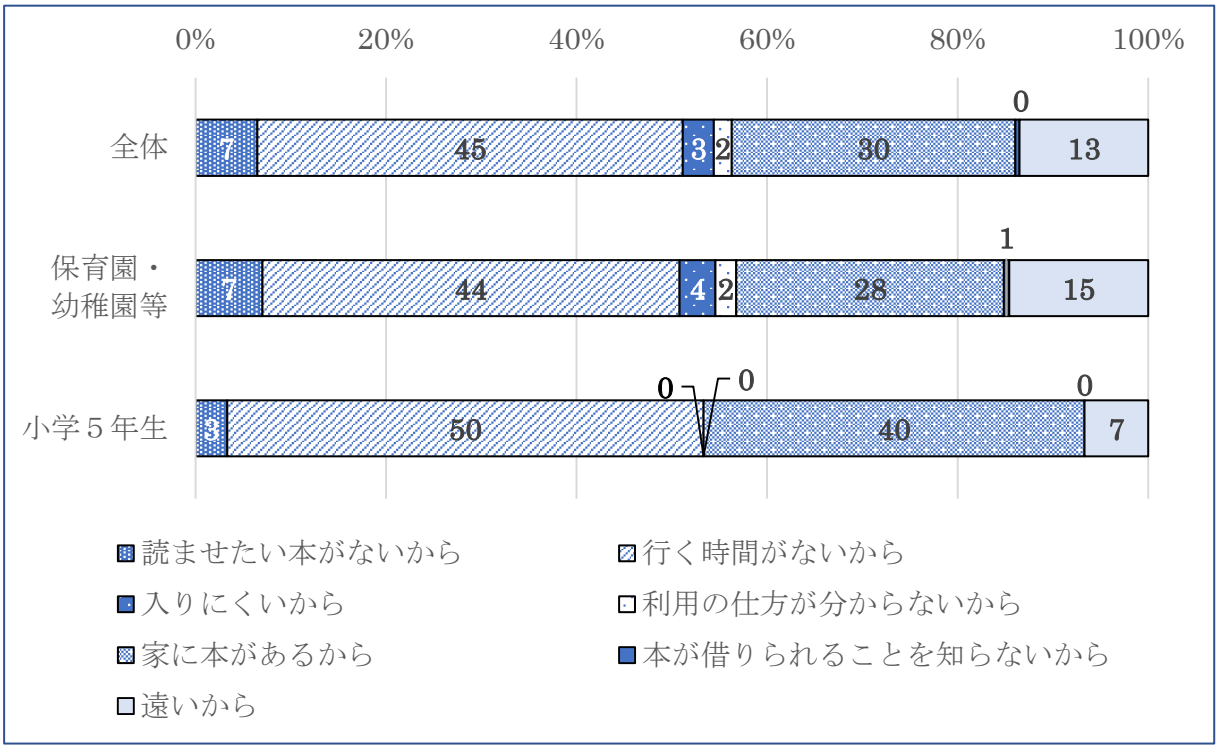


お子様の本をどのように手に入れることが多いかとの問いに対し、「買う」回答が４割から５割、残りが「借りる」回答となり、借りる場合がやや多い結果となった。借りる場所については、「友だちに借りる」と答えた２、３％の回答の保護者を除くほとんどの保護者が公共施設等を活用していることが判明した。その中で市立図書館が２割から３割と最多だが、幼稚園・保育園・学校図書室と公民館・文化センターを合わせると市立図書館よりも多く、多様化している様子が見られる。借りる施設名について特定はできないが、最寄りの施設、身近な施設から借りている可能性が考えられる。

問１０　問９で①・②だけをえらんだ方、幼稚園・保育園・学校図書室や市立図書館、公民館・文化センター、児童館の本を利用しないのはなぜですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分（保護者）	①読ませたい（読んであげたい）本がないから	②行く時間がないから	③入りにくいから	④利用の仕方が分からないから	⑤家に本があるから（買うから）	⑥本が借りられることを知らないから	⑦遠いから
全　体	7	４５	3	2	３０	0	１３
保育園・幼稚園等	7	４４	4	2	２８	1	１５
小学５年生	3	５０	0	0	４０	0	7

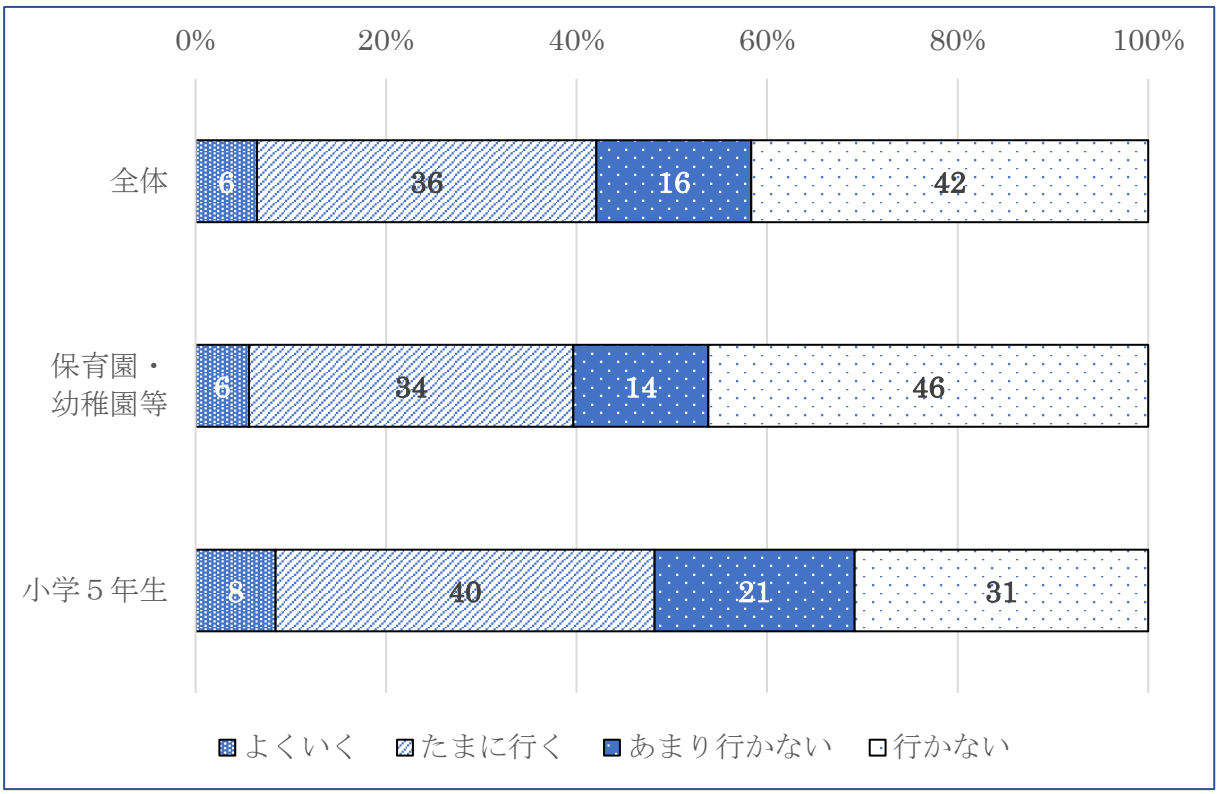


問９で公共施設等の本を利用しないと回答した保護者にその理由を尋ねたところ、４割から５割回答の「行く時間がない」が最多であり、以下「家に本があるから（買うから）」「遠いから」の順となった。「入りにくいから」「利用の仕方がわからないから」「本が借りられることを知らないから」ではなく、また、「読ませたい（読んであげたい）本がないから」も少ないことから、時間と距離に関する対策次第で、公共施設等の本の利用を増やせる可能性が見える結果となった。

問１１　今までに、図書館、公民館・文化センター、児童館などで行われた読み聞かせなどの行事に参加したことはありますか。あてはまるものを１つえらんでください。(1 つ選択)

（単位％）

区　分 （保護者）	① よく行く （行った）	② たまに 行く（行った）	③ あまり行かない（行かなかった）	④ 行かない （行かなかった）
全　体	6	３６	１６	４２
保育園・幼稚園等	6	３４	１４	４６
小学５年生	8	４０	２１	３１



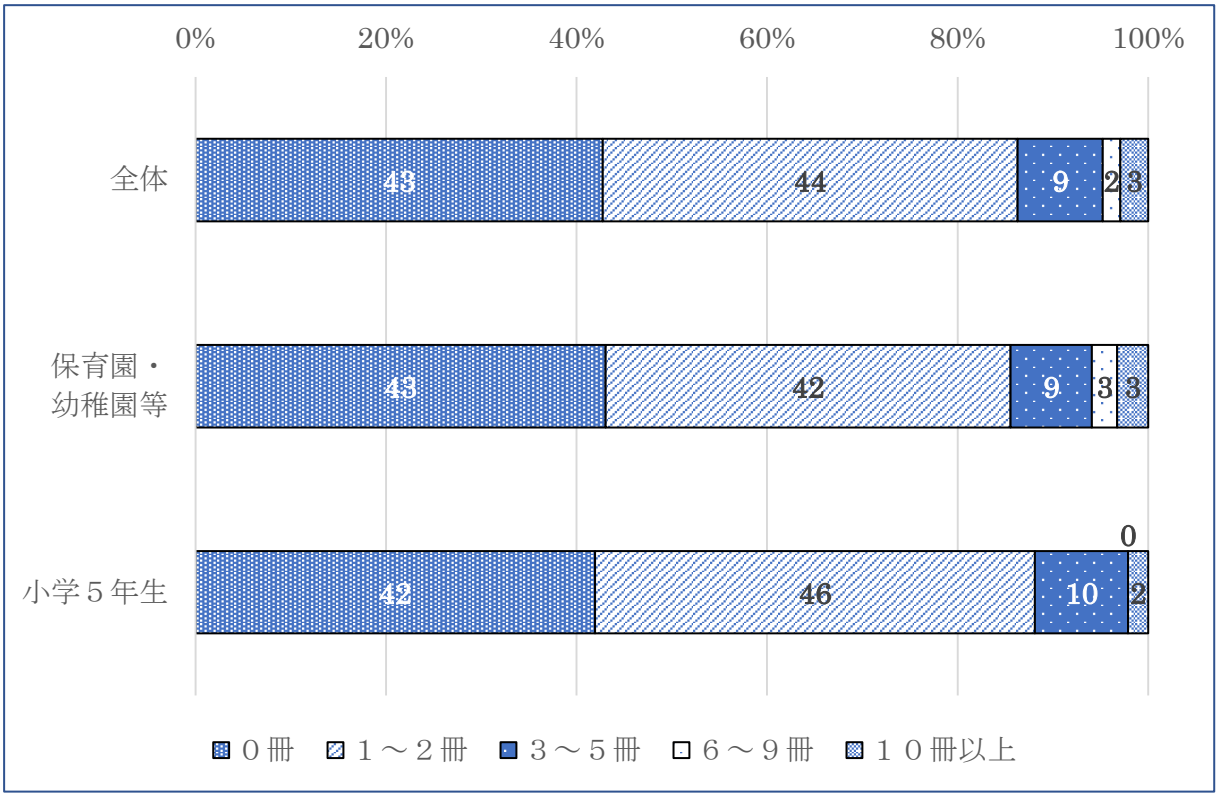
図書館、公民館・文化センター、児童館などで行われた読み聞かせなどの行事への参加経験について伺ったところ、「よく行く（行った)」と「たまに行く（行った)」と回答した、参加している保護者が４割から５割を占めていた。

しかし、子どもに対する類似質問（問４　Ｐ４２）では、参加したことがあるとの回答が約３割にとどまっており、回答に乖離がある。

問１２　あなたは、１か月に本を何冊くらい読んでいますか。（マンガ・雑誌は除く）（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	① ０冊	② １～２冊	③ ３～５冊	④ ６～９冊	⑤ １０冊以上
全　体	４３	４４	９	２	３
保育園・幼稚園等	４３	４２	９	３	３
小学５年生	４２	４６	１０	０	２

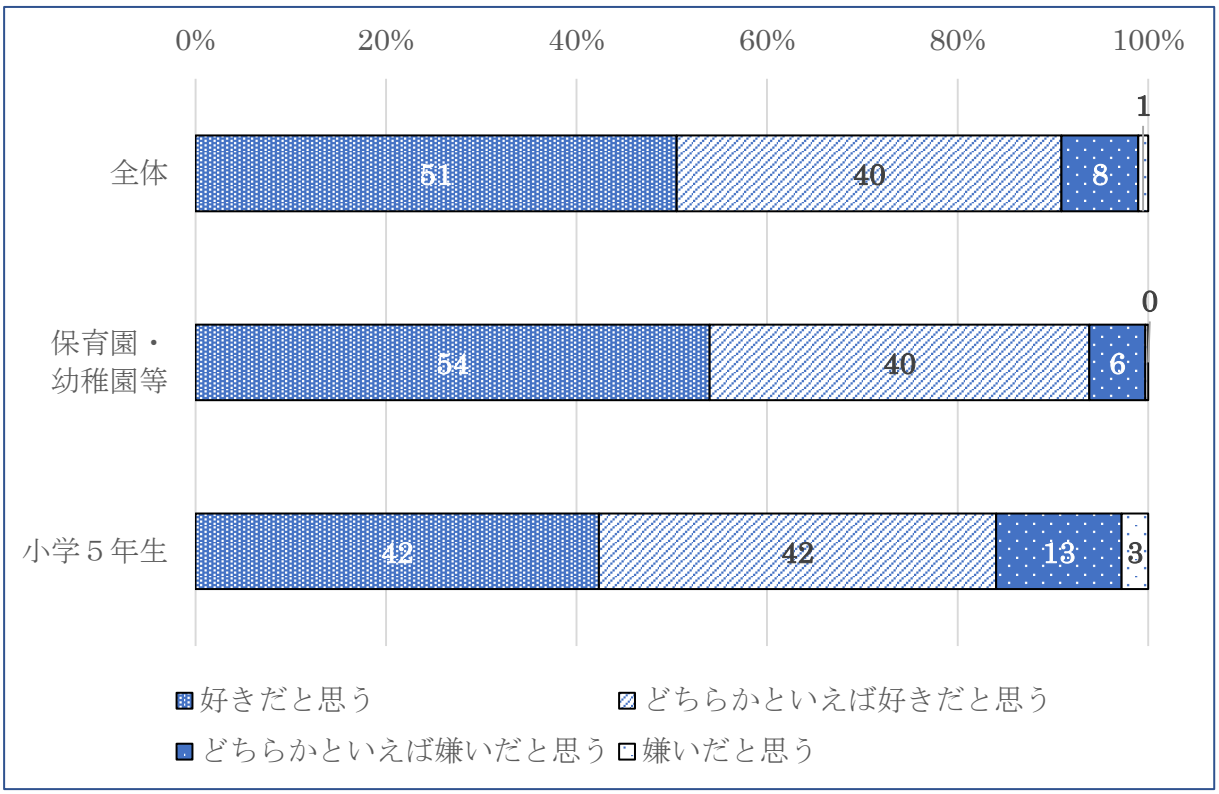


１ヶ月間の読書量に関する問いに対し、「１～２冊」と「０冊」で８割から９割を占めており、子どもに比べて保護者の読書量が少ないことがわかった。

問１３　あなたはお子様が本を好きだと思いますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	① 好きだと思う	② どちらかといえば好きだと思う	③ どちらかといえば嫌いだと思う	④ 嫌いだと思う
全　体	５１	４０	８	１
保育園・幼稚園等	５４	４０	６	０
小学５年生	４２	４２	１３	３

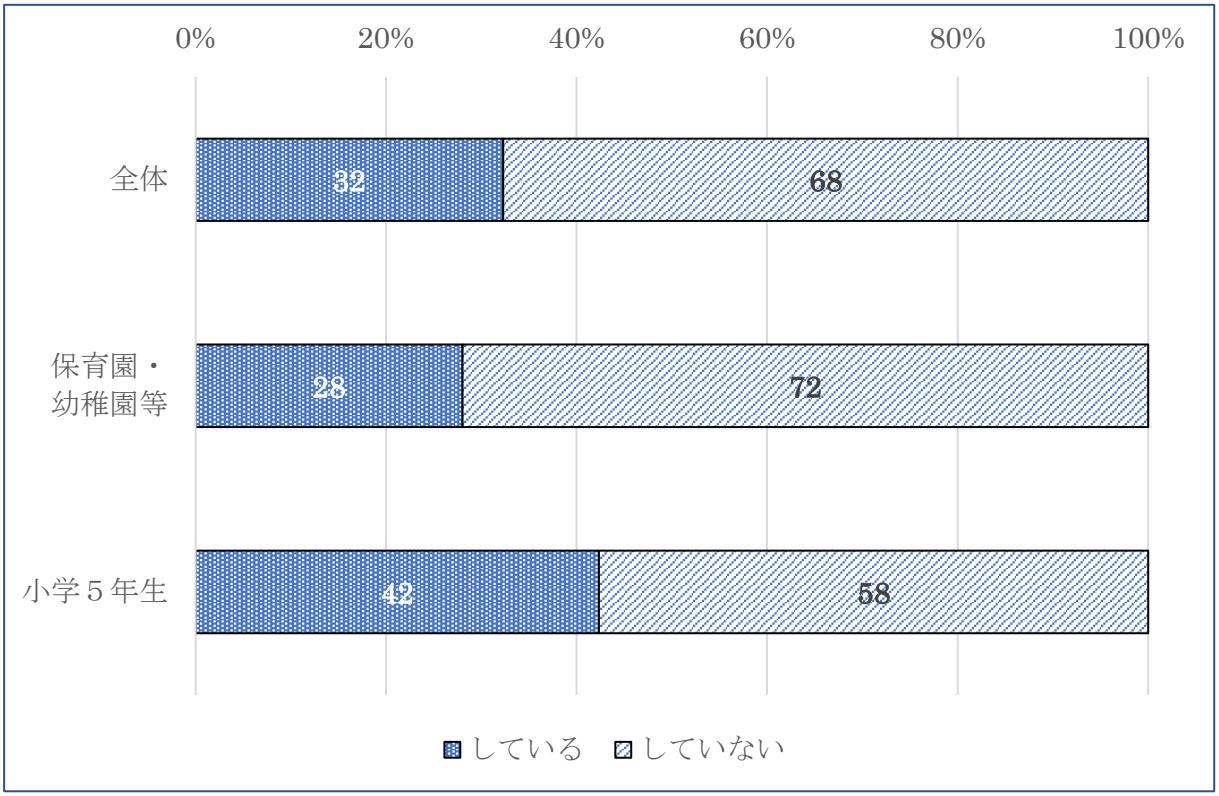


子どもが本を好きだと思うかとの問いに対し、「好きだと思う」の回答が最多であり、「どちらかといえば好きだと思う」と合わせたポジティブ回答は９割前後にも上がった。これは、子どもに本が好きかと尋ねた質問の回答（子どもの問１・掲載はＰ４７）と同様の傾向であり、子どもの本に対する好意度について親子でその認識がほぼ一致していることが裏付けられた。

問１４　ご家庭で新聞を購読していますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	①　している	②　していない
全　体	３２	６８
保育園・幼稚園等	２８	７２
小学５年生	４２	５８



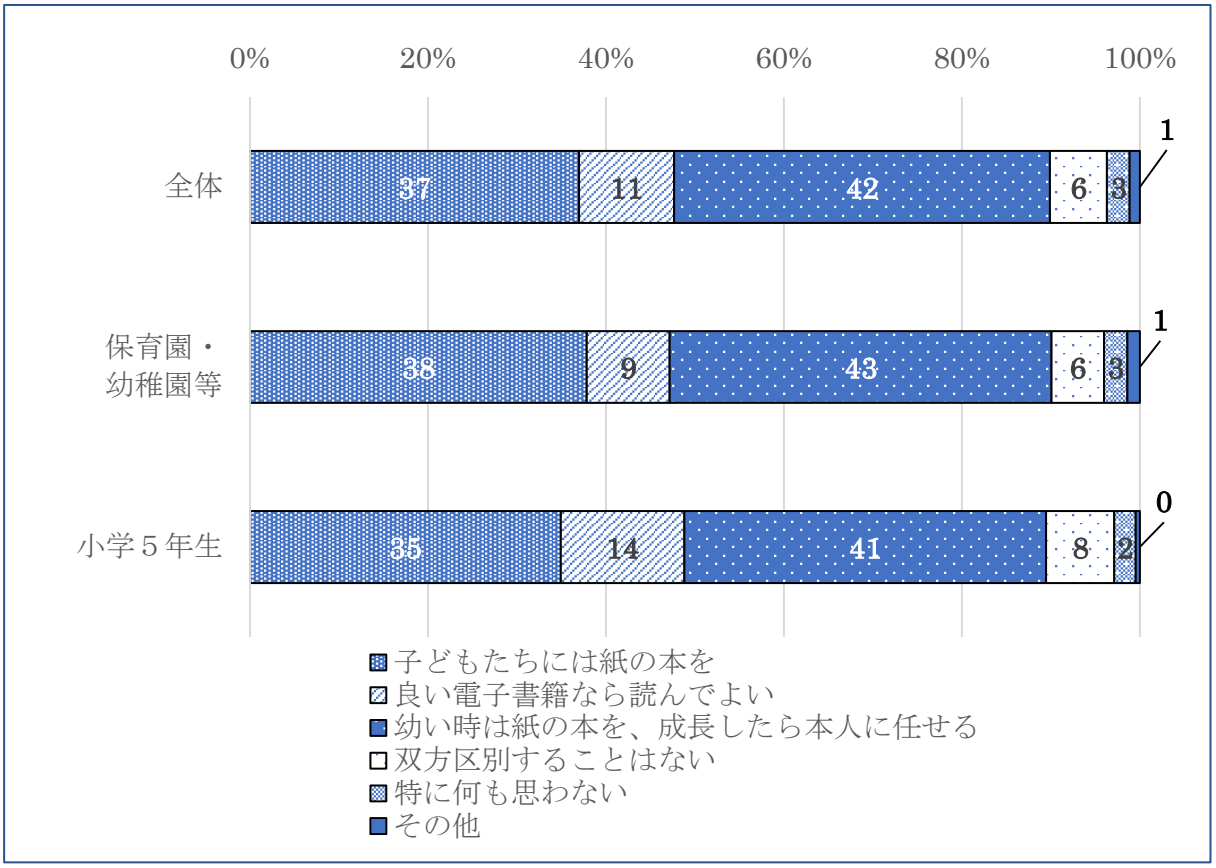
家庭における新聞の購読について質問したところ、「している」回答が保育園・幼稚園等の保護者で２８％、小学５年生で４２％と差が生じた。特に、保育園・幼稚園等の保護者の７２％が「していない」と回答しており、若い家庭での新聞購読率の低下が著しいことが判明した。

問１５　電子書籍（スマートフォンやタブレットの画面で読む本）と子どもたちの読書について、どのように思いますか。（２つまで選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	① 電子書籍が普及しても、子どもたちには紙の本を読んでほしい	② 良い電子書籍なら読んでもいいと思う	③ 子どもが幼い時は紙の本をすすめるが、ある程度成長したら本人に任せる	④ 電子化は世の中の流れなので、紙の本と電子書籍を区別する必要はない	⑤ 特に何も思わない	⑥ その他
全　体	３７	１１	４２	6	3	1
保育園・幼稚園等	３８	9	４３	6	3	1
小学５年生	３５	１４	４１	8	2	0

⑥　その他へ寄せられた意見

自分はハード（文庫ではなく厚い本）が好きだったため、紙には紙のいいところ（におい、色、さしえ、丁装等）がある。読みすすめるたのしさは紙にはあるが、利便性や沢山本をよむのであれば、電子の方が良いのかと思う（TPOによる）。　（保育園保護者）
外出の時などは、電子書籍が便利だと思います。　（保育園保護者）
自分は紙の方が使いやすかったので紙にしたが、電子書籍が便利と思えばそっちを使ったと思う。　（幼稚園等保護者）
電子書籍の内容より、目に与えるダメージが少なければ、電子書籍も読んでいいと思う。　（小５保護者）
電子書籍はとても便利だが目への負担が大きいのでなるべく紙の本を読んだ方がいいと思う。　（幼稚園等保護者）
本は自分の手で取って、自分自身で本を持って読んでほしいです。実際に本を探しに行き、読みたい、気になる本を選ぶ事がとても大事です。　（幼稚園等保護者）

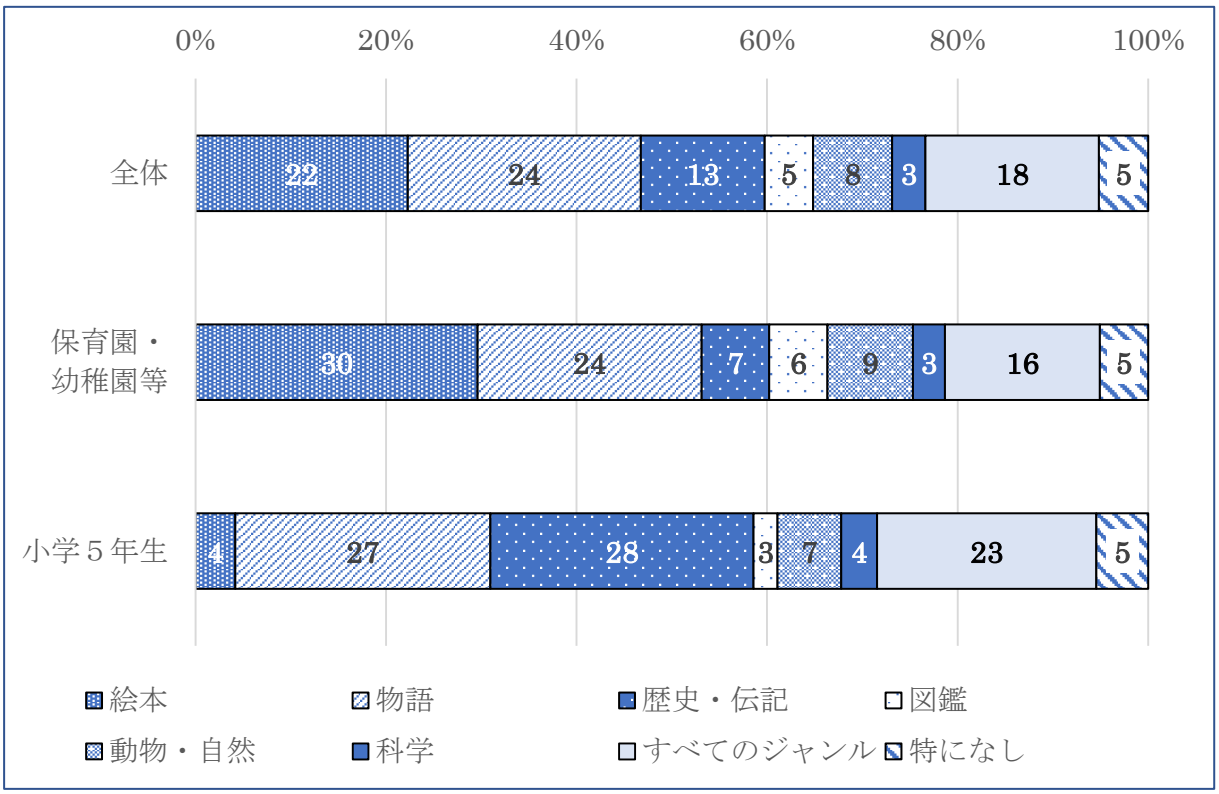


電子書籍と子どもたちの読書について、どのように思うか尋ねたところ、「子どもが幼い時は紙の本をすすめるが、ある程度成長したら本人に任せる」が最多となり、「電子書籍が普及しても、子どもたちには紙の本を読んでほしい」が賓差で次に多く、両回答で約８割を占めた。「良い電子書籍なら読んでもいいと思う」「電子化は世の中の流れなので、紙の本と電子書籍を区別する必要はない」の電子書籍に抵抗感のない回答が約２割であり、子どもの読書は紙の本を薦めたい保護者がまだまだ多い結果となった。

問１６　お子様に読ませたい本のジャンルはありますか。（２つまで選択）

（単位％）

区　分（保護者）	①絵本	②物語の本	③歴史・伝記	④図鑑	⑤動物・自然	⑥科学（宇宙・化学）	⑦すべてのジャンル	⑧特に読ませたいジャンルはない
全　体	22	24	13	5	8	3	18	5
保育園・幼稚園等	30	24	7	6	9	3	16	5
小学５年生	4	27	28	3	7	4	23	5

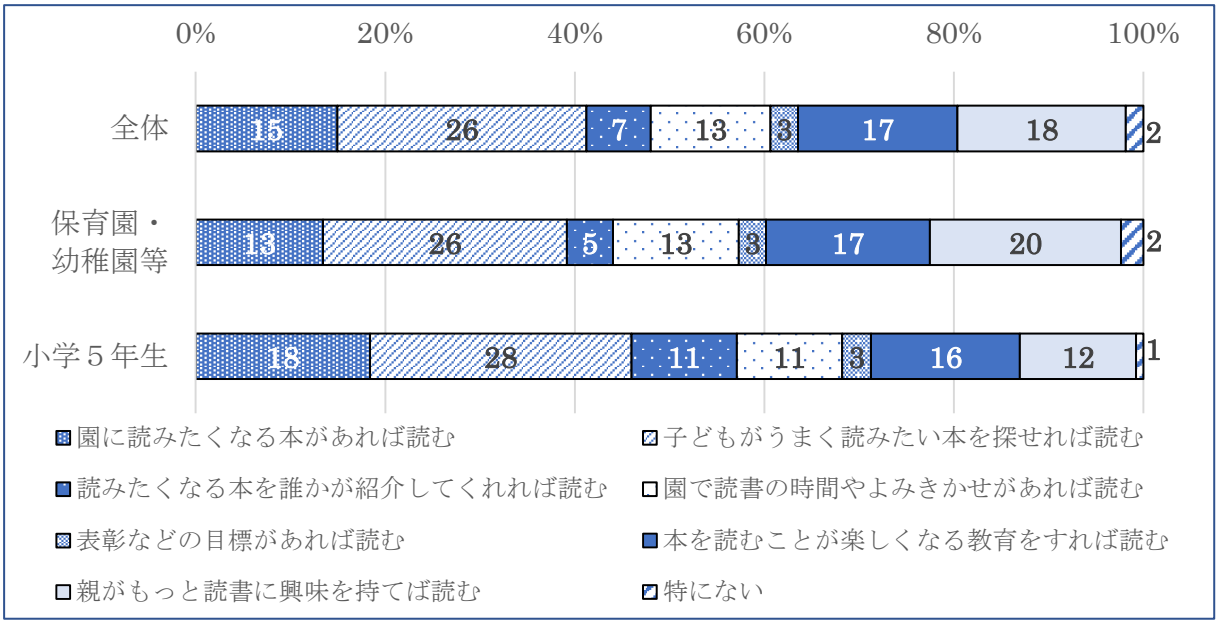


子どもに読ませたい本のジャンルについて質問したところ、保育園・幼稚園等の保護者、小学５年生の保護者共に「物語の本」「すべてのジャンル」とする回答が多かった。特徴的な点としては、保育園・幼稚園等の保護者が「絵本」、小学５年生の保護者が「歴史・伝記」とそれぞれ約３割回答しており、それぞれの最多回答となっている。成長段階に応じて読ませたい本が変わっていく様子がうかがえる。

問１７　あなたのお子様がもっと本を読むためには何が必要だと思いますか。
（２つまで選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	①学校(園)に読みたくなる本があれば、読むと思う	②子どもが読みたい本をうまくさがせたら、読むと思う	③読みたくなる本を誰かが紹介してくれたら、読むと思う	④学校(園)で「読書の時間(読み聞かせ)」があれば、読むと思う
全　体	１５	２６	７	１３
保育園・幼稚園等	１３	２６	５	１３
小学５年生	１８	２８	１１	１１

区　分	⑤一定の冊数を読んだら表彰されるなどの目標があれば、読むと思う	⑥本を読むことが楽しくなるような教育をすれば、読むと思う	⑦親がもっと読書に興味を持てば、読むと思う	⑧特にない
全　体	３	１７	１８	２
保育園・幼稚園等	３	１７	２０	２
小学５年生	３	１６	１２	１



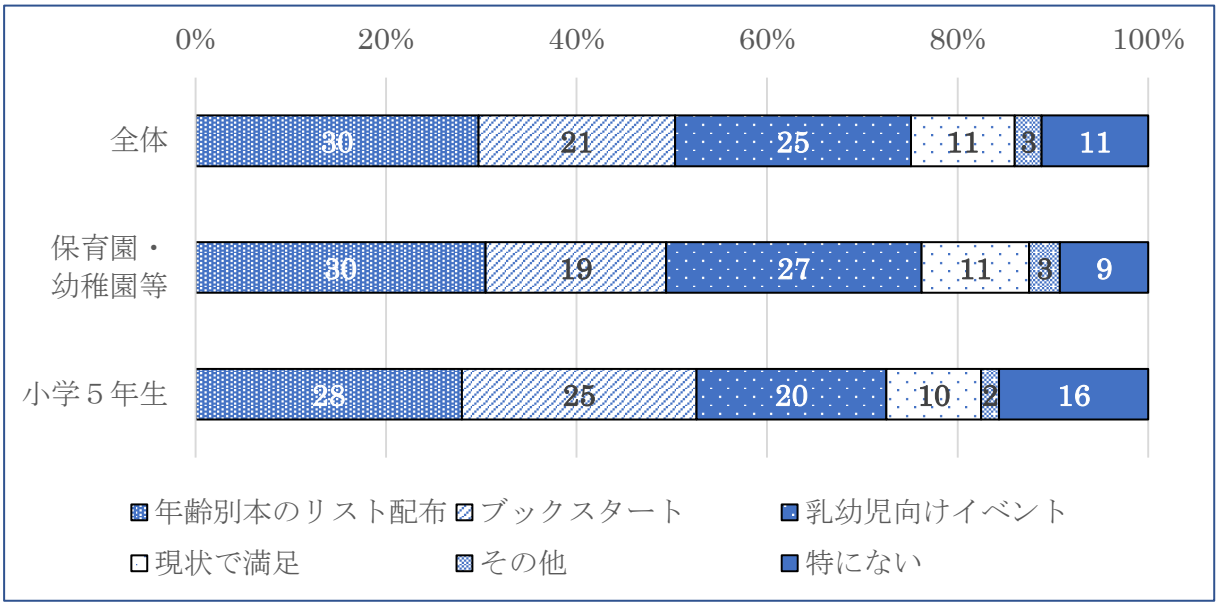
子どもがもっと本を読むために何が必要かとの問いに対し、保育園・幼稚園等の保護者と小学５年生の保護者で若干の違いはあったが、どちらも「子どもが読みたい本をうまくさがせたら、読むと思う」が最多回答であり、「親がもっと読書に興味を持てば、読むと思う」「学校（園）に読みたくなる本があれば、読むと思う」が続いている。

問１８　乳幼児を対象に実施してほしい事業をえらび、実施してほしい施設や場所を記入してください（２つまで選択）　（単位％）

区　分（保護者）	①年齢別本のリスト配布	②ブックスタート（乳幼児の保護者に、本や子育ての情報が入ったパックを手渡しして絵本を介してふれあうきっかけを作る活動）	③乳幼児向けイベント（読み聞かせ・劇）	④現状で満足している	⑤その他（　）	⑥特にない
全　体	３０	２１	２５	１１	３	１１
保育園・幼稚園等	３０	１９	２７	１１	３	９
小学５年生	２８	２５	２０	１０	２	１６

実施してほしい施設・場所

小学校・保育園・幼稚園	３８件	公民館・文化センター	３７件
図書館	１９件	児童館	１７件



乳幼児を対象に実施してほしい事業について保護者へ尋ねたところ、「乳幼児向けイベント（読み聞かせ・劇）」「年齢別本のリスト配布」が多く、全市的に盛んに実施されている読み聞かせと、中央図書館や学校等で行なっているブックリストの作成が、ニーズと一致していることが裏付けられた。３番目に多い「ブックスタート」については、今後の事業展開の参考にしたい。実施してほしい施設・場所については、最寄りの施設が多い傾向にある。

２）－４　保護者調査の結果【Ｐ/Ｎの比較】

「２）－２　小学生・中学生・高校生調査の結果　【Ｐ/Ｎの比較】」と同様に、保護者調査に対しても「問１　あなたは本を読むことが好きですか。（１つ選択）」の質問に対し、

- 「好き」か「どちらかといえば好き」のいずれかのポジティブな回答をした子どもを**Ｐ群（＝ｐｏｓｉｔｉｖｅ群）**、
- 「どちらかといえば嫌い」か「嫌い」のいずれかのネガティブな回答をした子どもを**Ｎ群（＝ｎｅｇａｔｉｖｅ群）**

の２群に分け、問２以降の回答において、２群の間で差が生じたり明瞭な傾向が見える回答・選択肢に限り記載しました。

■Ｐ群とＮ群について

問１　あなたは本を読むことが好きですか。（１つ選択）の回答に対し

（単位％）

区　分（保護者）	①　好き	②どちらかといえば好き	Ｐ群（①＋②）	③どちらかといえば嫌い	④　嫌い	Ｎ群（③＋④）
全　体	３７	４３	８０	１８	２	２０
保育園・幼稚園等	３９	４２	８０	１９	１	２０
小学５年生	３４	４６	８０	１６	３	２０

このグループをＰ群としました

このグループをＮ群としました

問２　あなたは本を読むことは大切だと思いますか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	①思うか②どちらかといえば思う		③どちらかといえば思わないか④思わない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**100**	**98**	0	2
保育園・幼稚園等	**100**	**99**	0	1
小学５年生	**100**	**97**	0	3

本を読むことが大切と思うかとの問いに対し、Ｐ群、Ｎ群共に「思う」と「どちらかといえば思う」の回答がほぼ全員から寄せられた。子どもからの回答と大きく異なり、保護者の場合は読書に対する好意度に関係なく、読書の重要性を認識している結果となった。

問３　ご家庭で、お子様に読み聞かせをしたことがありますか。
（1 つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	① ある（あった）		②ときどきある（あった）		③あまりない（なかった） ④ない（なかった）	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**73**	４７	２４	４０	3	**13**
保育園・幼稚園等	**71**	４７	２７	４６	2	**7**
小学５年生	**77**	４７	１８	２７	5	**26**

家庭で子どもへ読み聞かせをしたことがあるか尋ねたところ、Ｐ群は「ある（あった）」との回答がＮ群よりも約３割も多く寄せられ、「あまりない（なかった）」「ない（なかった）」の回答が少なかった。保護者の読書に対する好意度によって、子どもの読み聞かせ体験に差が生じていることがわかった。

問４　問３で①～③をえらんだ方、どれくらいの頻度で絵本などの読み聞かせをしていますか（していましたか）。(1 つ選択)

（単位％）

区　分（保護者）	①毎日		②週に２～３回		③週に１回		④月に１回	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**29**	１５	**41**	２７	１７	**32**	１３	**26**
保育園・幼稚園等	**29**	１２	**38**	２５	１９	**38**	１４	**25**
小学５年生	**27**	２１	**48**	３２	１５	**18**	１０	**29**

家庭での子どもへの読み聞かせの頻度については、Ｐ群では「毎日」と「週に２～３回」の合計で約７割を占め、同回答が約５割のＮ群よりもかなり多く実施している（していた）ことがわかった。「週に１回」「月に１回」の回答がＮ群において多くなり、２群の差は歴然としている。この傾向は、保育園・幼稚園の保護者において更に顕著である。

問５　絵本などの読み聞かせを始めた時期はいつですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分（保護者）	①生後すぐ		②６か月		③１歳		④２歳		⑤ ⑥３歳以降	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	8	9	**36**	**22**	**33**	**37**	12	**23**	11	11
保育園・幼稚園等	8	3	**36**	**25**	**34**	**37**	13	**28**	9	8
小学５年生	8	14	**36**	**18**	**32**	**36**	10	**18**	12	14

読み聞かせを始めた時期については、Ｐ群では「６か月」「１歳」が最多ゾーンとなっており、Ｎ群では「１歳」を中心に「６か月」から「２歳」まで幅広く分布している。特に「６か月」の回答にＰ群とＮ群で差が生じており、総じてＰ群の方が、子どもの成長段階の早期から読み聞かせを行っていることが判明した。

問６　絵本などの読み聞かせを始めたきっかけはなんですか。（１つ選択）

（単位％）

区　分 （保護者）	①　子どもに頼まれて		②　幼稚（保育）園のすすめで		③　地域のすすめで	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	２４	**35**	6	9	7	5
保育園・幼稚園等	２４	**32**	5	１１	5	8
小学５年生	２３	**43**	8	4	１１	0

区　分 （保護者）	④テレビや雑誌を見て		⑤友人のすすめで		⑥その他（　　）	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	２４	１９	1	3	**39**	２９
保育園・幼稚園等	２３	１７	1	5	**42**	２９
小学５年生	２４	２５	2	0	**32**	２９

⑥　その他へ寄せられた回答の代表例（他、類似回答多数）
（保育園・幼稚園等・小５保護者：８７％がＰ群の回答）

読んであげたいと思ったから。	本を好きになってもらいたいから。
読み聞かせの良さを知っていたので。	子どもが喜ぶと思った。
自分が本が好きだから。	自分も母にしてもらっていたから。
コミュニケーションのため。	絵本をプレゼントされて。
図書館や児童館などの読み聞かせから。	本があったから。

読み聞かせを始めたきっかけについて尋ねたところ、Ｐ群、Ｎ群共に「子どもに頼まれて」「テレビや雑誌を見て」「その他」が多かった。その中でも、Ｐ群では「その他」が最多であり、寄せられた自由記述回答を見ると、保護者の明確な意志・働きかけから始めた例が多い様子がうかがえる。Ｎ群では、保護者の意志がきっかけではない「子どもに頼まれて」が最多であった。

問８　幼稚園や保育園、学校で紹介されたり、実際にお子様が読んでもらっている本をお家で読んだことがありますか。（１つ選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	①よくある		②たまにある		③ない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**33**	１５	**55**	**68**	１２	１７
保育園・幼稚園等	**35**	１５	**53**	**71**	１２	１４
小学５年生	**28**	１４	**60**	**61**	１２	２５

幼稚園、保育園、学校で紹介されたり、子どもが読んでもらっている本を家庭で読んだことがあるかとの問いに対し、Ｐ群、Ｎ群共に「たまにある」が最多回答となった。次いで、Ｐ群では「よくある」が多く、Ｎ群よりも１～２割多い回答数であった。読書に対し好意度の高い保護者の方が、園や学校で働きかけのあった本を実際に活用しているようである。

問１２　あなたは、１か月に本を何冊くらい読んでいますか。（マンガ・雑誌は除く）（１つ選択）　（単位％）

区　分 （保護者）	①０冊		②１～２冊		③④３～９冊		⑤１０冊以上	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	３４	**79**	**50**	１５	**12**	６	**4**	０
保育園・幼稚園等	３４	**78**	**49**	１６	**13**	６	**4**	０
小学５年生	３３	**80**	**53**	１３	**12**	６	**3**	０

１か月間の読書量については、Ｐ群が「１～２冊」が最多なのに対し、Ｎ群は「０冊」の回答が最多であった。「３冊～９冊」「１０冊以上」の回答もＰ群の方が多く、読書に対する好意度が読書量に反映された結果となった。

問１４　ご家庭で新聞を購読していますか。（１つ選択）　（単位％）

区　分（保護者）	①　している		②　していない	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	**35**	２１	６５	**79**
保育園・幼稚園等	**31**	１８	６９	**82**
小学５年生	**45**	３０	５５	**70**

新聞の購読については、「している」家庭がＰ群の方がＮ群よりも１割以上多く、より活字に親しんでいる傾向が見られた。しかし、Ｐ群であっても、「している」回答は３、４割にしか過ぎず、大半の家庭で新聞を購読していない状況が明らかとなった。新聞離れが進んでいる。

問１５　電子書籍（スマートフォンやタブレットの画面で読む本）と子どもたちの読書について、どのように思いますか。（２つまで選択）　（単位％）

区　分（保護者）	①電子書籍が普及しても、子どもたちには紙の本を読んでほしい		②良い電子書籍なら読んでもいいと思う		③子どもが幼い時は紙の本をすすめるが、ある程度成長したら本人に任せる	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	３８	３２	１０	１４	４２	４５
保育園・幼稚園等	３９	３１	８	１６	４３	４４
小学５年生	３６	３５	１４	１２	３９	４７

区　分（保護者）	④電子化は世の中の流れなので、紙の本と電子書籍を区別する必要はない		⑤特に何も思わない		⑥その他	
	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群	Ｐ群	Ｎ群
全　体	7	4	2	4	1	0
保育園・幼稚園等	6	5	2	4	2	0
小学５年生	9	2	2	5	1	0

電子書籍に対する考え方について、Ｐ群とＮ群の違いは感じられない。

２）－５　保護者とその子どもの調査の結果【クロス集計】

当調査は、小学５年生に限り子どもとその保護者に対しアンケートを実施しました。両者のクロス集計を行い、保護者の読書に関する好意度や行動が、その子どもへ及ぼしている影響について調べました。

［保護者調査（５年生）］問１　あなたは本を読むことが好きですか。
［小学生調査（５年生）］問１　あなたは本を読むことが好きですか。

本を読むことが好きか　保護者と子どもの相関関係　　（単位：％）

子ども／保護者	「好き」「どちらかと言えば好き」	「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」	保護者の好意度が子どもの好意度へ相関している割合
「好き」「どちらかと言えば好き」	**72**	8	90
「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」	16	**4**	20
合計			**76**

読書に対する好意度について、小学５年生の保護者と子どもの相関について調べたところ、保護者の好き・嫌いの傾向が子どもへそのまま反映されている割合が７６％となり、保護者の影響があると考えられる。反面、保護者の読書に対する好意度が低いにもかかわらず、「好き」「「どちらかと言えば好き」と好意度の高い子どもが１６％に達していることに注目したい。

［保護者調査（５年生）］問２　あなたは本を読むことは大切だと思いますか。
［小学生調査（５年生）］問２　あなたは本を読むことは大切だと思いますか。

読書は大切と思うか　保護者と子どもの相関関係　　（単位：％）

子ども／保護者	「思う」「どちらかと言えば思う」	「どちらかと言えば思わない」「思わない」	保護者の好意度が子どもの好意度へ相関している割合
「思う」「どちらかと言えば思う」	**88**	6	77
「どちらかと言えば思わない」「思わない」	5	1	13
合計			**89**

本を読むことが大切と思う度合いについて、小学５年生の保護者と子どもの相関について調べたところ、保護者の認識傾向が子どもへそのまま反映されている割合が約９割となり、保護者の影響があると考えられる。

［保護者調査（5年生）］問１２　あなたは、１か月に本を何冊くらい読んでいますか。（マンガ・雑誌は除く）

［小学生調査（5年生）］問８　あなたは１か月に本を何冊読んでいますか。（教科書・参考書・マンガ・雑誌は除く）

１か月に読む本の冊数　保護者と子どもの相関関係　（単位：%）

子ども／保護者	0 冊	1～2冊	3～5冊	6～9冊	10冊以上
0 冊	5	14	12	7	4
1～2冊	3	11	13	6	11
3～5冊	1	0	4	2	3
6～9冊	0	0	1	0	0
10冊以上	0	1	1	0	1

保護者と同冊以上に子どもが読書している割合

■ の合計

94%

１か月の読書量について、小学５年生の保護者と子どもの相関について調べたところ、９割以上の子どもが保護者と同冊もしくは保護者以上に多く読書をしている傾向が見られた。

［保護者調査（５年生）］問５　絵本などの読み聞かせを始めた時期はいつですか。
［小学生調査（５年生）］問１　あなたは本を読むことが好きですか。

読み聞かせ開始時期で　子どもが本好きになるか　　（単位：%）

子ども／保護者	「好き」「どちらかと言えば好き」①	「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」②	①の割合 ①/(①＋②)
生後すぐ	9	0	**100**
6か月	30	3	**90**
1歳	29	5	**86**
2歳	11	1	**89**
3歳	6	0	**100**
それ以降	4	2	67

読み聞かせを始めた時期により、子どもの読書好きの傾向が影響されるか調べたところ、開始時期にほとんど差がない傾向が示された。サンプル数が少ないため断定はできないが、読み聞かせはいつ始めても有効なことが読み取れる傾向となった。

［保護者調査（５年生）］問７　お子様に本を読んであげる（読んであげていた）のはどんな時ですか。

［小学生調査（５年生）］問１　あなたは本を読むことが好きですか。

読み聞かせの時間で　子どもが本好きになるか　（単位：％）

子ども／保護者	「好き」「どちらかと言えば好き」①	「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」②	①の割合 ①/(①＋②)
日中	**26**	3	**90**
寝る前	**40**	4	**90**
待ち時間	**23**	3	**87**

子どもに読み聞かせをしてあげた時間・シーンによって、子どもの読書好きな傾向に差があるか調べたところ、サンプル数は「寝る前」が最多だが、好きかどうかの割合は、いずれの時の読み聞かせであっても約９割の子どもが読書好きな回答を示した。読み聞かせは、いつ行なっても効果がある傾向が示された。

●子どもの読書活動の推進に関する法律

（平成１３年１２月１２日法律第１５４号）

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

２　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

３　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

４　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

２　子ども読書の日は、四月二十三日とする。

３　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則

この法律は、公布の日から施行する。

●草加市子ども読書活動推進計画検討委員会設置要綱

（平成 28 年 10 月 28 日教委告示第１７号）

（設置）

第１条　子どもの読書活動の推進に関する法律（平成１３年法律第１５４号）第９条第２項の規定に基づき、本市における子ども読書活動推進計画（以下「計画」という。）を策定するため、草加市子ども読書活動推進計画検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条　検討委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

⑴　計画の策定に関すること。

⑵　その他計画に関して必要な事項

（組織）

第３条　検討委員会は、次に掲げる者をもって組織するものとし、草加市教育委員会が委嘱し、又は任命する。

⑴　市立小学校校長の代表者

⑵　市立中学校校長の代表者

⑶　埼玉県立高等学校校長の代表者

⑷　健康づくり課長

⑸　子育て支援課長

⑹　教育総務部副部長（中央図書館を所掌する者とする。）

⑺　指導課長

⑻　子ども教育連携推進室長

⑼　生涯学習課長

⑽　中央図書館長

（委員長及び副委員長）

第４条　検討委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は、教育総務部副部長をもって充てる。

３　副委員長は、中央図書館長をもって充てる。

４　委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　検討委員会は、委員長が招集し、委員長は、会議の議長となる。

２　委員長は、委員が委員会を欠席する場合には、当該委員の代理者の出席を

求めることができる。

（ワーキンググループ）

第６条　検討委員会における調査・研究の資料を作成するため、検討委員会にワーキンググループを設置する。

２　ワーキンググループは、別表に定める所属の職員のうち所属長から推薦された者をもって組織する。

３　ワーキンググループに座長及び副座長各１人を置く。

４　座長及び副座長は、ワーキンググループの構成員の互選による。

５　座長は、ワーキンググループを代表し、会務を掌理する。

６　副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。

７　ワーキンググループは、座長が招集し、会議の議長となる。

（関係者の出席）

第７条　検討委員会及びワーキンググループは、その所掌事項に関し必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

（設置期間）

第８条　検討委員会及びワーキンググループの設置期間は、平成２８年１１月１日から子ども読書活動推進計画の策定が終了するまでの間とする。

（庶務）

第９条　検討委員会の庶務は、中央図書館において処理する。

（委任）

第１０条　この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って定める。

附　則

この要綱は、平成２８年１１月１日から施行する。

●策定経緯

	月　日	内　　容
1	平成 28 年 11 月 9 日	第 1 回草加市子ども読書活動推進計画検討委員会 ・計画策定の趣旨及びスケジュールについて
2	平成 28 年 11 月 24 日	第 1 回草加市子ども読書活動推進計画検討 ワーキンググループ会議 ・各所属事業の確認 ・子どもの読書アンケートの実施について
3	平成 29 年 1 月 27 日	第 2 回草加市子ども読書活動推進計画検討 ワーキンググループ会議 ・各所属事業の確認 ・子どもの読書アンケート（案）について
4	平成 29 年 2 月 17 日	第 2 回草加市子ども読書活動推進計画検討委員会 ・市の事業取組確認 ・アンケートの実施について
5	平成 29 年 4 月～5 月	草加市子どもの読書アンケート調査の実施
6	平成 29 年 5 月 29 日	第 3 回草加市子ども読書活動推進計画検討 ワーキンググループ会議 ・アンケートの集計について
7	平成 29 年 7 月 10 日	第 3 回草加市子ども読書活動推進計画検討委員会 ・アンケートの集計分析報告（第 1 回） ・計画（案）について
8	平成 29 年 8 月 4 日	草加市立図書館協議会 ・アンケートの集計分析報告及び計画（案）について
9	平成 29 年 8 月 17 日	第 4 回草加市子ども読書活動推進計画検討 ワーキンググループ会議 ・アンケートの集計分析報告（第 2 回） ・計画（案）の検討
10	平成 29 年 9 月 28 日	第 5 回草加市子ども読書活動推進計画検討 ワーキンググループ会議 ・計画（案）の細部検討
11	平成 29 年 10 月 5 日	草加市社会教育委員会議 ・計画（案）について意見照会

	月　日	内　　容
12	平成 29 年 10 月 13 日	第 4 回草加市子ども読書活動推進計画検討委員会 ・計画（案）の細部検討
13	平成 29 年 10 月 25 日	教育委員協議会 ・計画（案）について中間報告
14	平成 29 年 11 月 10 日	第 5 回草加市子ども読書活動推進計画検討委員会 ・計画（案）の検討及びパブリックコメントについて
15	平成 29 年 11 月 17 日	草加市立図書館協議会 ・計画（案）について意見照会
16	平成 29 年 11 月 17 日	図書館ボランティア草加との懇談会 ・計画（案）について意見照会
17	平成 29 年 11 月 22 日	教育委員協議会 ・計画（案）について報告
18	平成 29 年 12 月 4 日	草加市小学校長研究協議会 ・計画（案）について意見照会
19	平成 29 年 12 月 8 日	草加市中学校長研究協議会 ・計画（案）について意見照会
20	平成 29 年 12 月 14 日	草加市ＰＴＡ連合会本部会 ・計画（案）について意見照会
21	平成 29 年 12 月 18 日 ～平成 30 年 1 月 20 日	計画（素案）についてパブリックコメントによる意見照会　提出された意見：２団体２個人、合計２２件
22	平成 30 年 2 月 7 日	教育委員協議会 ・パブリックコメント報告及び市教育委員会の考え方・対応について意見照会
23	平成 30 年 2 月 7 日	第 6 回草加市子ども読書活動推進計画検討 ワーキンググループ会議 ・パブリックコメント報告及び市教育委員会の考え方・対応について意見照会
24	平成 30 年 2 月 23 日	草加市立図書館協議会 ・パブリックコメント報告及び市教育委員会の考え方・対応について意見照会
25	平成 30 年 3 月 22 日	草加市教育委員会第３回定例会 ・計画の制定について議決
26	平成 30 年 4 月 1 日	草加市子ども読書活動推進計画　施行

わくわくする、
新しい本との出会い
公民館図書室

子どもたちの笑顔を思い浮かべながら
破けた絵本を直します
中央図書館・ボランティア

草加市子ども読書活動推進計画
平成３０年度ー平成３５年度

平成３０年３月発行
編集・発行　草加市教育委員会
草加市立中央図書館
〒340-0041　草加市松原一丁目１番９号
TEL 048-946-3000　FAX 048-944-3800
http://www.lib.city.soka.saitama.jp/